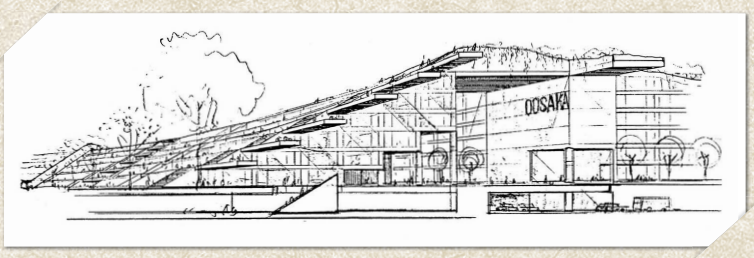
建築とまちづくりNo.513
2021年 November 臨時増刊

1981年8月18日第3種郵便物認可
2021年11月21日発行 11月号臨時増刊
ISSN 0389-6218新建築家技術者集団

新建築家技術者集団50周年

未来への会員アンケート
新建白書2020



新建築家技術者集団

目次

はじめに …… 3

新建会員の実態と課題

1章　基礎項目 …… 5
2章　仕事と労働環境 …… 15
3章　家族・家庭生活 …… 30
4章　ジェンダーからみた新建会員 …… 39
5章　地域活動・社会貢献 …… 50
6章　新建について …… 55
7章　新建の未来に向けて …… 68
8章　会員自身のこと …… 76

自由回答に寄せられた声 …… 83

提言 from アンケートワーキンググループ …… 91

資料編
会員アンケート票 …… 95
単純集計結果 …… 105

表紙写真キャプション（左上から）
「新建第1回大会」／『新建』1号／『建築とまちづくり』500号
「2019年建築とまちづくりセミナーin福岡」／「築地市場見学会」
「奈良支部講演会」／「松代象山地下壕見学会」／「2016年全国研究集会in吉野　ハンドベル演奏」
「2018年建築とまちづくりセミナーin札幌　見学会」／「大阪梅田・緑の丘ギャザーズ構想」／「2017年新建賞大賞楯」

新建築家技術者集団50周年
未来への会員アンケート　新建白書2020

はじめに

『新建白書』は、1970年12月６日に設立された新建築家技術者集団（以下「新建」）の50周年を機に企画され刊行された､初めての会員白書です。

50年の活動を経て、一体どのような会員が参加しているのか、これを知ることは、今後の50年を展望するために、意味あることではないかというのが動機でした。言い換えれば、これまでどういう「建築家・技術者」が参加しているのか、全容を知らずにきたということです。本来会員の実態や要求を把握することは、組織の基本的作業だと思います｡こうしたことを考えながら議論を重ね、『新建白書』は新建50周年事業として位置づけが定まりました。

新建「白書」と名付けたのは、まず新建会員の実態をリアルに浮かび上がらせ、その特徴をつかみ、この実態から、新建が今後どのような活動を行うか、戦略・政策をつくっていくための基礎資料を用意したかったからです。

新建が設立される以前、新日本建築家集団（NAU、1947年設立）では、建築家の他、主要な建築学科をもつ大学等の研究者が多く、行政関係者も参加していました。

その後、1969年に「新建築技術者集団」が設立され、現在の「新建築家技術者集団」につながっていきます。新建設立の基調報告では、その目的を達成するために組織（会員）の対象を「すべての建築家・技術者・研究者・教育者・大学院生・計画者・ジャーナリストなど」さらに「いわゆる建築技能者」や「土木技術者など他分野の方々の参加も歓迎します」と幅広い範囲の人々を対象にしていました。実際にどのような方が参加したかは、当時の名簿等を探し出し、改めて調べる必要がありそうです。

設立20周年の時、新建は『生活派建築宣言　21世紀をめざす建築とまちづくりの11章』（1991年）を出版し、「生活派の建築」を課題として位置づけました。さらに40周年を契機に『社会派建築宣言』（2013年）を発表しています。建築とまちづくりを一体的に捉え、私たちが住み手・使い手と共に創造するのは「誰もが人間らしく生きる生活空間」であることを表明しました。

21世紀に入り、地球環境問題は喫緊の課題になりました。併せて核兵器のない平和な地球、誰もが人間らしく生きる権利があること、ジェンダー平等が実現すべき課題となっています。それを会員一人一人の地域においてどのように展開するかが問われる時代になりました。

そうした新建活動の変化と、社会及び建築界の変化に併せて、「建築家」「技術者」の職能像は随分変化してきましたし、参加する会員の職種も多彩になっています。

新建は、その活動の理念を新建築家技術者集団憲章にまとめています｡設立当初の1970年には「綱領」としていましたが、2001年11月24日に新建築家技術者集団憲章という形にまとめ直したものです。ここに簡潔に新建の目標を掲げたものです。

新建はこの憲章の理念に沿って活動する人々によって構成された、開かれた組織です。

建築技術者の実態調査

ところで、建築家・技術者の実態について他にどのような調査があるでしょうか。

まず、日本では建築家（建築士）の組織である日本建築家協会、日本建築士会連合会では実施していません。日本建築学会では2007年に「設計事務所実態調査」、2003年から建築教育委員会で「建築系大学卒業生の進路に関する調査」を実施しており、2012年は５回目でした。また、建築技術教育普及センターでは各国の建築家の資格制度について、建設政策研究所では建築士を含む首都圏建設労働者の賃金の実態と要求アンケートを行っています。これらは建築家・技術者の部分的実態を描いており、新建で行ったような会員の全体的調査というものはありません。

１つだけ同様の調査を行ったものとしては、国際女性建築家会議日本支部（UIFA　JAPON）により2016年に発表された国内会員と海外会員の実態調査があります。

他方、ヨーロッパ建築家会議 Architects' Council of Europe（ACE）では、近年ほぼ毎年建築家の実態調査を報告しています。最新のものでは2021年４月に発表した『Architectural Profession in Europe2020』があります。ここでは56万人の建築家を対象に、サステナブル建築は57%の建築家がデザインし、コロナ禍で仕事を中断している人が４%、仕事時間が少なくなった人が21%、フルタイムが75%、女性は42%、40歳未満が34%等といったことが、A4・108頁にわたり、ヨーロッパ全体と各国ごとに詳細にわかるようになっています。

アンケートの目的

改めて新建白書の目的をあげておきます。

第１は、会員の仕事や家庭、社会貢献や地域活動などの実態をつかむことにより、新建という会員の特徴と課題を浮き彫りにすることです。

第２は、新建活動の評価です。会員と新建とのかかわり、新建の運営、『建まち』誌等の評価を行い、改善の方策を探ります。

第３は、アンケート結果を踏まえて、今後の活動へのワーキンググループからの提言を行うことです。

そして、こうした初めてのデータを通して、新建がよりよい生活空間の創造をめざし、多くの建築人や建築・まちづくりを志す若い人々、かかわりのある全ての人々と共に歩んでいく道筋を掴んでいきたいと思います。

白書の構成

新建会員の実態と課題、及び新建の未来への10の提案からなっています。

アンケートの経過

2019年１月の第31回大会期第３回全国常任幹事会

「会員各自がどんな現状にあるのか、新建への期待も知り、これからの新建を考えていく、全会員アンケート」提起。

ワーキンググループ７人が組織

地域や年代を考慮して2020年４月から本格的に活動を開始。

代表：永井幸、川本真澄、桜井郁子、高田桂子、甫立浩一、三浦史郎／アドバイザー：中島明子

アンケート票の作成

多様な会員の実態をどのような項目で把握できるのかについて随分苦労し、新建の活動について改めて深く考えさせられました。

『建築とまちづくり』誌2020年６月号「新建50周年・未来へのアンケート」掲載

Google フォームと直接回収とを併せて、締め切りを７月末から８月に延長

半数近く（350人）に及ぶ会員から回答

この過程では、支部から、あるいはワーキンググループから会員に直接呼びかけ、状況を伺ったりしたことも、貴重な経験となっています。

2020年12月『建まち』誌に単純集計を中心に中間報告

その後アンケートの集計・分析・執筆。集計では馬場麻衣さん（北海道支部）に大変お世話になりました。

アンケートの限界と今後の課題

最後に、このアンケートの限界と課題について述べておきます。

まず第１にあげておくことは、アンケートは会員の半数が回答したとはいえ、半数の方の声は入っておりません。そこにこの白書の限界があることを知った上で読む必要があります。

第２は、当初からアンケートは単に数字の羅列ではなく、数字に表れた会員の真の姿、真の声をつかもうと努力しました。しかし、慣れない集計方法等で苦戦し、必ずしも十分に分析し、関連文献に目を通し、ワーキンググループで議論する時間が取れなかったとも思います。

第３に重要な点は、アンケートが提起されアンケート票を作成した時には、新型コロナ感染がこれほどまでに長期化するとは考えが及ばず、その影響について聞いていないことです。感染が全国的に拡大し長期化する中で、仕事も働き方も暮らし方もそして社会も随分変化し、そこから新しい試みもあるかと思いますが、それにはほとんど触れられませんでした。

また、数字の影に隠れているひとりひとりの会員の声を取りあげたり、テーマに応じて座談会を実施して分析を膨らませたかったのですが、間に合いませんでした。

これらの限界については、むしろ今後の課題とさせて頂きたいと思います。

この『白書』を資料として会員への理解を深め、全国、地域で議論し、そこから活動の課題や展望を見出す作業を是非お願いしたいと思います。

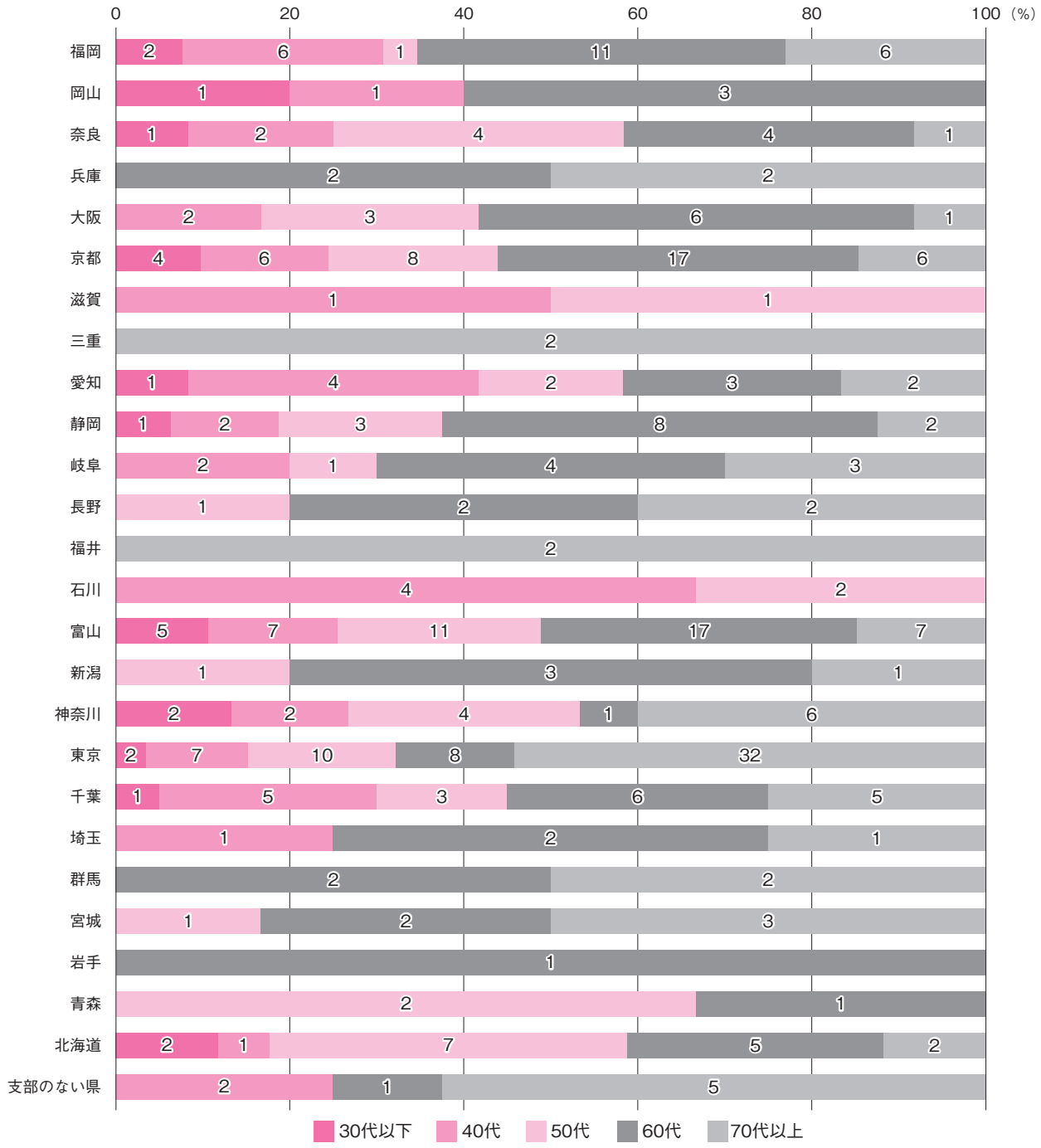
第１章　基礎項目

１－１　会員の支部別年齢構成

全ての支部および支部のない会員から、およそ会員数の半数より回答を得た（支部により、20%～100%の回答率）。

支部により年齢構成がまちまちである。回答した人数を年齢別に見ると全体に30代以下は少ない。30代以下が20%あるのは岡山支部のみで、40代以下が40%以上であるのは石川、愛知、滋賀、岡山の各支部のみである。会員の高齢化が著しい（**図１－１**）。

図1-1　支部別年齢構成（各項目の数字は実数（人））



1－2　会員歴

会員歴40年以上が1/4を占める

会員歴40年以上が90人（26%）ともっとも多く20年以上、10年以上、30年以上と続く。入会して10年未満は79人（23%）しかなく、新規入会数の減少が顕著である。新建設立10年以内に入会した会員の多くが退会せずに頑張っている（**図1－2－1**）。

年齢別にみると、70代以上の会員歴40年以上が62人（18%）ともっとも多く、次いで60代以上70代未満の会員歴40年以上が28人（8%）と多い。50代60代の会員歴20年以上30年未満が合わせて50人（15%）である。5年未満の会員歴の中で40代以上の入会が34人（81%）を占め、30代以下の入会が8人（19%）と少ない。60代以上の入会もあるのは、退職を機に地域のまちづくりに関わり、新建に入会する人も多いのではと推察する（**図1－2－2**）。

支部別でみると、青森、埼玉、千葉、石川、愛知、大阪、奈良、福岡は5年未満の会員歴の会員の割合が多いのに対し、東京、静岡、神奈川、京都、富山などは少ない。回答では、この5年に入会が一人もいない支部が数支部ある（**図1－2－3**）。

図1-2-1　会員歴

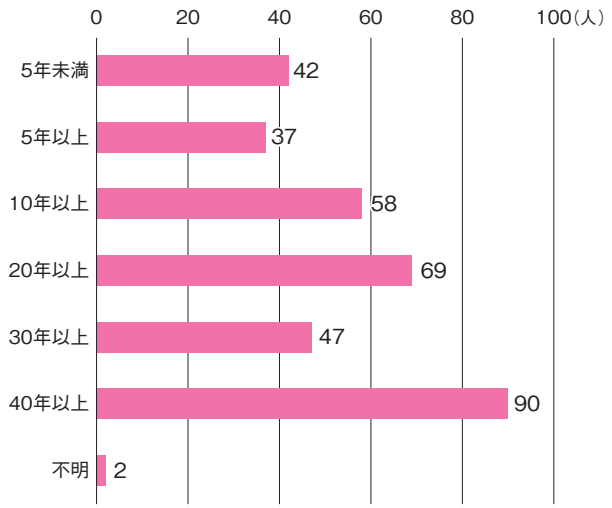


図1-2-2　年齢別会員歴

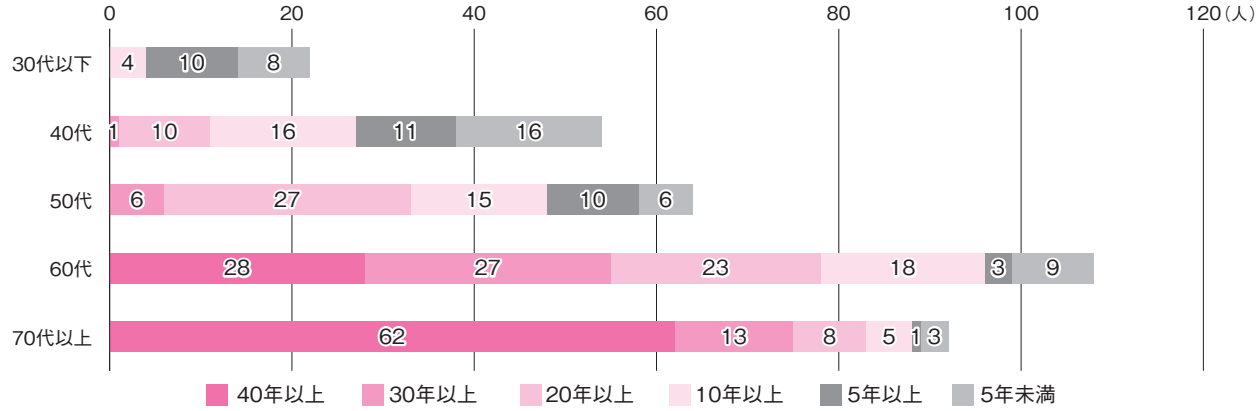
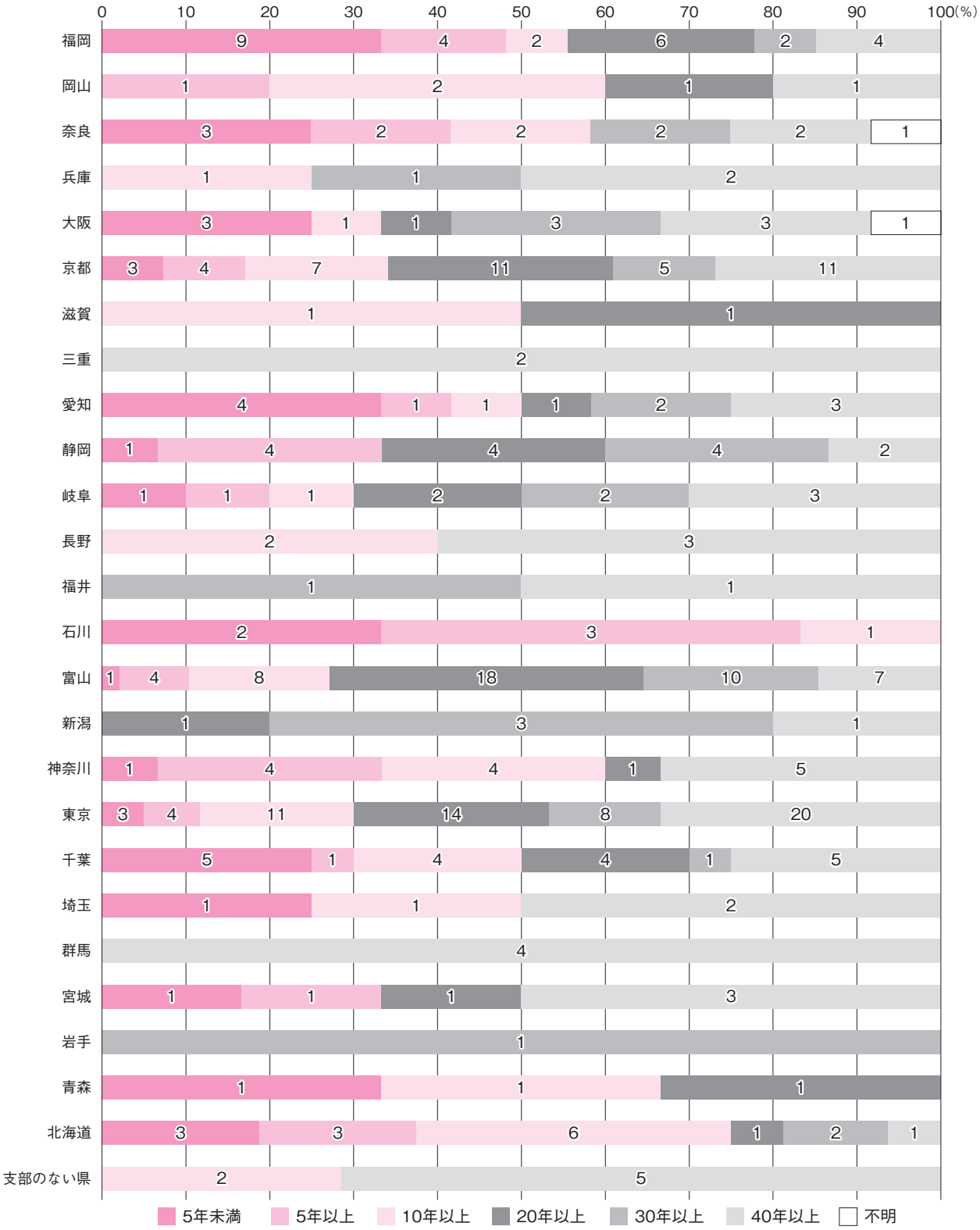


図1-2-3　支部別会員歴（各項目の数字は実数（人））



1－3　入会したきっかけ

会員の勧誘が最も多い

会員の勧誘が154人(44%)ともっとも多く、次いで、新建の理念に共感が119人(34%)、新建活動(企画)に参加が106人(30%)、職場のつながりが81人(23%)と続く。会員拡大には会員による勧誘が大変重要であると言える。新建の理念に共感して入会する人も多く、憲章の意味合いは大きい。近年では職場や研究室つながりは少ない（図１－３－１）。

年齢別にみると、30代以下の入会理由は新建企画への参加または職場のつながりである。40代～60代は会員の勧誘がもっとも多く、70代は新建理念に共感がもっとも多い。60代後半以上の会員は、建築学生運動のつながりでの入会も新建の特徴と言えそうだ。新建理念への共感は２番目に多いが、30代以下の割合が６人（５%）と少ない（図１－３－２）。

図1-3-1　入会したきっかけ（複数回答）

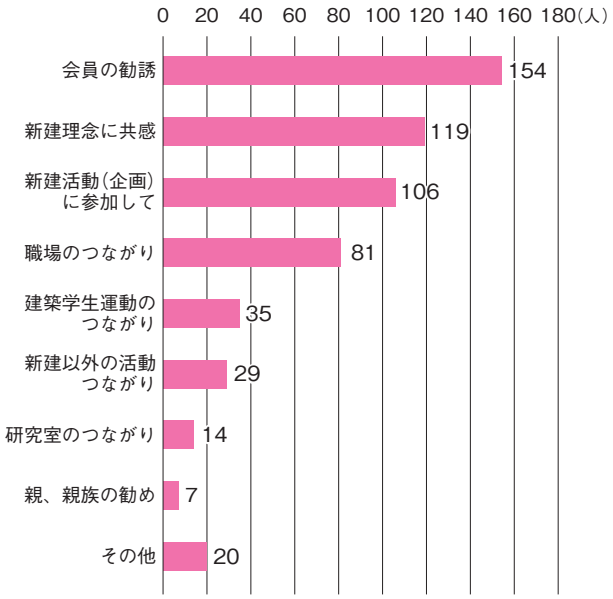
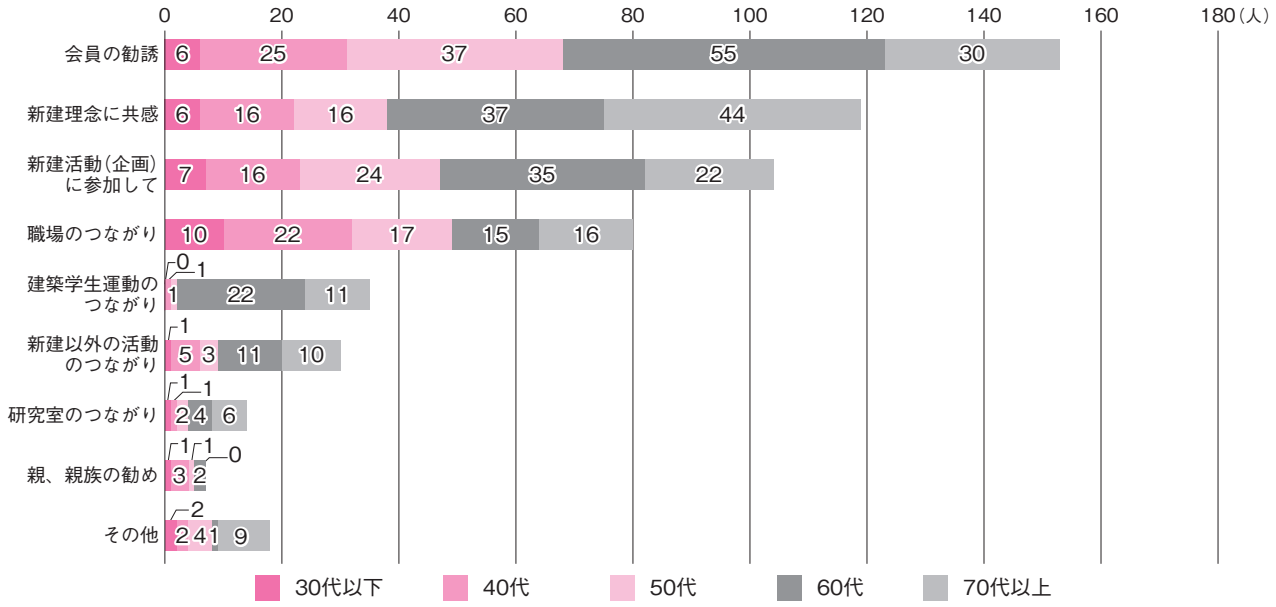


図1-3-2　年齢別入会のきっかけ

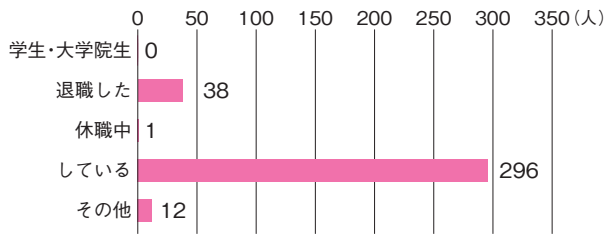


1－4　現在の仕事

ほとんどの会員が仕事をしている

退職し、仕事をしていない会員が38人（11%）いる。ほとんどの会員は仕事をしている。退職後にNPOなどの団体で働く会員も含まれる。学生会員はおらず、休職中が１名いる（図１－４－１）。

図1-4-1　就労状態



１－５　新建以外の建築諸団体への加入

建築士会が多い

新建以外には建築団体に入っていない会員は115人（33%）であった。他団体への加入でもっとも多いのは建築士会113人（32%）であり、次いで建築学会が51人（15%）、建築士事務所協会が39人（11%）と続く。建設労働組合に加入が35人（10%）と一定数いる（**図１－５－１**）。２以上の建築団体に加入している会員も100人（29%）と多い。建築士会に加入している会員の多くがそのほかの建築団体にも加入している。その他の団体では、日本住宅会議、日本民家再生協会、建築ネットワークセンターなどがある。

年齢別にみると、建築士会へは60代44人（13%）50代26人（７%）70代以上は20人（６%）と加入が多く、30代以下は７人（２%）と加入が少ない。建築学会は70代以上19人（５%）60代10人（３%）であり、30代以下は４人（１%）と少ない。建築士事務所協会への加入は60代17人（５%）50代10人（３%）70代２人（0.6%）であり、30代以下は１人（0.3%）と加入が少ない。30代以下の会員は経済的にも、新建以外の団体に加入している会員は少ないと推測する。また退職した人は会費負担が厳しいためか、新建以外の団体を退会する人も多いと推測する（**図１－５－２**）。

これを職種別にみると、設計事務所に勤務または主宰している会員の内、建築士会への加入は86人(25%)と一番多く、建築士事務所協会36人（10%)、その他36人（10%）、建設労働組合23人（７%）、建築学会21人（６%）と続く。工務店の会員も建築士会への加入が18人（５%）と建設労働組合９人（３%）を上回っている。教育職の会員は建築学会への加入が14人（４%）と多く、その他８人（２%）、都市計画学会７人（２%）と続く。建設労働組合への加入は工務店の会員はもとより、設計事務所の会員の加入が多い。これは設計事務所が地元の工務店とつながりをもって仕事をしている人が多いことが推察される（**図１－５－３**）。

図1-5-1　新建以外の建築諸団体への加入状況（複数回答）

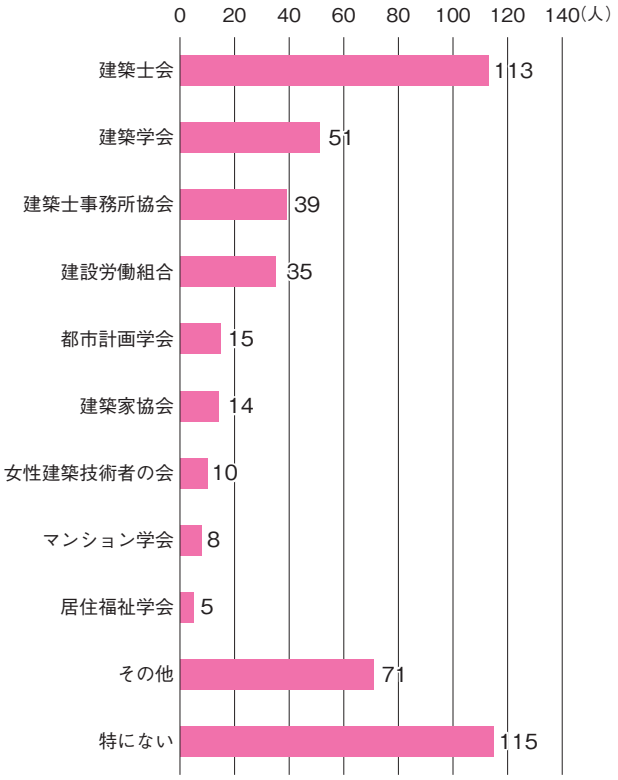


図1-5-2　年齢別建築団体加入状況

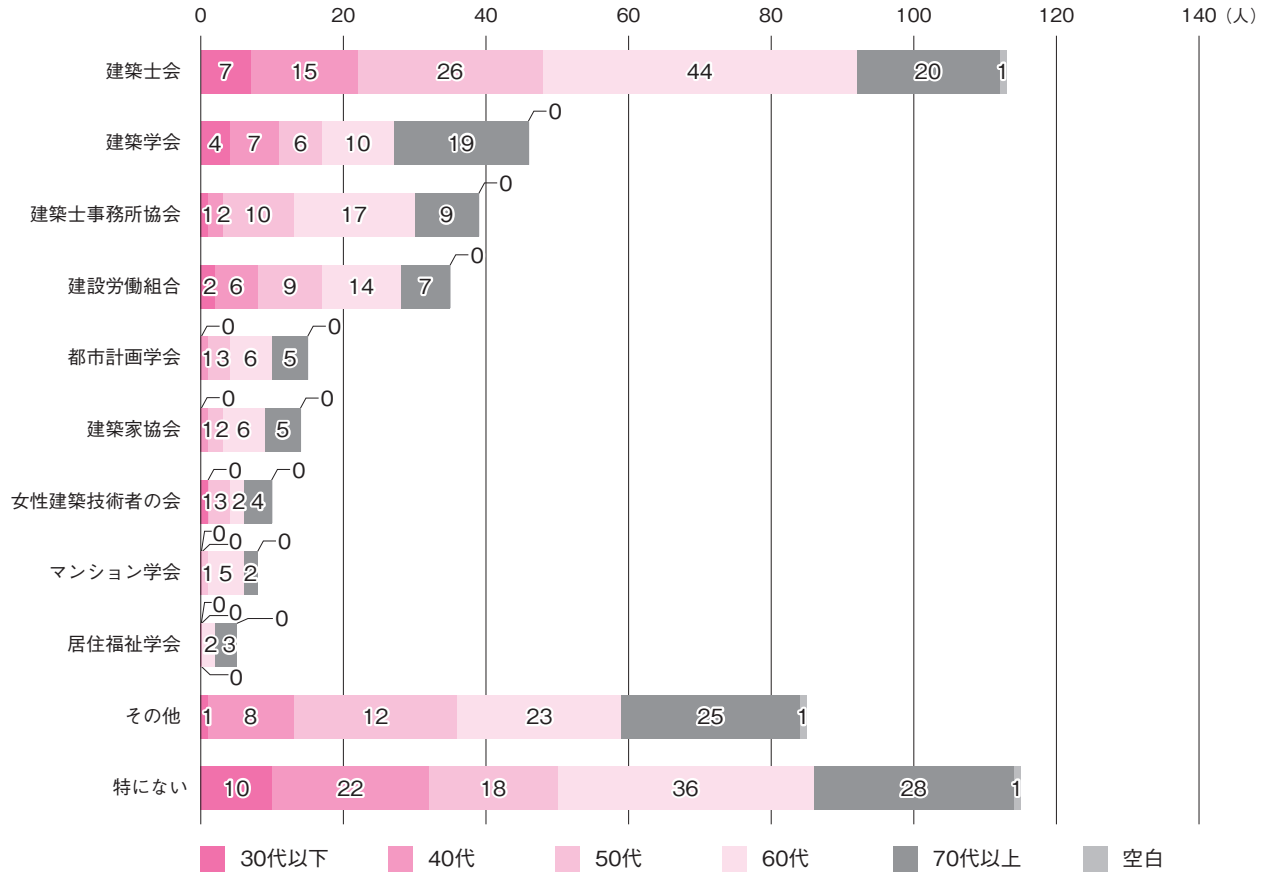
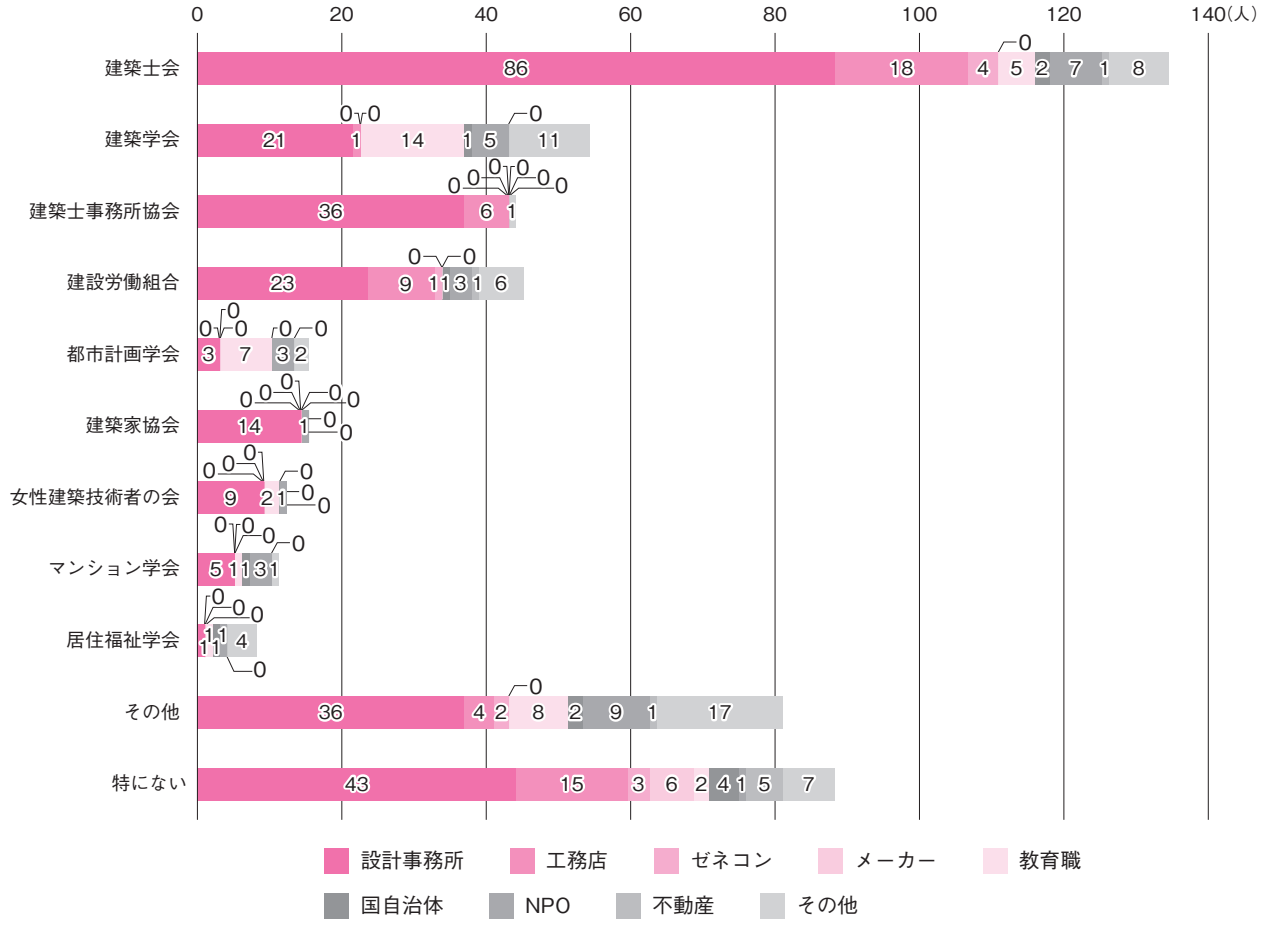


図1-5-3　職種別建築団体加入状況

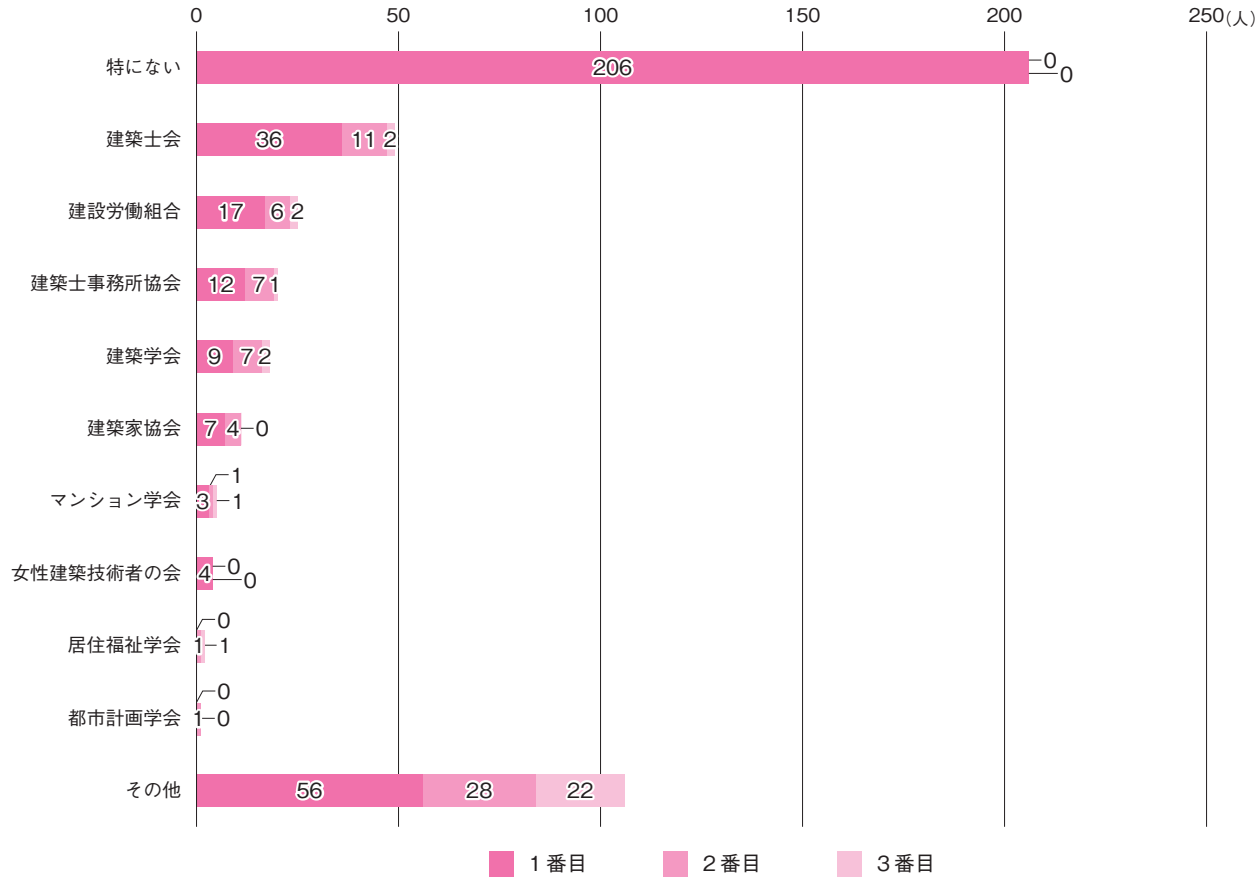


１－６　新建以外の建築諸団体で力を入れている団体（３つまで回答）

建築士会、建設労働組合への力の入れようが大きい

力を入れている団体を３つまでの合計（特にない・無回答を除く）で見ると、その他の団体が106人（44%）ともっとも多く、次に建築士会が49人（20%）、建設労働組合25人（10%）建築士事務所協会20人（８%）、建築学会18人（７%）と続く。建築士会に力を入れる会員は多いが、２番目に建設労働組合であることは、新建に町場の工務店や設計事務所の多いことが理由の一つと推察される。意外と建築士事務所協会への力の入れようが低いことが特徴としていえる。もっとも多い、その他の団体の内訳は精査が必要だが、例えば「日本民家再生協会」のように、ある目的のために活動している建築団体への積極的な参加は少なくないと推察する。また、力を入れている団体の一番目だけを見ると、特にない（無回答含む）が206人（59%）あり、加入しているだけで特に活動していない団体も多いことが分かる（**図１－６**）。

図1-6　力を入れている建築団体

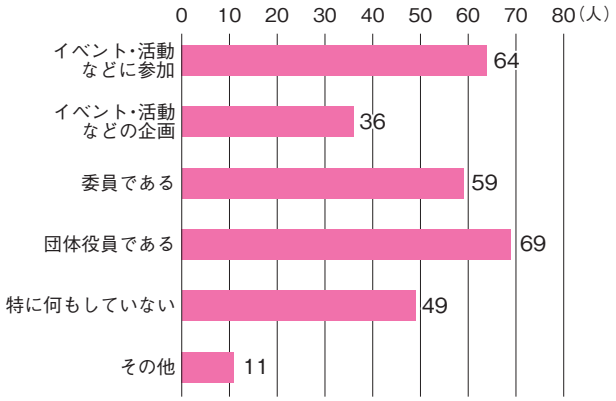


1－7　建築諸団体での活動状況

他の建築団体で役員や委員になっている会員は多い

建築諸団体でのイベント・活動などに参加は64人（19%）と多いが、団体役員69人（19%）、何かしらの委員になっている59人（17%）も多い。７割弱の会員が新建以外の団体に加入し、団体役員や委員になっている人も多いことがわかる。工務店や大工、職人などは建設労働組合で活発に活動していると推察する（図１−７）。

図1-7　建築諸団体での活動状況（複数回答）

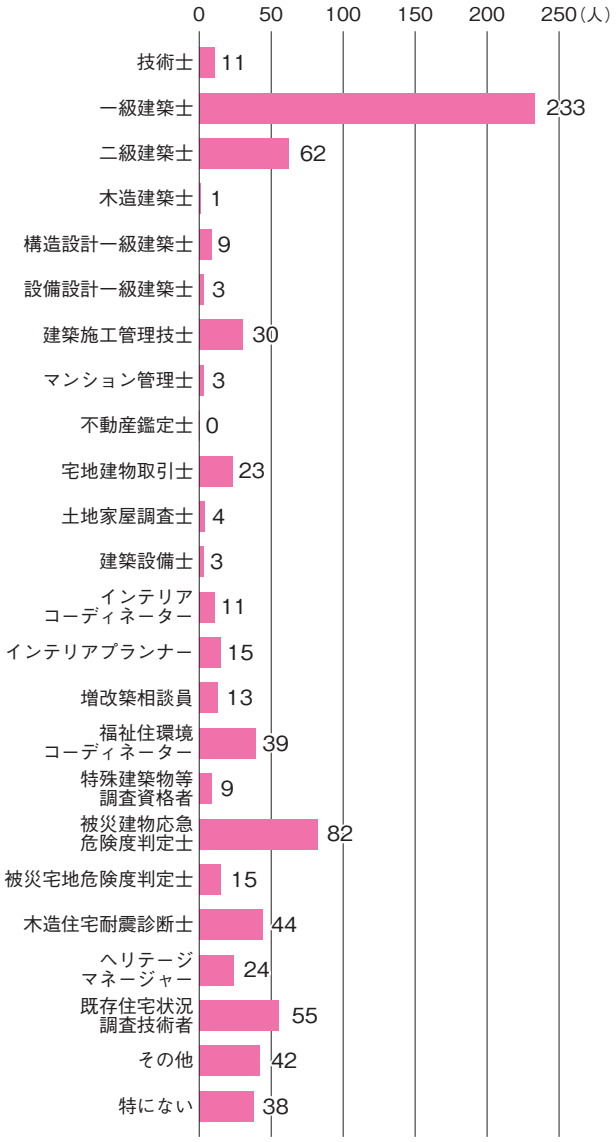


1－8　職能関連の資格

７割弱が一級建築士所持

各資格の所持率（全回答者数に対する比率）は一級建築士233人（67%）ともっとも多い。次いで被災建物応急危険度判定士82人（23%）、二級建築士62人（18%）、既存住宅状況調査技術者55人（16%）、木造住宅耐震診断士44人（13%）、福祉住環境コーディネーター39人（11%）、建築施工管理技士30人（９%）と続く。被災建物応急危険度判定士は震災時の対応に職能を活かしたい気持ちから比率が多いと推察する。会員の内312人（89%）が職能関連資格を所持していることは特筆すべきことである。また、一級建築士所持者で、被災建物応急危険度判定士、既存住宅状況調査技術者、木造住宅耐震診断士、福祉住環境コーディネーター、建築施工管理技士などの資格を合わせて所持している人は多い。また建築関連資格としては、適合判定士（建築主事）、再開発プランナー、CASBEE 建築評価員、古民家鑑定士、造園施工管理技士、歴史建造物修復士、DIY アドバイザーの資格所持者もいる。行政書士、看護師、保健師、心理カウンセラー、ペルパー２級、ファイナンシャルプランナー、医業経営コンサルタントなどの幅広い職種の資格保持者もいることが新建の特徴ともいえる（図１−８）。

図1-8　所持資格（複数回答）

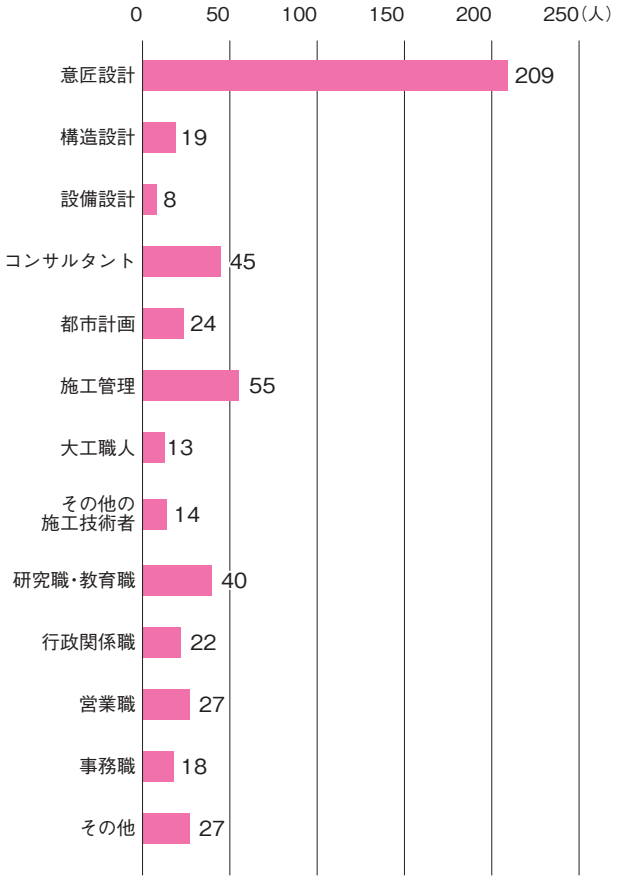


１－９　新建会員の職種

意匠設計が圧倒的に多い

回答した会員の209人(60%)が意匠設計である。次に施工管理が55人（16%）、コンサルタントが45人（13%）、研究職・教育職が40人（11%）と続く。大工その他の施工技術者を合わせると27人（８%）と行政職22人（６%）を上回る。また行政書士、旅行代理店、経営コンサルタント、保健師、写真家、造園設計、文化財補修技術者などの職種も１名ずついる（**図１－９**）。

図1-9　職種（現職、元職を問わず）(複数回答)

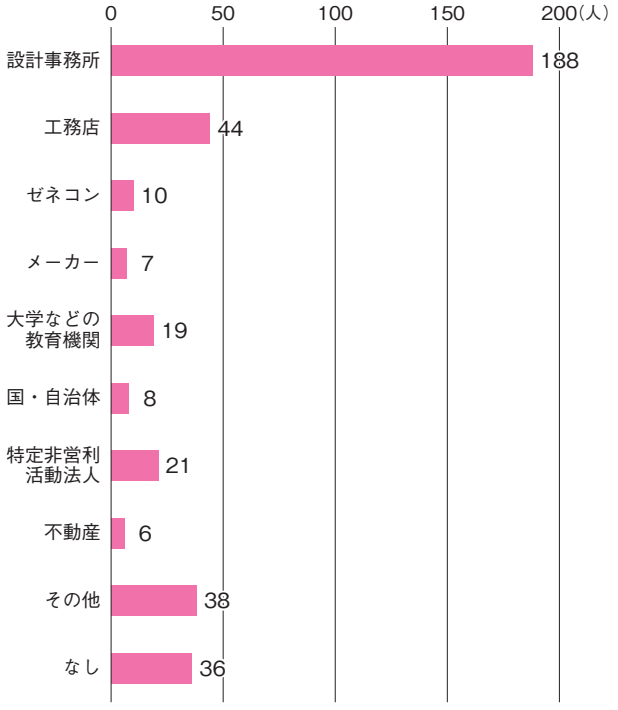


１－10　新建会員の所属

設計事務所が圧倒的に多い

回答した会員の内188人（54%）が設計事務所所属である。次いで工務店が44人（13%）、NPOが21人（６%）、教育関連が19人（５%）となっている。対して、ゼネコン、自治体職員、メーカー、不動産は少ない。設計事務所の次に工務店が多いこと、またNPO職員も意外と多いのも新建の特徴と言える。また、設計事務所と教育職との兼業が７名、設計事務所やコンサルタントとNPOの兼業も11名と比較的多い。農業との兼業もある（**図１-10**）。

図1-10　所属（現職、元職を問わず）(複数回答)



第１章　まとめと課題

【まとめ】

新建会員の特徴

新建会員は30代以下の若い会員が大変少なく、50代以上が多い。この５年間に入会した会員も40代以上が８割を超えている。会員の入会きっかけは会員による勧誘がもっとも多いが、現在はコロナ禍でオンライン以外の企画ができず、会員勧誘もしづらい状況である。現役一線を退いても、NPO や地域団体など、何らかの仕事や活動をしている会員が大半を占める。また会員の職種は６割が意匠設計であり、所属も６割弱が設計事務所であることも特徴である。

建築関連団体への加入

会員の1/3は新建以外の建築関連団体に加入していないが、2/3は建築士会をはじめ、多くの建築団体に加入している。なかでも「日本住宅会議」「日本民家再生協会」などのように、ある特定の目的で活動する団体で積極的に活動していることは、新建会員の特徴と言える。また多くの設計者が建設労働組合にも加入していることから、町場の工務店、大工とのつながりで仕事をしていると思われる。一方で工務店や大工は組合活動がメインで、新建活動への関わりが少ないのではないかと推察する。

職能関連資格

職能関連資格を、会員の９割近くが所持している。特に一級建築士は７割弱の取得率である。また建築関連資格以外の資格所持者も多いことも特徴であった。

【課題】

１．若手の会員を増やそう

新建の高齢化は最も検討すべき課題だろう。若い人にとって魅力的な新建にしていかなければ、このままだと自然消滅してしまう。以前は新建憲章に共感して入会した会員は多かったが、若手にも新建憲章を具体的にイメージできるようにしていく必要性を感じる。若手にも魅力的な企画のバリエーションや勧誘の仕方を研究する必要もあろう。

２．他団体へのアピール

会員の多くは多様な建築諸団体に加入している。これらの建築諸団体との連携や共同行動などを増やしていき、新建のアピールをもっとできないものか。新建パンフレットや『建まち』誌を有効活用したい。

３．幅広い職種の会員にも魅力的な新建

圧倒的に多い意匠設計者以外の職種の会員にも魅力的な新建にしていきたい。工務店、職人、研究教育職、行政職員、NPO などの職種の会員をもっと増やすようにするには、どうしたらよいか。まずは職種間での情報交換をもっと行い、広い職種を対象とした魅力ある企画開催、建まち特集なども課題である。また、保育士、ファイナンシャルプランナー、弁護士など建築以外のさまざまな資格保持者もいる。建築とまちづくりとの関連性を高めるうえでも、もっと交流していく必要性を感じる。

４．資格を仕事にどう生かしていくか

技術の向上のために様々な資格を所持している会員は多い。建築士会の CPD や専攻建築士制度にどの程度参加しているかの把握も必要であったが今回はできなかった。例えば、福祉住環境コーディネーターや既存住宅状況調査技術者などの所持者は多いが、資格が仕事に生かされているかどうかの実態把握も今後必要である。

第２章　仕事と労働環境

２－１　通勤時間

30分未満の人が全体の７割

通勤時間が０～30分未満が220人で全体の約７割を占めており、自宅あるいは自宅近くで働いている人が多い。１時間以上の通勤時間を取っている人は１割に満たない（**図２－１－１**）。

都市部では交通事情が異なると考え、東京支部の回答と比べたのが**図２－１－２**である。最も多いのが１時間未満と変化し交通事情や住居事情で通勤時間が異なっていることが推測される。

図2-1-1　通勤時間

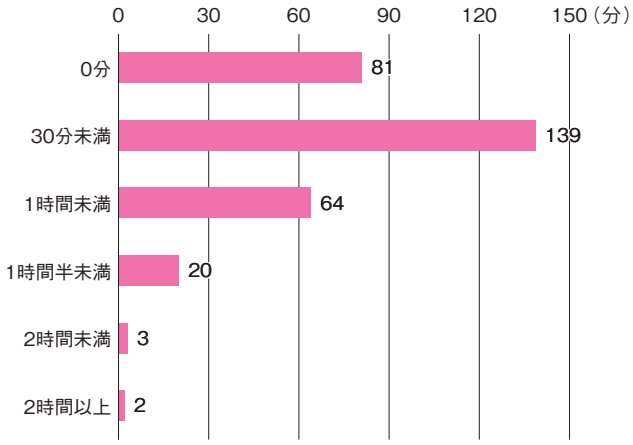
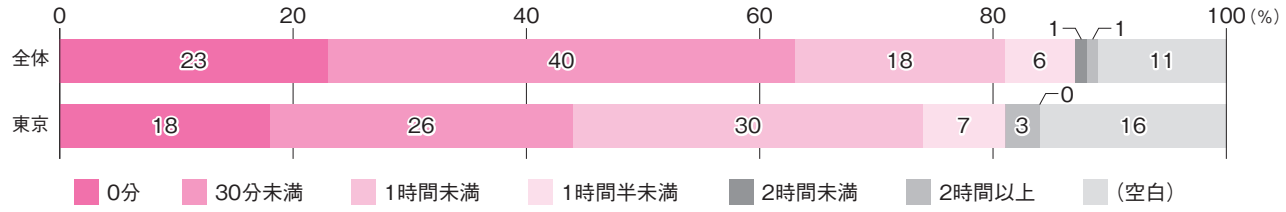


図2-1-2　通勤時間東京支部との比較

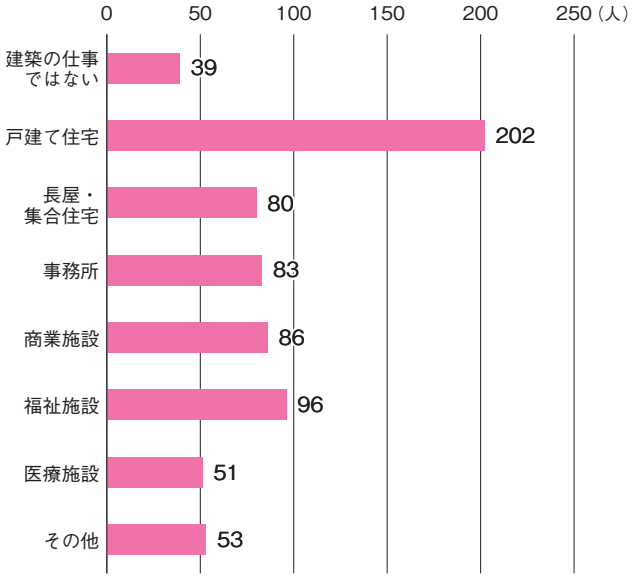


２－２　対象とする建物用途

戸建て住宅中心に幅広い用途を対象

回答者が仕事で対象としている建物用途は戸建て住宅が202人（58%）と一番多くなっている。集合住宅から事務所、商業施設、福祉施設、医療施設ではほぼ同数で25%程度と幅が広い。約１割だが建築の仕事ではない人がいるのが特徴だ（**図２－２**）。

図2-2　対象とする建物用途（複数回答）

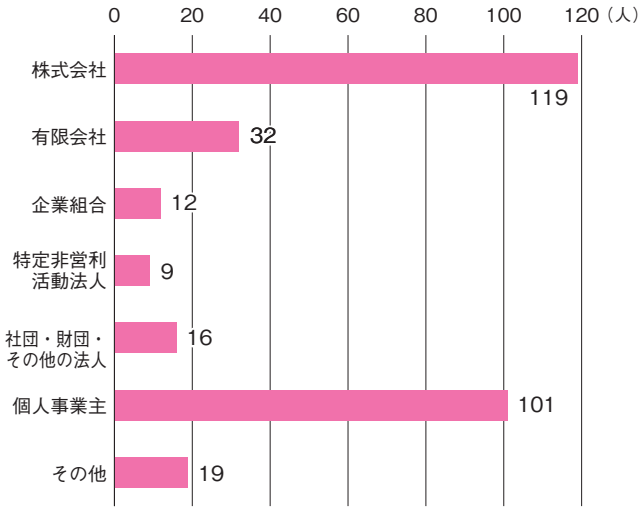


2－3　職場の組織形態

株式会社４割、個人事業主３割

組織形態は株式会社が119人（39％）と、個人事業主101人（33％）が最も多い（図２－３）。

図2-3　職場の組織形態

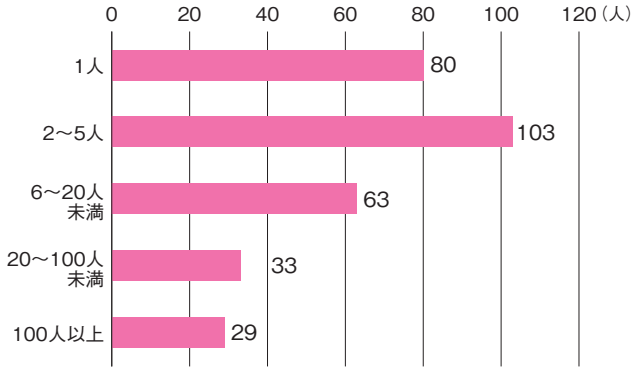


2－4　職場の人数

「５人以下」６割

職場の人数は少人数のところが多く、「２－５人」が103人（33％）、「１人」が80人（26％）であり、５人以下の職場が全体の約６割である。一方、約１割の人が「100人以上」の大きな規模の職場にいる（図２－４）。

図2-4　職場の人数

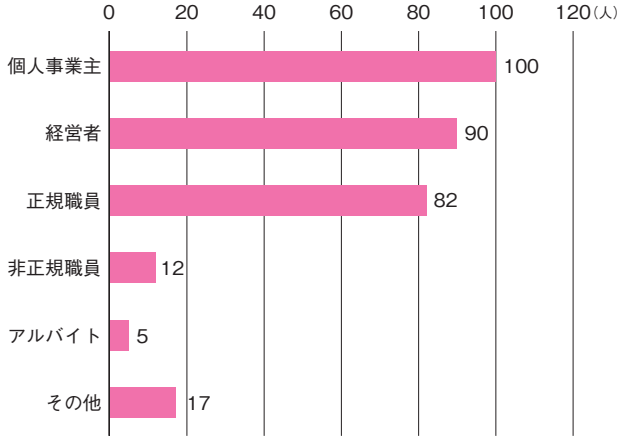


2－5　雇用形態

「個人事業主」「経営者」で６割以上

個人事業主100人（33％）、経営者90人（29％）と雇用者ではない人が６割以上である。正規職員82人（27％）、非正規職員12人（４％）、アルバイト５人（２％）と、雇用者が少ないのが特徴だ（図２－５）。

図2-5　雇用形態



２－６　週平均労働時間

「40時間以上」８割

週平均労働時間は「40～50時間未満」が最も多く101人（37%）。次いで「50～65時間未満」78人（28%）である（**図２－６－１**）。

国が定める法定労働時間は１日８時間、週40時間である。40時間以上と答えた人は210人（76%）であり、法定労働時間からみると多くの人が残業をしている状況である。

雇用形態別に見ると、個人事業主、経営者、正規職員では40時間以上の比率が高く、特に65時間以上の比率が高くなっているのは個人事業主、経営者であり、特徴が見られた（**図２－６－２**）。

図2-6-1　週平均労働時間

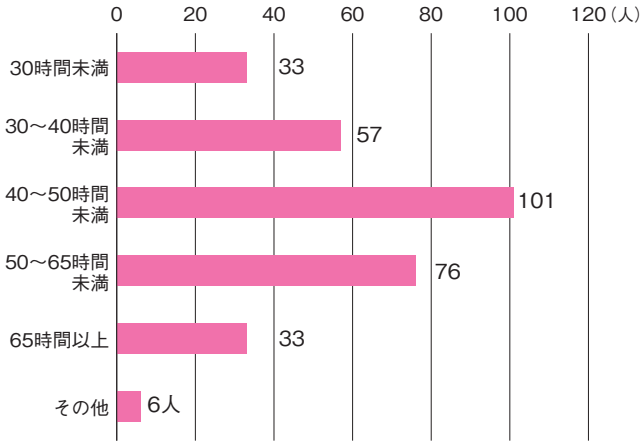
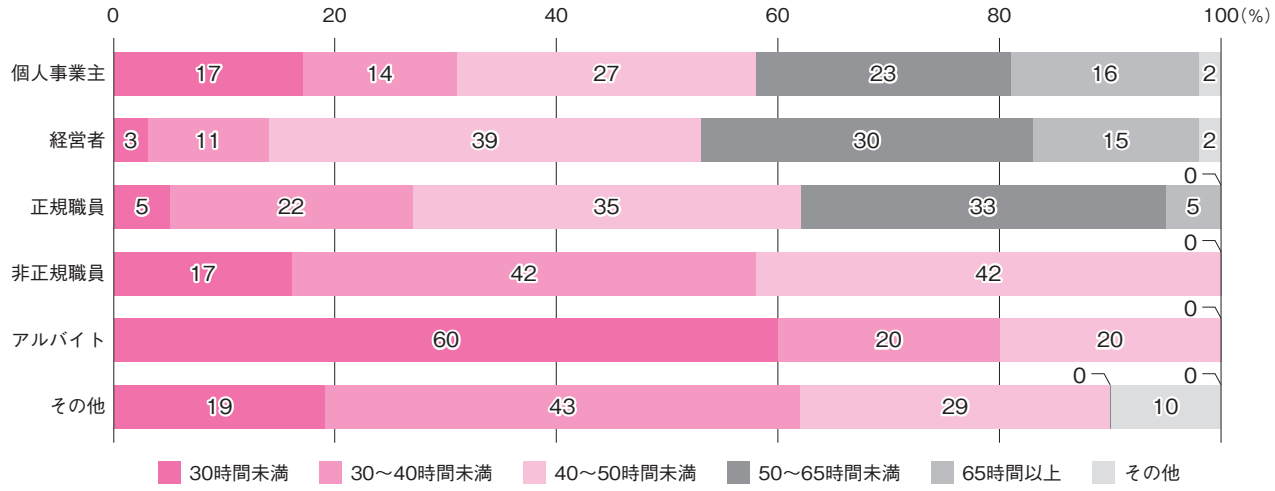


図2-6-2　雇用形態別労働時間



2－7　ワーク＆ライフバランス

「バランスがいい」が半数以上

「バランスがいい」と答えた人が153人（51％）と最も多く半数にのぼる。次いで「もう少し余暇時間や家庭時間が欲しい」と答えた人は３割であった。「余暇時間や家庭時間がほとんどない」「もう少し労働時間を確保したい」という極端な生活実感の人は少ない（**図２－７－１**）。性別を見ると、男性４割、女性５割が「バランスがいい」と答え、女性の方がバランスがいい生活実感になってるようだ。

職場の人数別でみると、「バランスがいい」と感じているのはどの職場人数でも大きくは変わらず約半数の人が答えている。

雇用形態別では、「バランスがいい」と答えた比率が高いのは非正規職員７割。「余暇時間や家庭生活時間がほとんどない」と答えた比率が他より高かったのは経営者、個人事業主、正規職員であった（**図２－７－２**）。

実労働時間別では、実労働時間が多くなると「余暇時間や家庭生活時間がほとんどない」の比率が増加し、65時間以上になると45％と大きくなる。「バランスがいい」比率が半数以上だったのは実労働時間が50時間未満である（**図２－７－３**）。

図2-7-1　ワーク＆ライフバランス

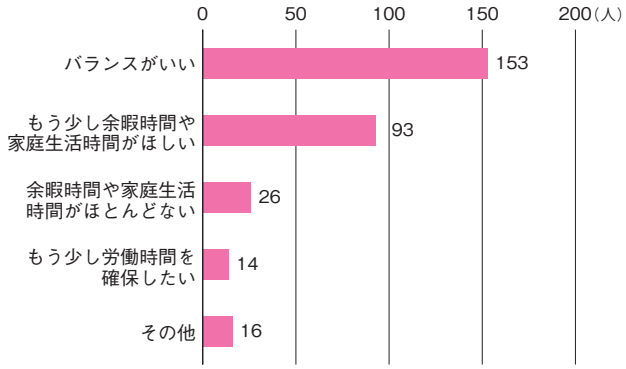


図2-7-2　雇用形態別ワーク＆ライフバランス

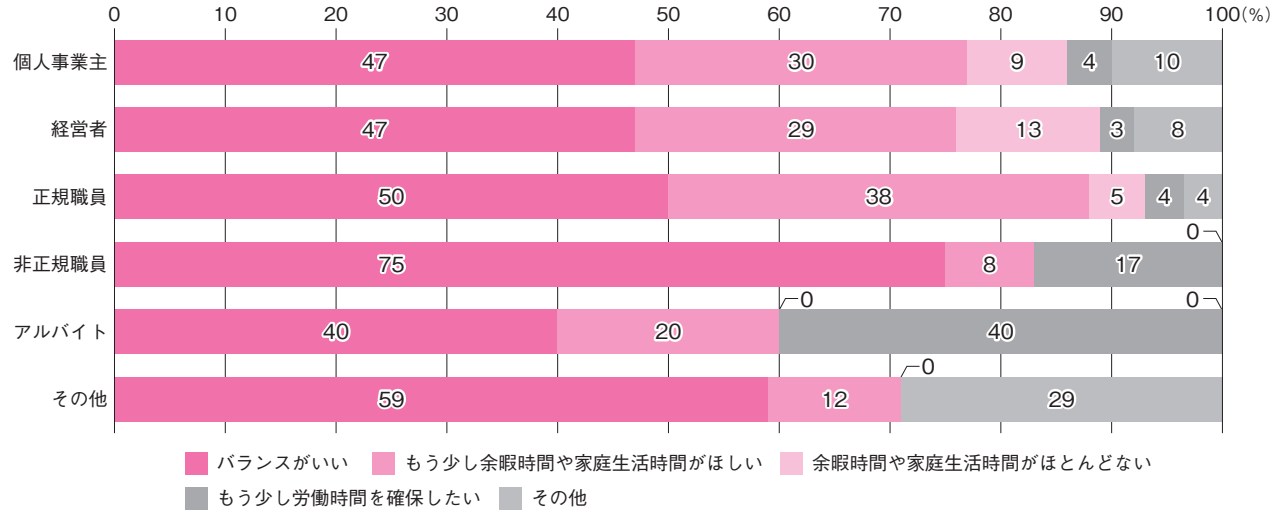
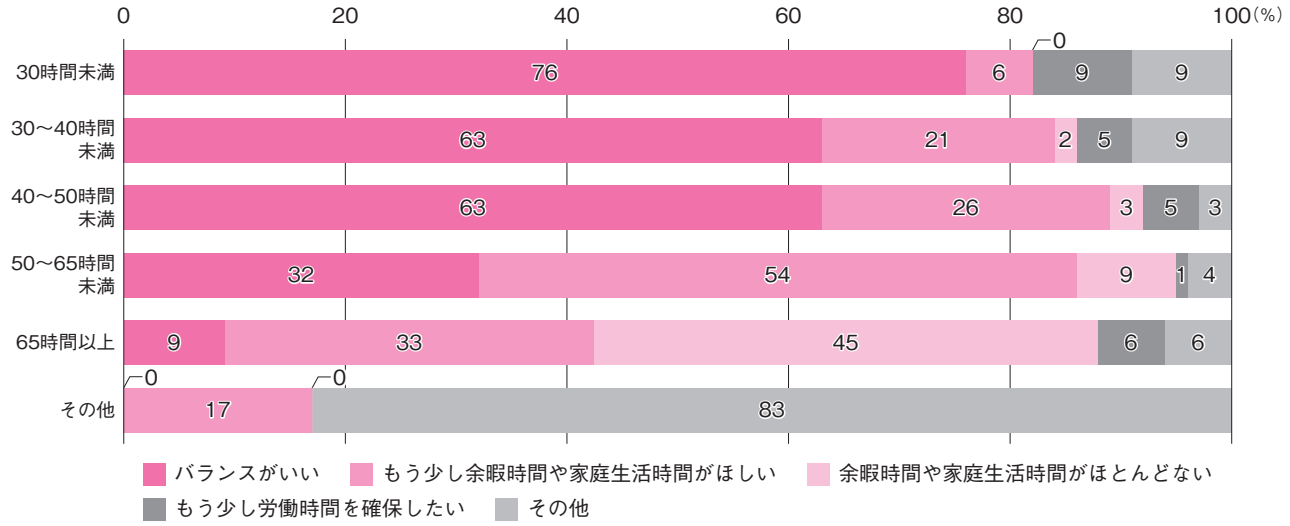


図2-7-3　実労働時間別ワーク＆ライフバランス



２－８　仕事の喜びややりがい

「大いに感じる」「まあまあ感じる」75%

「大いに感じる」94人（30%）、「まあまあ感じる」140人（45%）と両方を合わせると75%になり、仕事に喜びややりがいを感じている人は圧倒的に多い（**図２－８－１**）。

年齢別に見ると、30代以上は年代が上がるほど「大いに感じる」、「まあまあ感じる」の比率が大きくなり、仕事の喜びややりがいを感じている。一方、「あまり感じない」「全く感じない」が他世代より高いのは30代と50代になっている（**図２－８－２**）。

図2-8-1　仕事の喜びややりがい

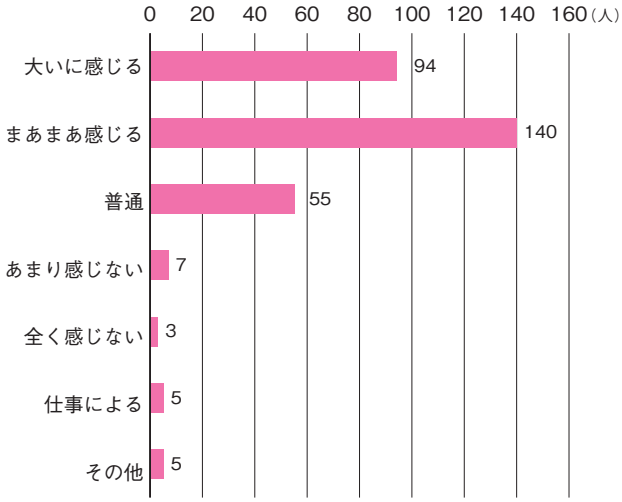


図2-8-2　年齢別仕事の喜びややりがい

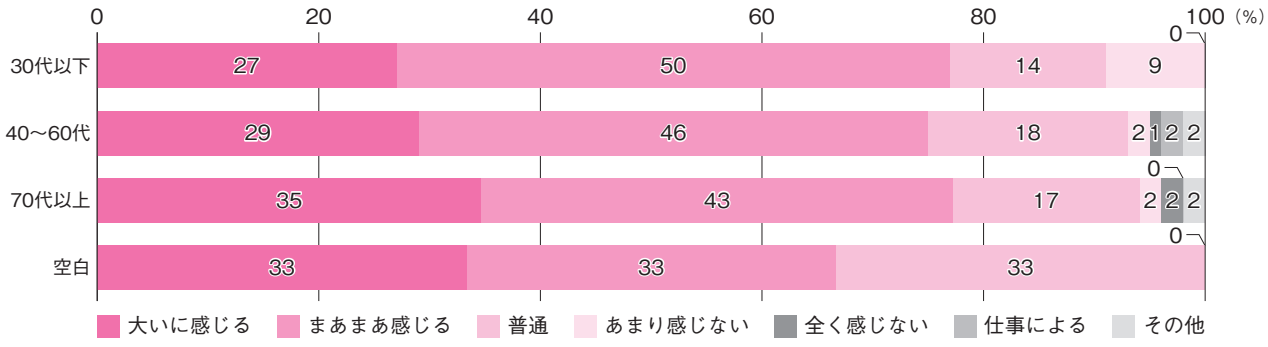
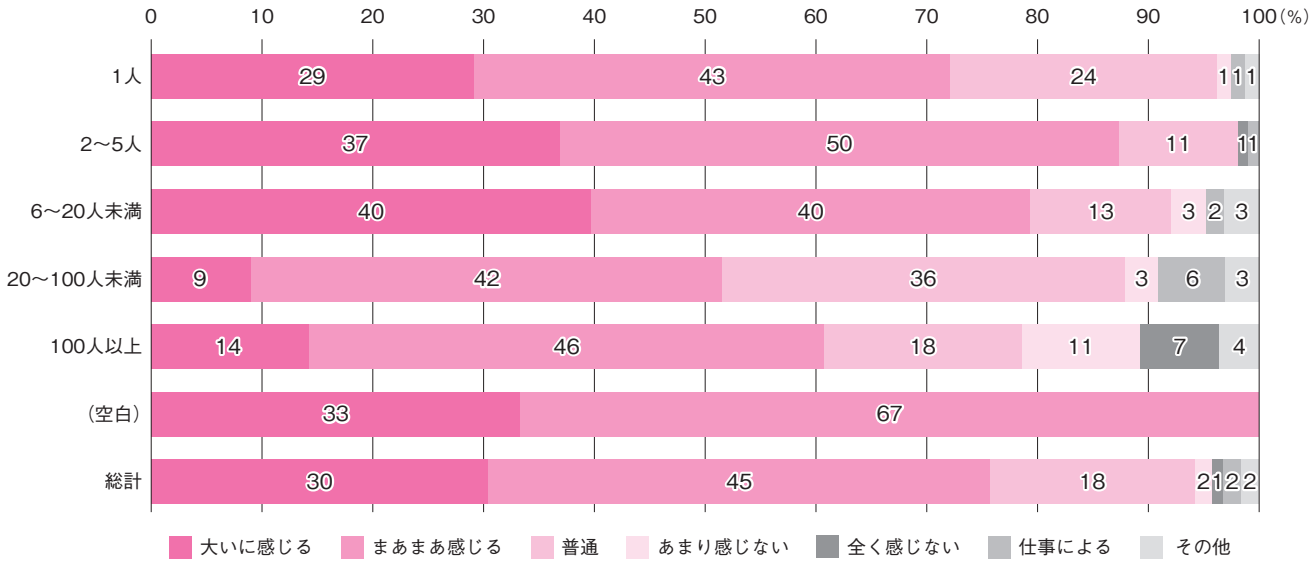


図2-8-3　職場人数別仕事の喜びややりがい



2－9　やりがいを感じる時

「依頼者に直接喜んでもらえると感じる時」約8割

「依頼者に喜んでもらえ、役に立っていることが直接感じられる」が241人（81%）と最も多く、次いで「仕事をすることで社会的貢献を感じられる」159人（54%）、「自分の技術やスキルが発揮できる」150人（51%）となっている（**図2－9－1**）。

性別で比較すると、男性では各項目がほぼ同数の比率であるが、女性は「満足する報酬を得られる」と答えた人がいなかった。

年齢別では、「依頼者に喜んでもらえ、役に立っていることが直接感じられる」比率は30代が最も高い。「社会貢献が感じられる」とするのは30代、50代以上だ。「満足いく報酬が得られる」比率は30代40代で他世代より若干高くなっている（**図2－9－2**）。

雇用形態別では、「依頼者に喜んでもらえ役に立っていることが直接感じられる」比率が高いのは個人事業主や経営者、アルバイトである。「社会貢献を感じられる」はアルバイトを除くとほぼ同じような割合である。また「技術スキルが発揮できる」はほぼ同じだがアルバイトの比率が高い（**図2－9－3**）。

一方、「満足する報酬が得られる」と答えているのはどの雇用形態でも低く、個人事業主や経営者でも1割未満である。

図2-9-1　やりがいを感じる時（複数回答）

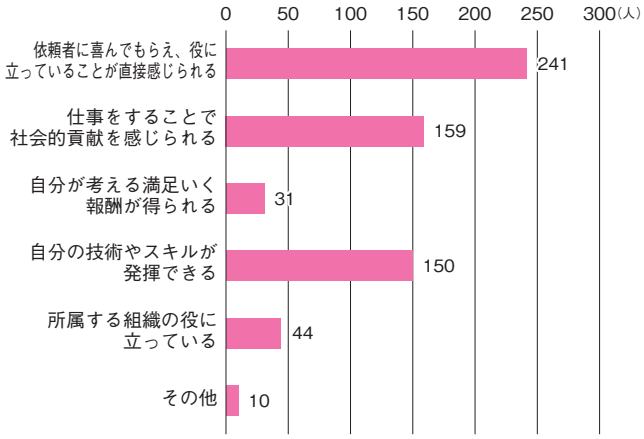


図2-9-2　年齢別やりがいを感じる時

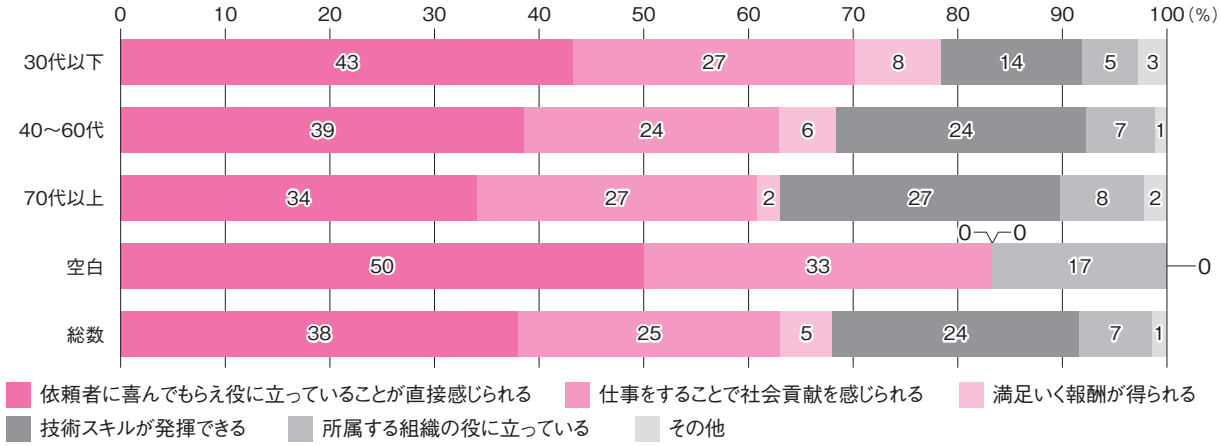
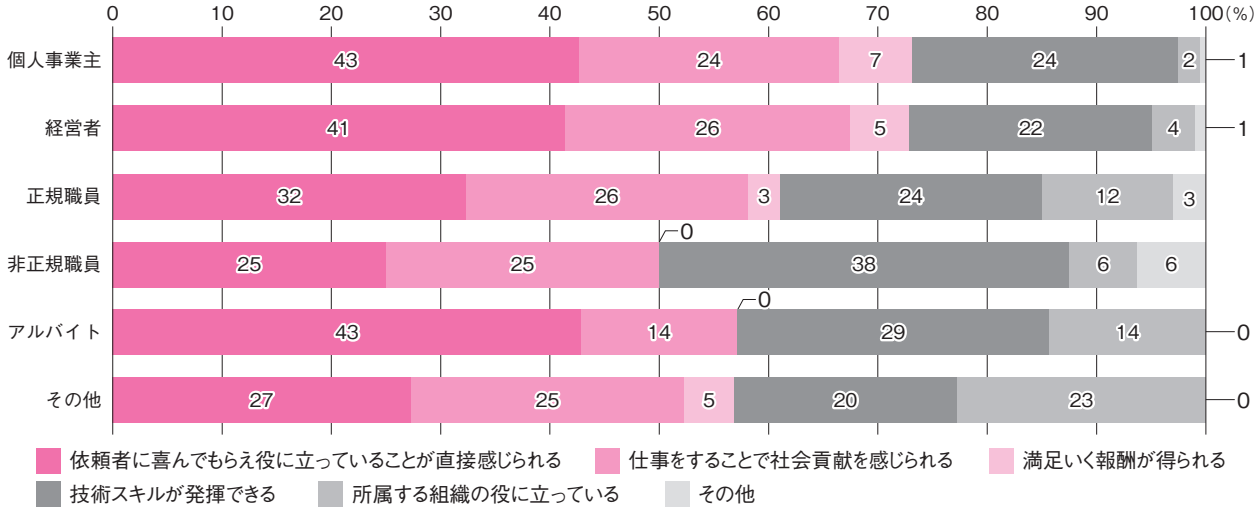


図2-9-3　雇用形態別やりがいを感じる時



2－10　やりがいを感じない時

「仕事している割には報酬が満足に得られない」約４割

「仕事をしている割には報酬が満足に得られない」が119人（41％）と最も多い。次いで「依頼者や社会のために役立っていると感じられない」68人（23％）、「自分の信念に反する仕事だから」52人（18％）となっている（図２－10－１）。

年代別では、70代以上の世代では「仕事をしている割には報酬が満足に得られない」が他世代より多くなっている（図２－10－２）。

雇用形態別に見ると、「仕事をしている割には報酬が満足に得られない」の比率が高いのが個人事業主と経営者である（図２－10－３）。

図2-10-1　やりがいを感じない時（複数回答）

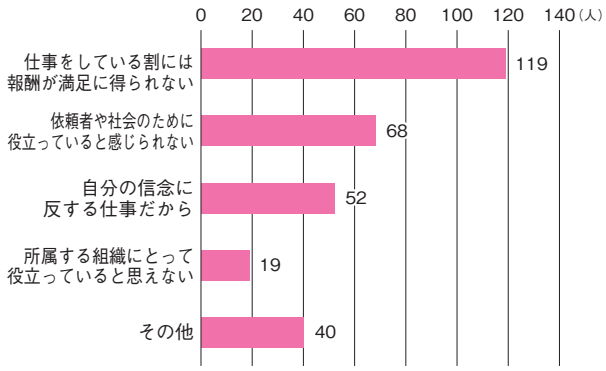


図2-10-2　年齢別やりがいを感じない時

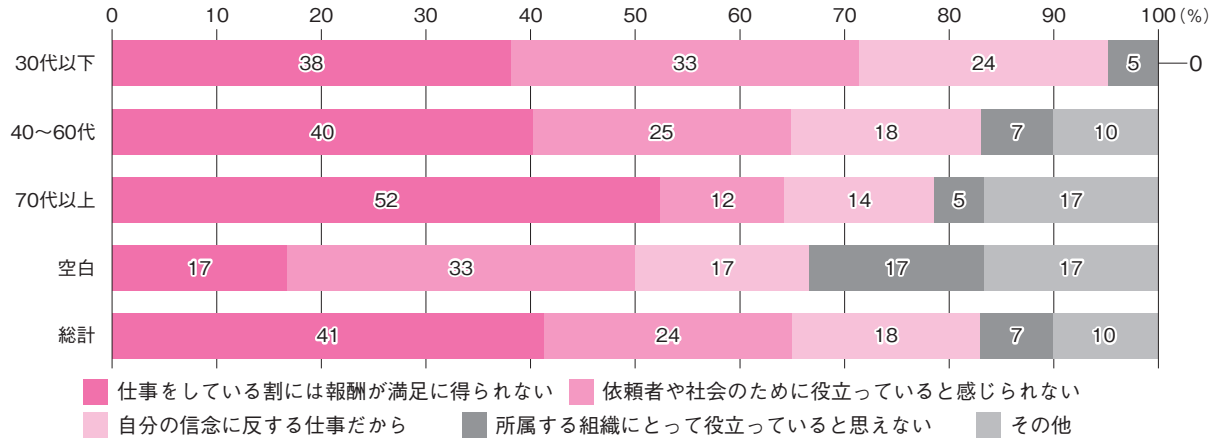
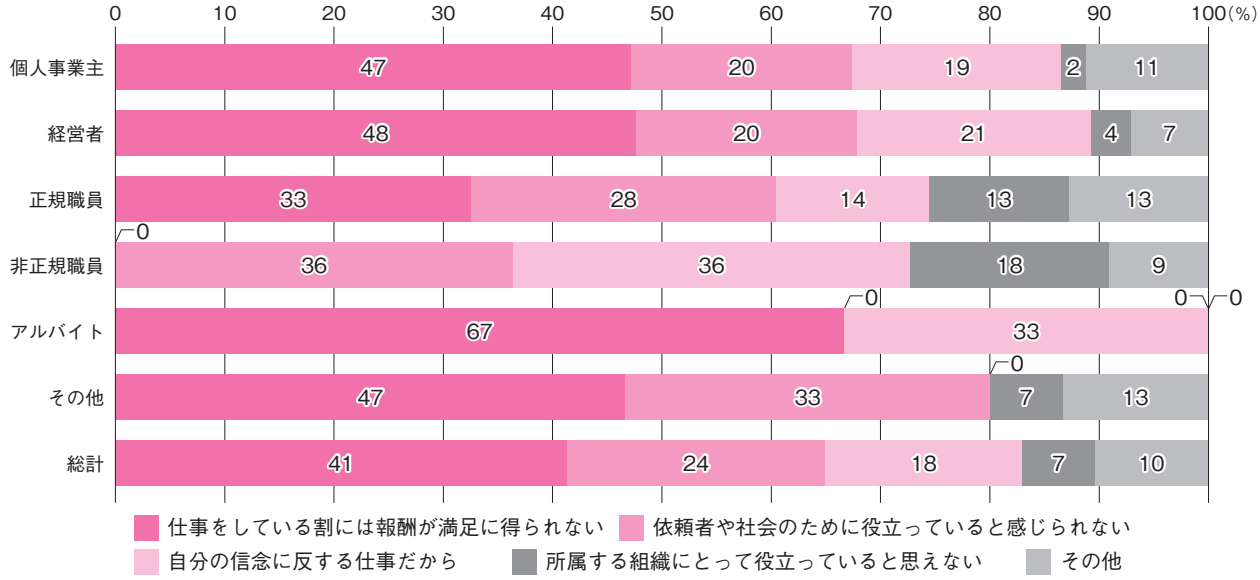


図2-10-3　雇用形態別やりがいを感じない時



2－11　最近の仕事量

「仕事量が多い」4割

「ちょうど良い」88人（29%）と答える人が最も多いが、「少し多い」86人（28%）とほぼ同じであり、「かなり多い」38人（12%）と合わせると仕事量が多いとする人が多い傾向にある（**図2－11－1**）。

雇用形態別に見ると、仕事量が「かなり多い」と答えたのは個人事業主、経営者、正規職員で現れている。非正規職員は「少し多い」が半数。「ちょうど良い」と答えたのは正規職員、アルバイトで多くなっている。一方、「とても少ない」と答えたのも個人事業主や経営者、アルバイトに多く現れている（**図2－11－2**）。

図2-11-1　最近の仕事量

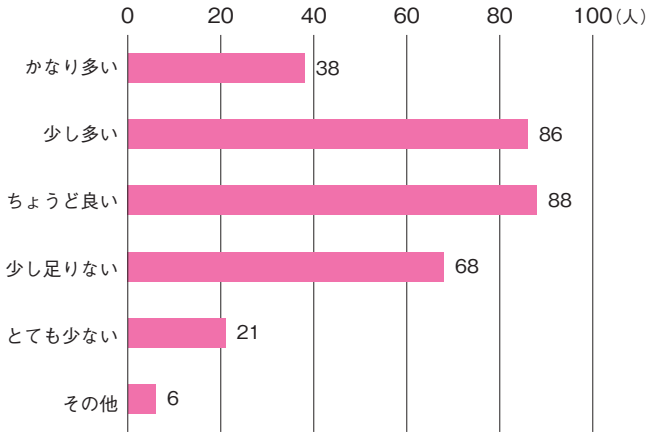
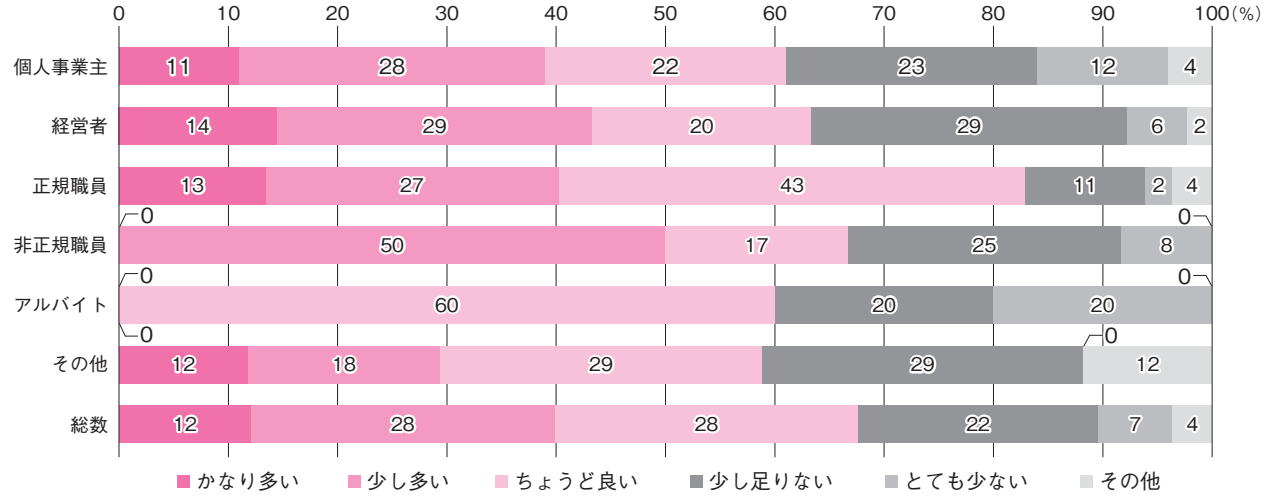


図2-11-2　雇用形態別仕事量

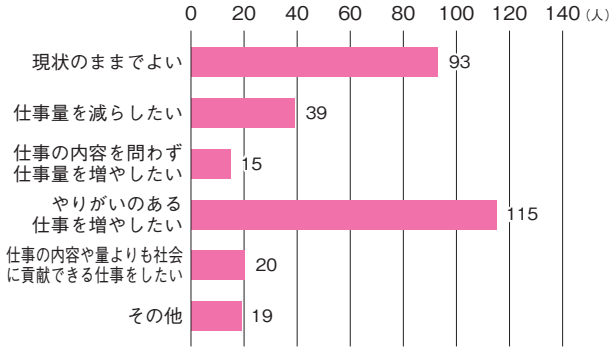


2－12　仕事量への対処

「やりがいのある仕事を増やしたい」４割

仕事量への対処としては、「やりがいのある仕事を増やしたい」が115人（38%）で最も多かった。「現状のままでよい」という人も93人（31%）いる（図２-12）。

図2-12　仕事量への対処



2―13　仕事で困っていること

受注不安定と報酬が低いで半数以上

「仕事の受注が困難・不安定」117人（40%）、「報酬あるいは賃金が低い」106人（27%）が多く、全体の67%を占める。

次いで、「人手が足りない」60人（20%）、「仕事時間が長い、不規則である」53人（18%）、「工期が短く業務に時間が思うようにかけられない」50人（17%）の３項目がほぼ同数である（図２-13-１）。

職場の人数別に見ると、人数が少ない職場で受注の困難と報酬が低いことを感じている（図２-13-２）。

図2-13-1　仕事で困っていること（複数回答）

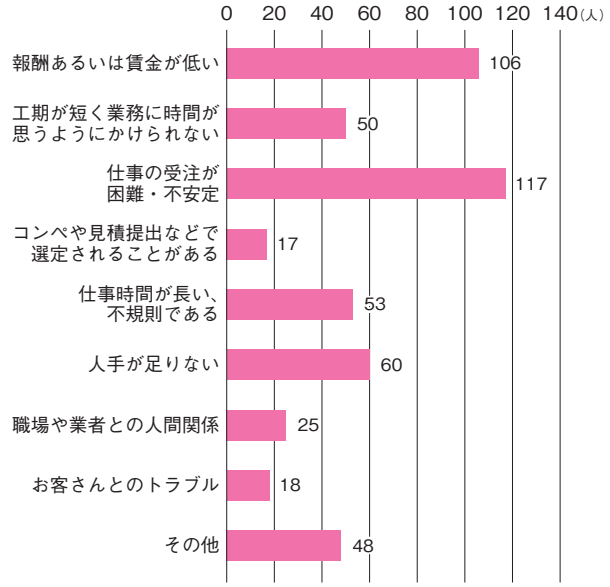
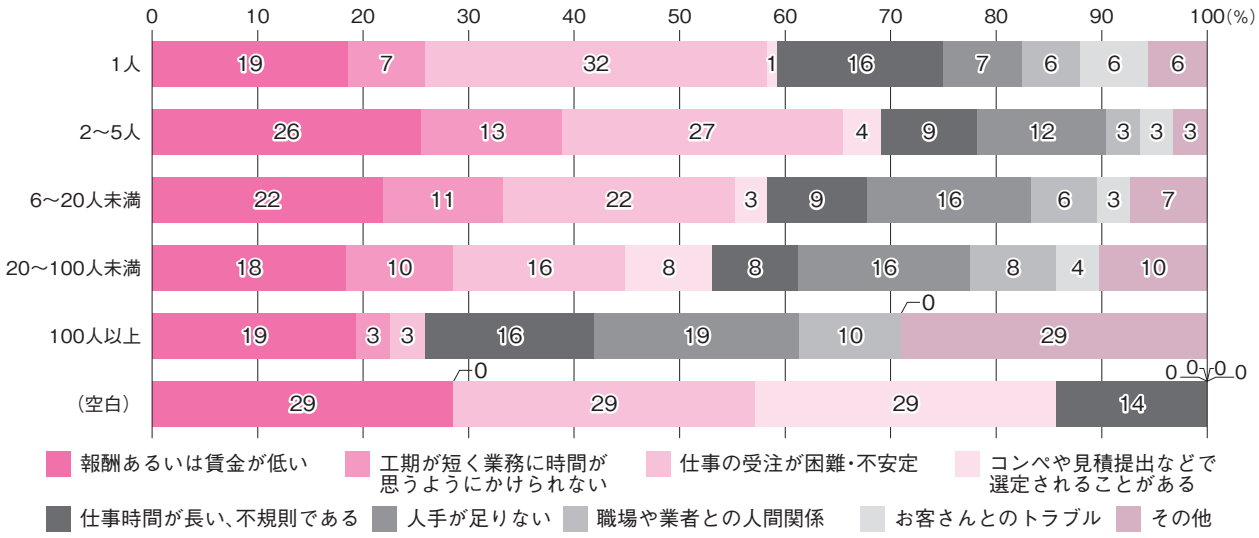


図2-13-2　職場人数別仕事で困っていること



2－14　セクハラ・パワハラの経験

女性の方がハラスメントを受けている

「特にない」が245人（77％）でほぼ経験がない人が圧倒的だ。一方、数は少ないが「職場で受けた」27人（９％）、「現場や関連業者から受けた」22人（７％）など、何らかの形でセクハラ・パワハラの経験を持つ人が55名（17%）である（図２－14－１）。

性別で見ると、男性より女性がセクハラ・パワハラの経験をもっていると答えている（図２－14－２）。

図2-14-1　セクハラ・パワハラの経験

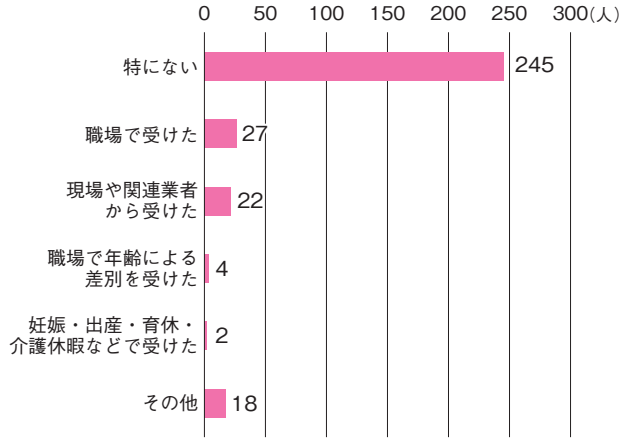
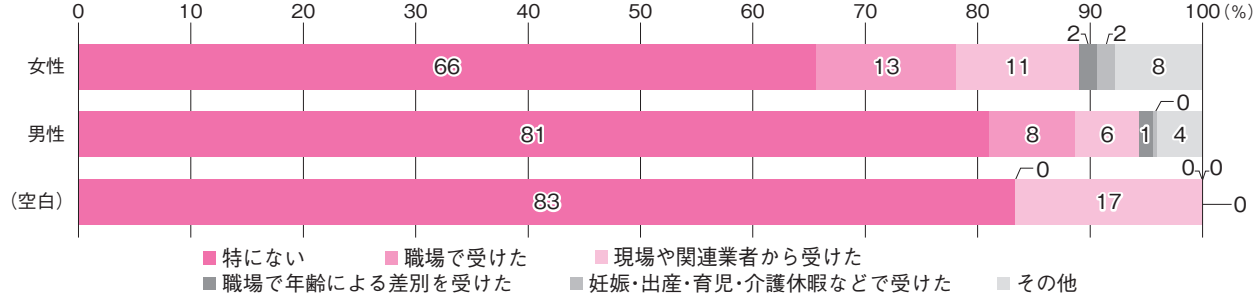


図2-14-2　性別ハラスメント経験



２－15　産前産後制度の有無

多く利用されている産前産後制度

「明文化されていないが融通が利く」が最も多く109人（43%）、次いで「あるので取れる」84人（33%）であった。産前産後休暇については制度はない中でも多く利用されている（図２-15-１）。

職場の人数別に見ると、５人以下の職場では「明文化されていないが融通が利く」がほとんどであり、６人以上の職場では「あるので取れる」が半数以上であり、多く利用されている（図２-15-２）。

図2-15-1　産前産後制度の有無

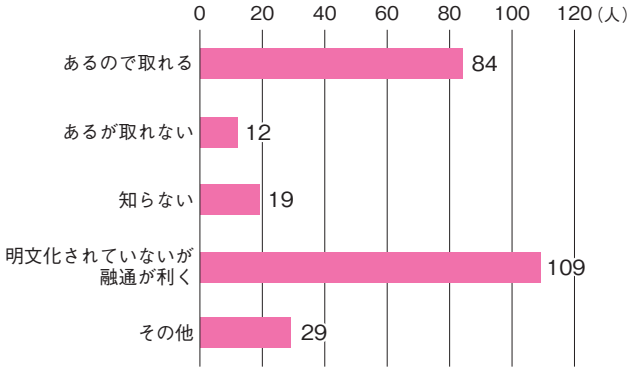
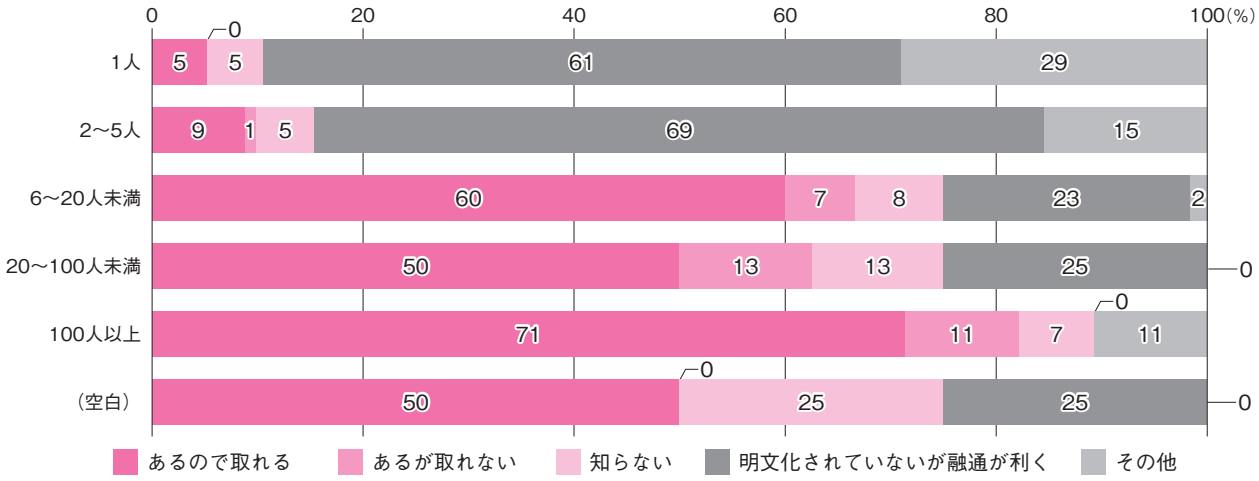


図2-15-2　職場人数別産前産後制度の有無



2－16　育児休暇の有無

「明文化されていないが融通が利く」４割

「明文化されていないが融通が利く」が最も多く99人（39%）、次いで「あるので取れる」が79人（31%）であり産前産後休暇と同様である。「ない」23人（９%）、「知らない」21人（８%）、「あるが取れない」11人（４%）と約２割の人が制度を利用できておらず、産前産後休暇よりその比率が高くなっているのが特徴である（図２－16－１）。

職場人数別にみると、明文化されていないのは５人未満の職場で顕著である（図２－16－２）。

図2-16-1　育児休暇の有無

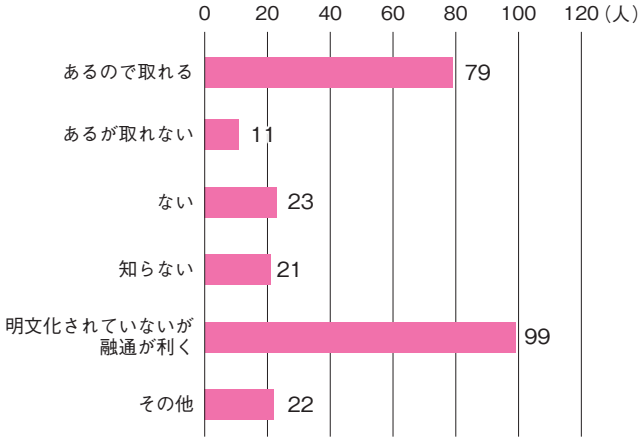
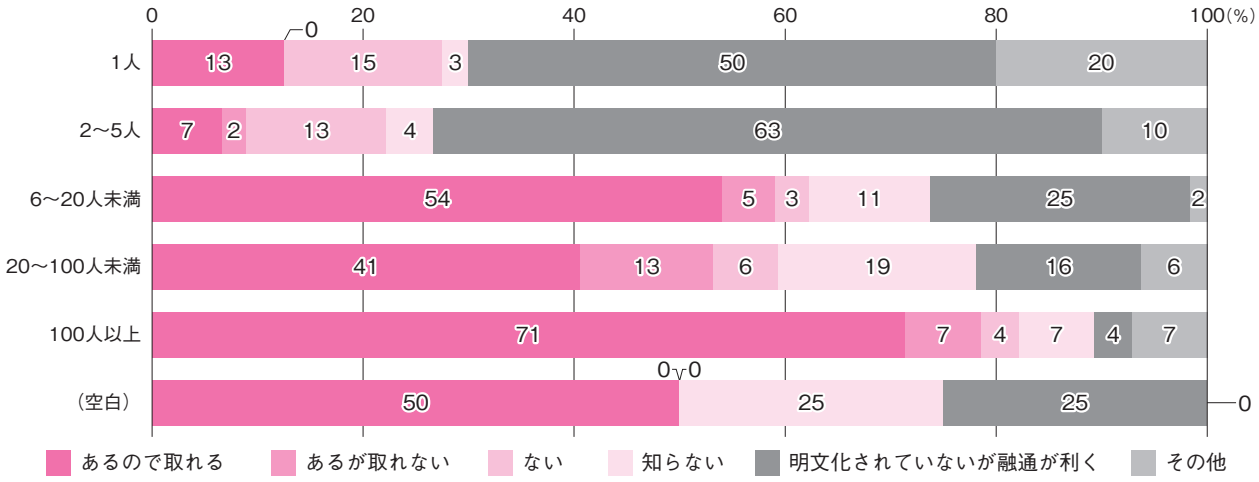


図2-16-2　職場人数別育児休暇の有無



２－17 介護休暇制度の有無

「明文化されていないが融通が利く」が４割

「明文化されていないが融通が利く」が最も多く105人（40%）、次いで「あるので取れる」が62人（23%）であり、他の制度と同様の傾向である。「ない」44人（17%）、「知らない」28人（11%）、「あるが取れない」６人（２%）と約３割の人が制度を利用できておらず、その比率は子育てに関する休暇制度より高くなっている（**図２－17－１**）。

職場の人数別に見ても子育てに関する制度と同様の結果である（**図２－17－２**）。

図2-17-1　介護休暇制度の有無

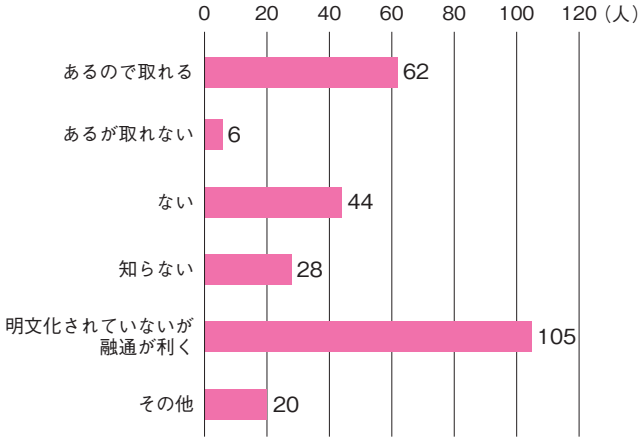
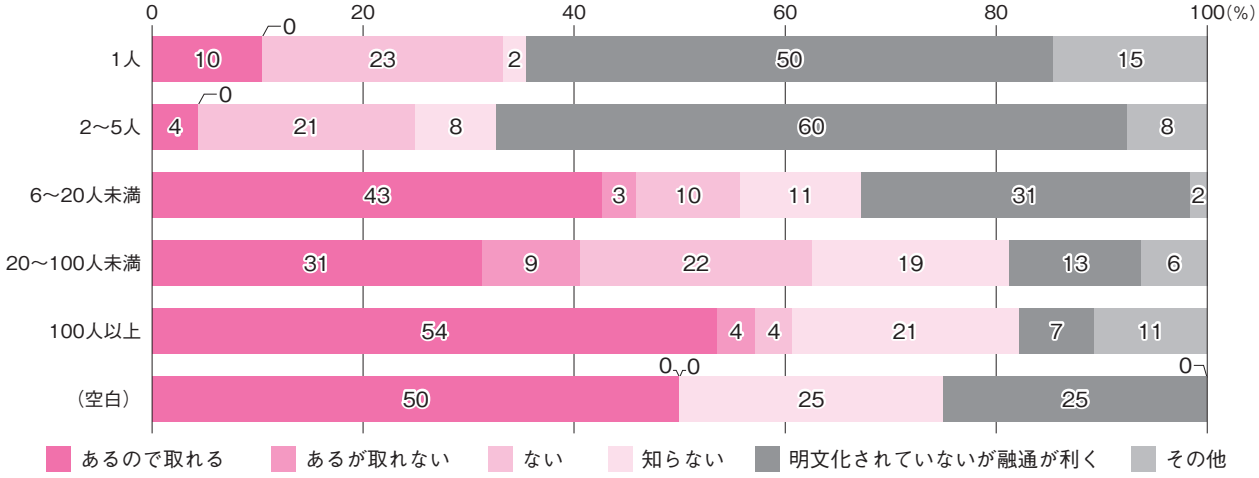


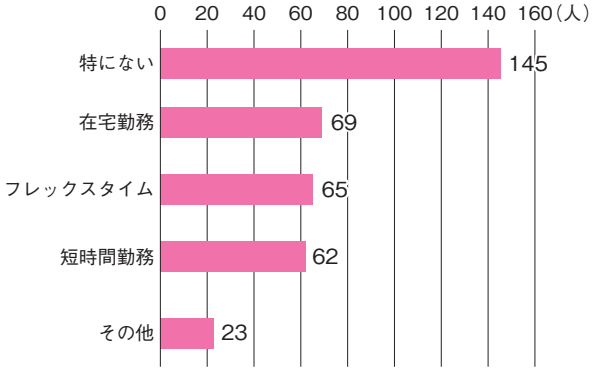
図2-17-2　職場人数別介護休暇の有無



２－18　その他の支援策

その他の支援策としては特に導入していないとの答えが145人で約５割である。次いで在宅勤務69人（23%）、フレックスタイム65人（22%）、短時間勤務62人（21%）がほぼ同数で導入されている制度であった（**図２－18**）。

図2-18　その他の支援策（複数回答）



2－19　さらに欲しい支援策

さらに職場にほしい支援策を聞いたところ、次のような回答があった。コロナ禍のもと在宅勤務やテレワーク関連の支援策の数が多い。

パワハラやモラハラ（モラルハラスメント）、病気や障害、年齢差別についての支援、教育・研修支援などの項目があがった。「支援の要望があれば話し合うこと」という回答に、困難な状況に寄り添う新建らしさを感じた。

「社会で保証するシステム」
「在宅勤務」
「通常期間の在宅・フレックス」
「テレワークで済ますことができる仕事を明確化して、仕事内容にメリハリをつける」
「在宅時の機器への補助金が欲しい」
「フレックスタイム制」
「治療の為の休暇を要求中・妊婦健診特別休暇に男性の両親学級のための休暇も付け加えるよう要求」
「パワハラ、モラハラ、等の支援」
「職員確保と教育・研修システムの確立」
「資格試験や学習の支援、健康面の支援を会社としてより位置付けたい」
「年齢差別について将来は社会的な課題になるのではないか　年金がいつまで持つかなど、元気な限り働きたいと思う人は増える！」
「障害を持っているなら、それに対しての支援が必要　それぞれの状態に合わせた支援策が必要と思う」
「支援の要望があれば話し合うこと」

第２章　まとめと課題

【まとめ】

仕事と労働環境の基礎事項

回答者は５人未満の職場あるいは個人事業主が主であり、少人数の職場で働いている。このことが労働環境に大きく影響していると考えられる。

通勤時間は30分未満が７割と自宅近くで働いている。仕事の対象は戸建て住宅を中心だが福祉施設や商業施設などと幅広い。週平均の労働時間40時間を超えて働く人が８割近くであり残業をしている人がほとんどである。

特に経営者や個人事業主では週労働時間が「65時間以上」の比率が高い。社会全体では総実労働時間や週労働時間が60時間以上の雇用者の割合が減少してきている（「労働経済白書（令和３年版）」。会員アンケートでは推移は追えないが、2020年では60時間以上の割合5.1％であったのに対し、会員アンケートでは65時間以上の回答が12％もおり社会的に見ても会員の労働時間は多い。

回答を見ると地域での活動も含まれている人もおり、労働時間をあえて強く意識していない様子が見える。

しかし、WHO が2021年に発表した長時間労働の健康リスク調査では、55時間働いた約75万人が脳卒中などで死亡したという推定結果があり、週40時間ほど働く人に比べ、脳卒中のリスクは１.35倍になると推定している。50時間以上の労働時間が４割になっており自身の健康面でも注意が必要だ。

働きがい、やりがい

こうした状況の中で会員は働きがいをどのように感じているか。

ワーク＆ライフバランスがいいとする回答は半数を超え、女性の方がその率が高い。週労働時間の違いでみると「50時間以上」になるとバランスがいいと答える人は少なくなる。

仕事のやりがいでは８割近い回答者が感じている。依頼者に喜んでもらえることを直接感じられること、社会貢献を感じられることが、やりがいを感じる要因になっている。逆にやりがいを感じない要因は「仕事をしている割には報酬が満足に得られない」という報酬に関する項目が４割になっている。

仕事量は「ちょうど良い」か「少し多い」という回答が半数を超え、それに対して「現状のままでよい」という回答も３割いるが、やりがいのあ

る仕事を増やしたいという新建らしい考え方が現れている。仕事で困っていることは「仕事の受注が困難・不安定」「報酬あるいは賃金が低い」という受注や報酬に関しての悩みが大きいことがわかった。

働く環境

社会的には「働き方改革」進められる一方で、アンケートでは職場や現場でハラスメントを受けた人が約２割もいた。女性差別だけでなく年齢や障害による差別もある。もしかすると気づかずにいる人もいるかもしれない。また、身近にハラスメントで悩んでいる人がおりそのことをストレスに感じている人もいた。

産前産後休暇制度や育児休暇制度、介護制度について「明文化していないが融通が利く」と制度化されていない職場が４割以上になった。また各制度があるにもかかわらず３割の回答者が利用できていない現状である。

【課題】

１．労働時間を意識し改善しよう

労働時間を強く意識しないことは、一緒に働く職員や家族への配慮が薄くなる恐れがある。労働時間を意識することで、自分自身の健康への気遣い、職員と家族の生活時間を保障することにつながる。子育てや地域でのつながりが希薄な現代社会で、会員の地域活動時間を確保するためにも労働時間を意識していくことが必要だ。

２．受注の不安定、低報酬から脱する

受注の不安定さや低報酬から脱し、やりがいのある安定した仕事と報酬は、独立した立場での専門性を活かせる仕事へと高め、人々に寄り添う活動を保障する基礎になる。一つのあり方として新建会員や地域の人たち、あるいは他業種の人たちとの共同した仕事づくりや働き方を模索したい。同時に社会のあり方に目を向け、誠実な仕事が報われる制度や社会を作り出していくことが必要だ。

３．働きやすい職場制度に

セクハラやパワハラ、障害の有無等による人権侵害を正し、働き続けられる制度の整備など、働く環境を改善したい。新建会員の働き方が若い世代にも魅力的に感じられ、建築まちづくりに携わる人が増えることにつなげたい。会員には働く高齢者が多い。現場での安全が配慮され、リタイアしても役割が果たせる職場づくりが必要だ。

第３章　家族・家庭生活

３－１　家族形態

「夫婦／カップルと子ども」と「夫婦／カップルのみ」で７割

家族形態は「夫婦／カップルと子ども」が最も多く126人（37%）、「夫婦／カップルのみ」が113人（33%）で、合わせて全体の７割を占める。続いて単身44人（13%）、親との同居27人（８%）、三世代家族26人（７%）となっている（**図３－１－１**）。また家族形態ごとの年齢別割合（**図３－１－２**）を見ると、単身はやや50代の割合が多く、夫婦／カップルのみは60代以上の割合が多くなっている。親と同居している単身者は、どの年齢にも見られ、夫婦／カップルの人は60代に多く見られる。三世代家族はどの年齢にも見られる。

図3-1-1　家族形態

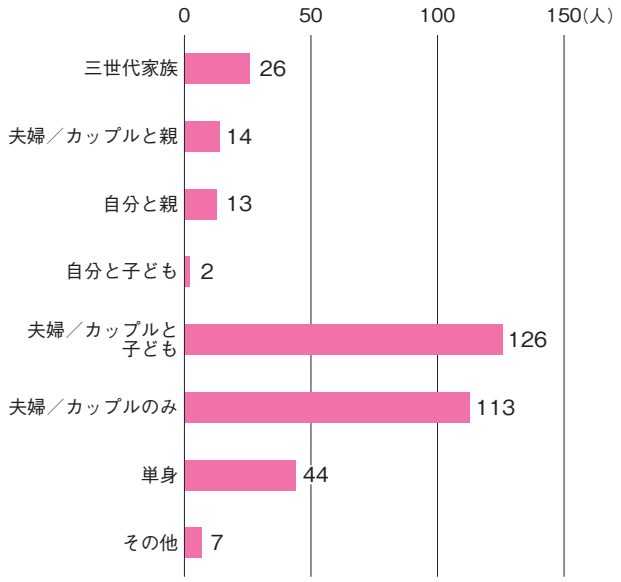
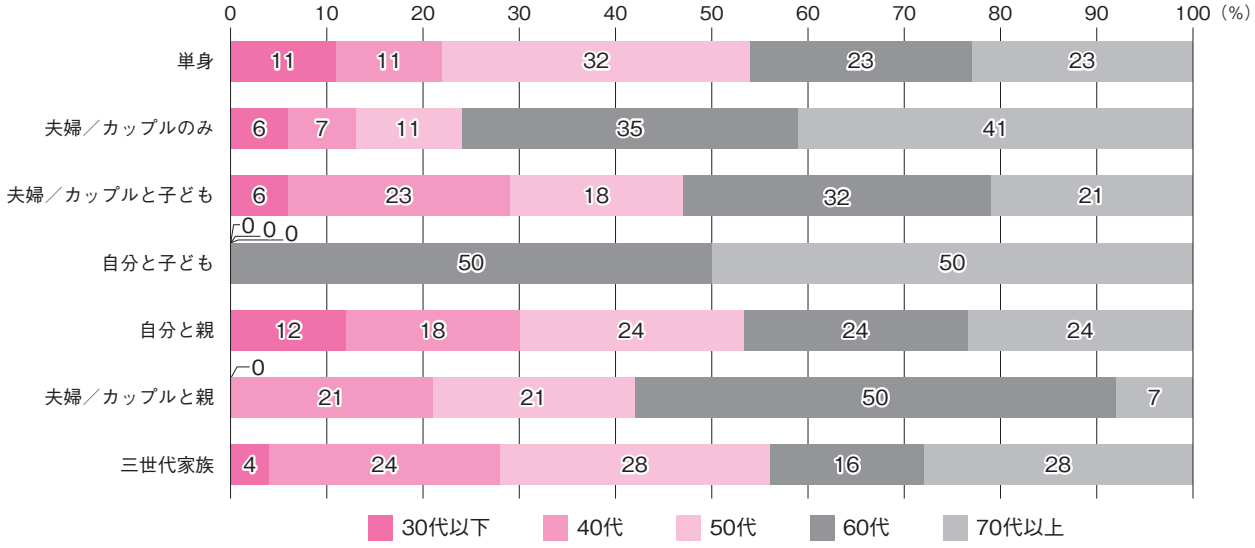


図3-1-2　家族形態ごとの年齢別割合



３－２　ペットの飼育

ペットを飼っている人は２割弱

ペットを飼っていない人は284人（81％）、犬、猫を飼っている人の率は個別集計の結果約15％である（**図３－２－１**）。一般社団法人ペットフード協会の犬猫飼育実態調査2020年では飼育世帯数が約21％となっており、これと比較するとやや少ない。ペットのいる人の中には、犬と猫の両方を飼っている人や、犬と猫と山羊を飼っている人も見受けられた。その他のペットでは、魚類やウサギなどがいる。年齢別に見ると、50代以上のペット飼育率が高く、犬の割合は年齢が上がるごとに減って行く（**図３－２－２**）。家族形態ごとに比較すると、三世代家族のペット飼育率が高く約４割を占めている。

図3-2-1　ペットの飼育（複数回答）

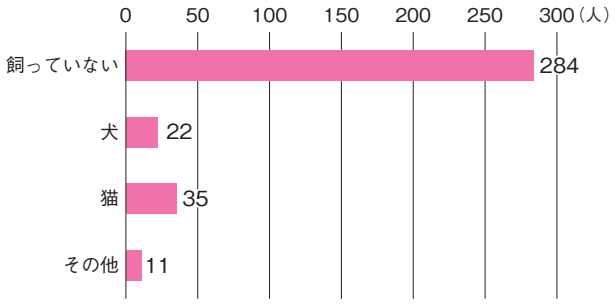
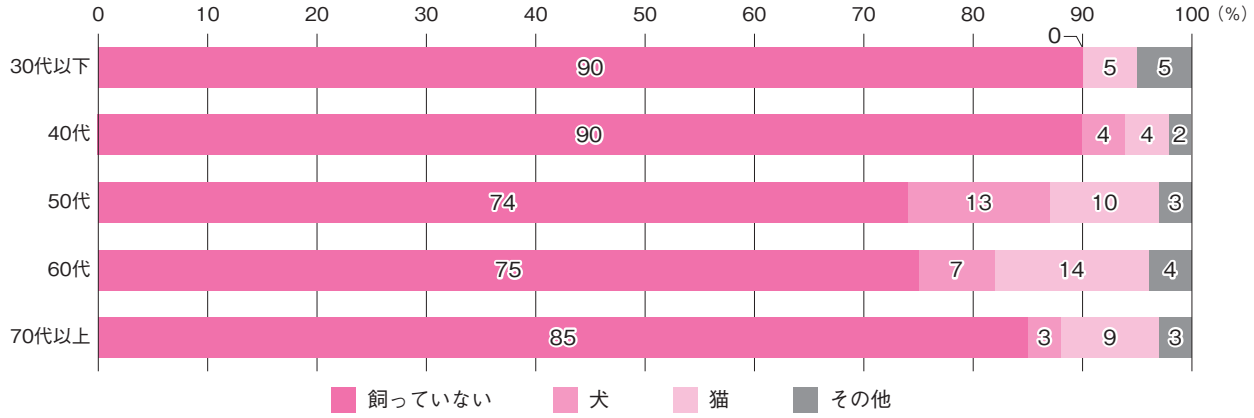


図3-2-2　年齢別ペットの有無



３－３　家族の人数

２人家族が多い

家族の人数は２人家族が一番多く124人で全体の35％を占める。続いて３人家族78人（22％）、４人家族61人（17％）、単身家族は42人（12％）で、平均家族人数は2.9人となる。６人以上の大家族も17人（５％）見られる（**図３－３－１**）。年齢別に家族人数割合を見ると、２人以下の家族は30代以下と70代以上に多く見られる。単身割合は30代以下と50代に多い。５人以上の家族はどの年齢もほぼ同じ割合となっている（**図３－３－２**）。

図3-3-1　家族の人数

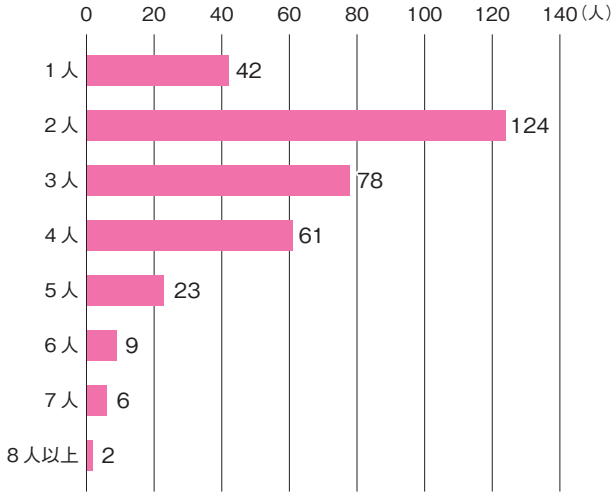
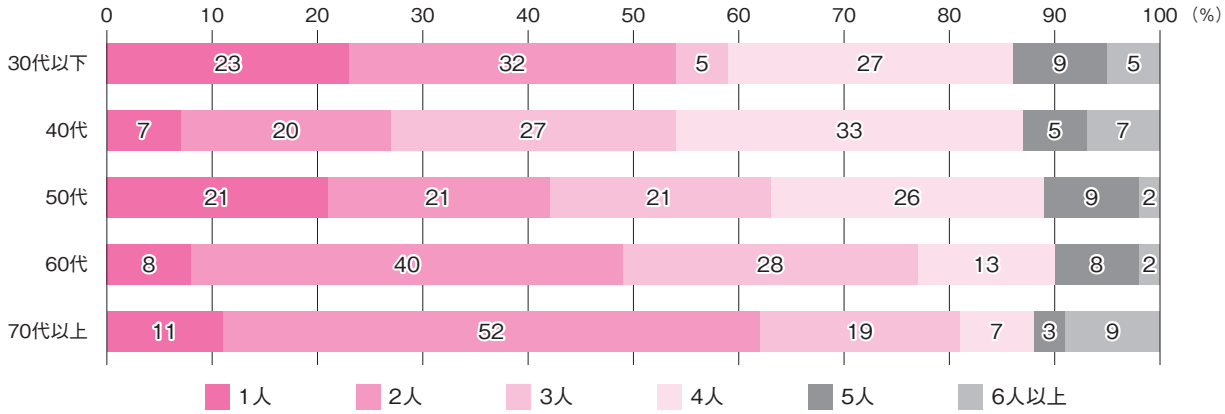


図3-3-2　年齢別家族の人数割合



3－4　同居している子ども

同居の子どもがいない人が約 6 割

同居している子どもがいない人は、195人で全体の56％を占める。就学前の子どもがいる人は20人（６％）、小学生以上の子どもがいる人が62人（18％）、就労している子どもと同居している人は69人で約20％を占める。その他９人の中には、重度の障害のある子どもがいる人や、就労も就学もしていない成人の子どもがいる人や孫と同居している人などが含まれている（**図３－４－１**）。年齢別に見ると、40代で子どものいる割合が60％を超え、50代から緩やかに減っていくが60代からは就労している子どもとの同居が増え、70代以上でも40％近くの人が子どもと同居している（**図３－４－２**）。

図3-4-1　同居している子ども（複数回答）

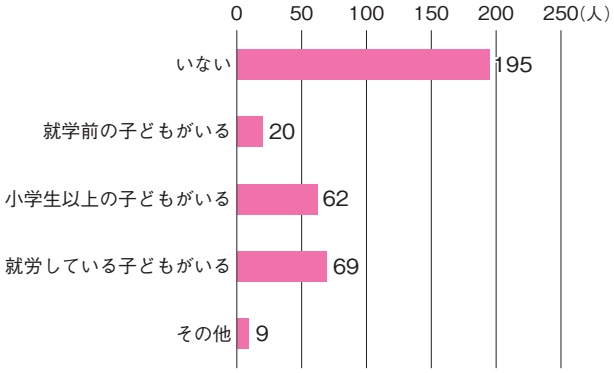
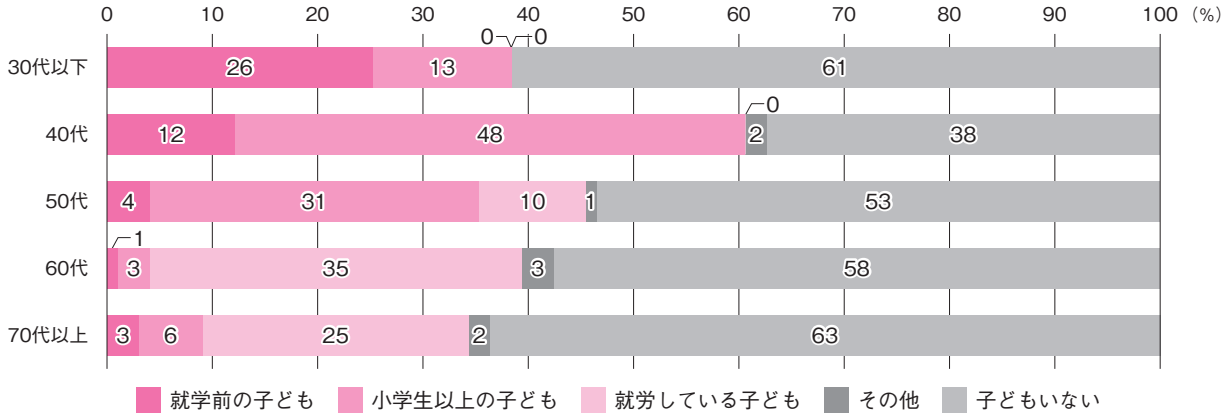


図3-4-2　年齢別同居の子ども



３－５　介護をしている家族の有無

50代の４割に介護の必要な家族

介護が必要な家族がいる人は、同居している人が19人（５％）、同居していない人が39人（11%）で、合計すると16%に及ぶ（**図３－５－１**）。また年齢別に見ると、50代の４割に介護の必要な家族がいることが読み取れる（**図３－５－２**）。

図3-5-1　介護をしている家族の有無

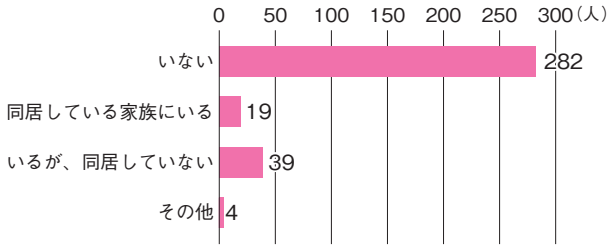
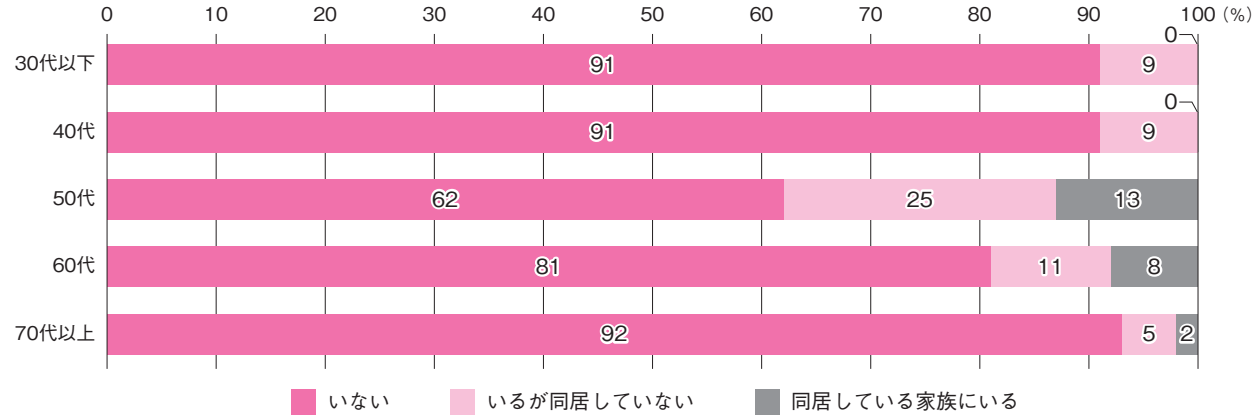


図3-5-2　年齢別介護をしている家族の有無



３－６　家事に費やす時間

家事時間は休日に多くなる傾向

家事に費やす時間は、平日より休日の方が多く、30分未満を30分、３時間以上を３時間とおくと、平日の家事平均時間は約１時間10分、休日は約１時間30分となっている。また休日に３時間以上と答えた人が増えている（**図３－６－１－１、３－６－１－２**）。年齢別でみると、平日ではあまり違いが見られず、休日では50代以下で家事時間割合が増えている（**図３－６－２－１、３－６－２－２**）。また、子どもの有無との関係でみると、子どものいない人は、平日と休日の家事時間にあまり変わりがなく、子どものいる人は、休日の家事時間がやや増えている。就労している子どものいる人は、平日の家事時間が休日より多くなっている。性別にみると、女性の家事時間の方が多いことがわかる。詳しい実態と分析は４章「ジェンダーからみた新建会員の実態」で見る。

また介護をしている同居の家族がいる人は、家事時間が多くなっている。

図3-6-1-1　家事に費やす時間（平日）

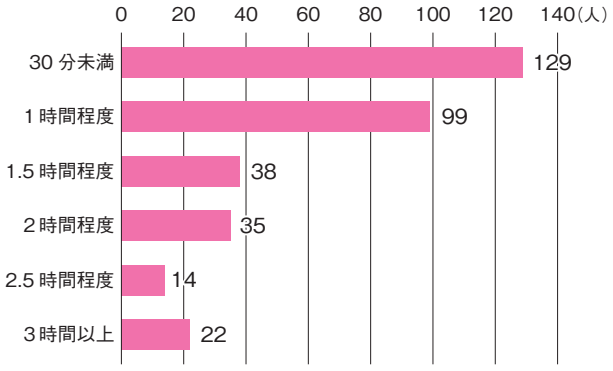


図3-6-1-2　家事に費やす時間（休日）

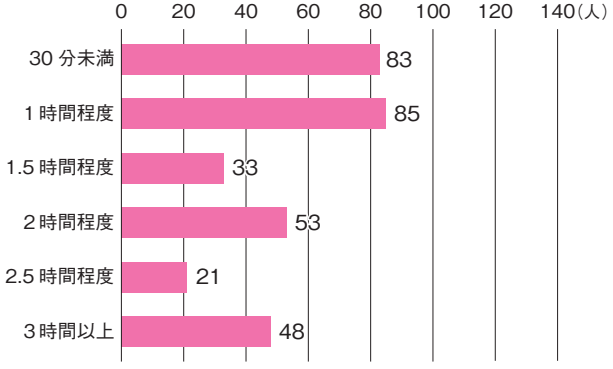


図3-6-2-1　平日家事時間年齢別

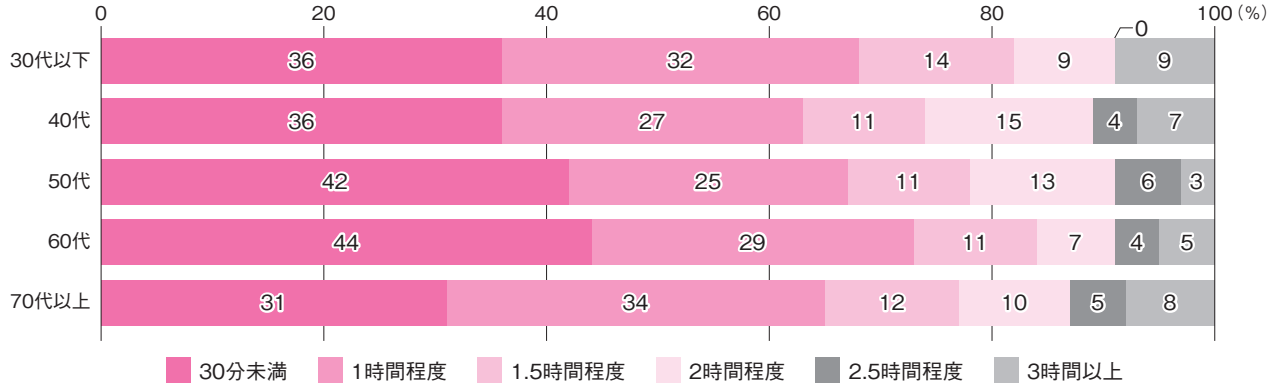


図3-6-2-2　休日家事時間年齢別

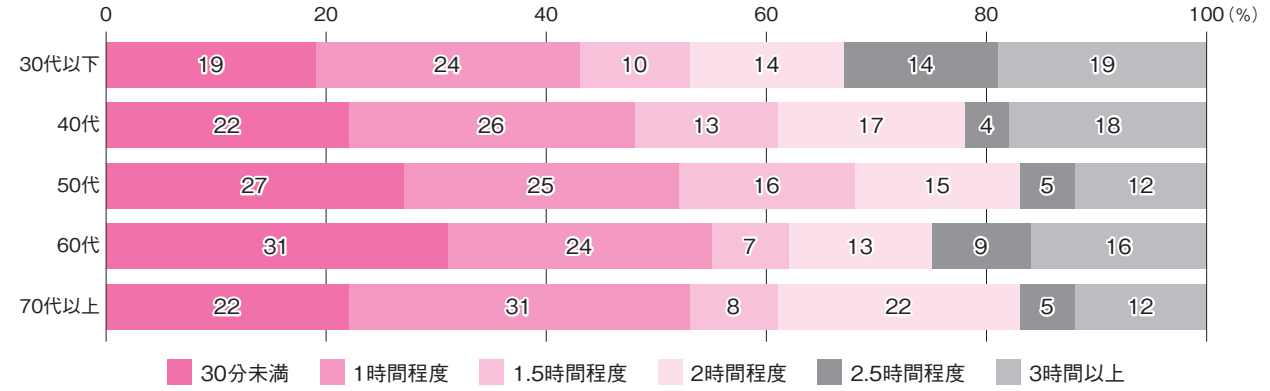


図3-6-3-1　平日家事時間　同居の子ども別

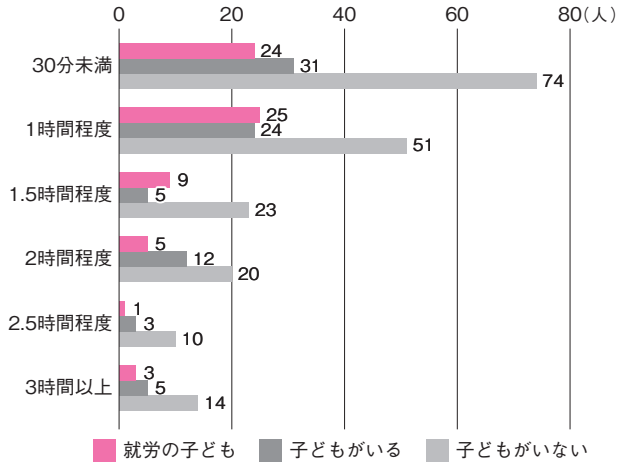


図3-6-3-2　休日家事時間　同居の子ども別

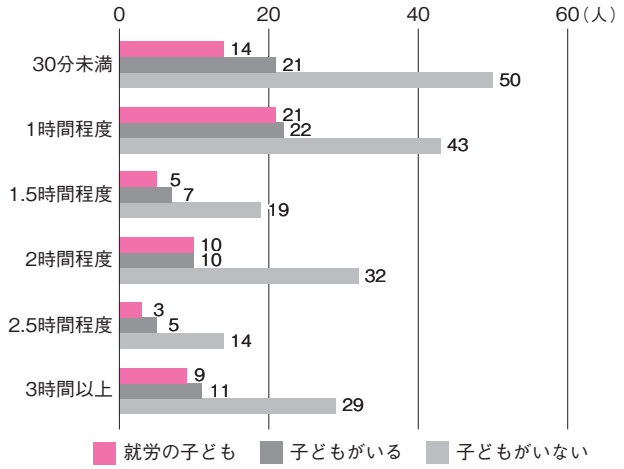
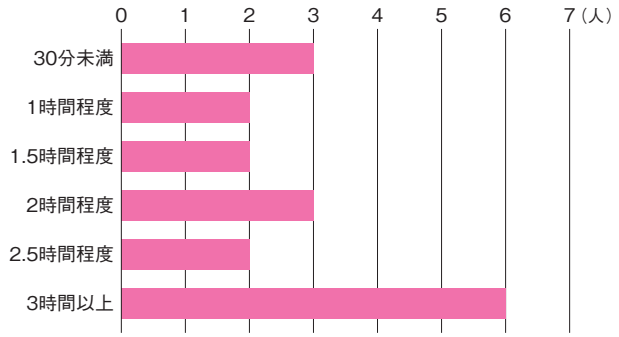


図3-6-3-3　介護　同居している家族
（休日家事時間）



３－７　負担に感じる家事

４割が家事に負担を感じている

負担に感じる家事があると答えた人は139人（40％）で、答えた人は、複数の家事をあげている人が多い。また、家事時間が長くなるほど負担に感じる傾向がある。項目別にみると「掃除／片付け」が一番多く、「庭の手入れ」「調理」「買い物」の順になっている（**図３－７－１**）。

これを年齢別にみると、39歳以下では「掃除／片付け」に続いて「調理」「買い物」が多い。40～59歳では、加えて「庭の手入れ」「介護」「洗濯」が増える。年齢別の家族人数を見ると、この年代では３人以上の家族が多いことも影響していると思われる（**図３－７－２**）。60歳以上では、「庭の手入れ」を負担と答える人が増えているが、体力的なことに加えて持ち家率の高さの反映もあると思われる（**図３－７－３**）。

図3-7-1　負担と感じる家事（複数回答）

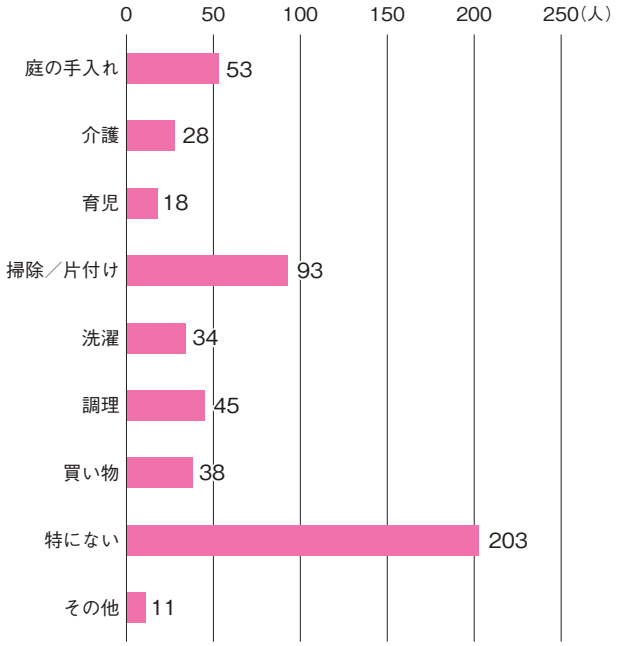


図3-7-2　年齢別負担と感じる家事

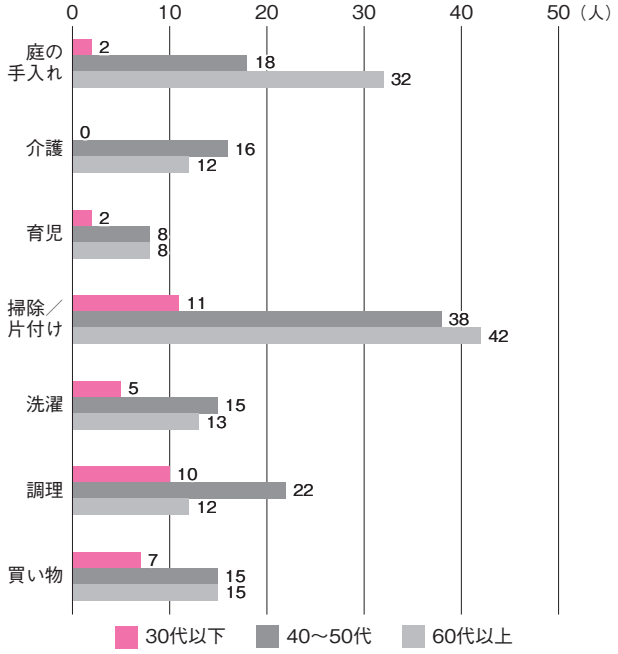
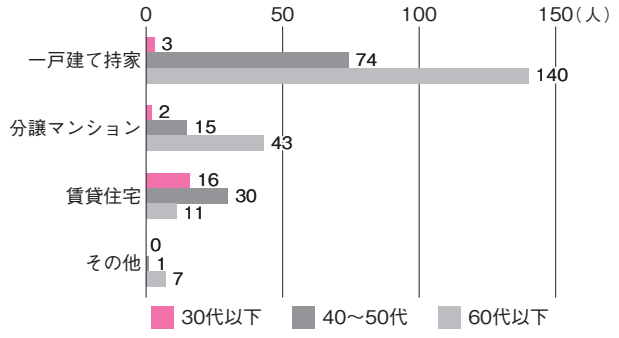


図3-7-3　年齢別住居形態

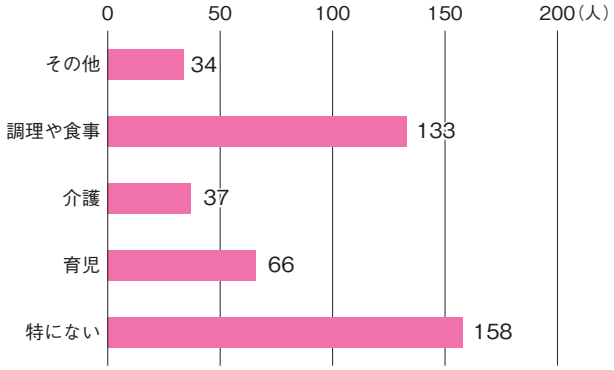


3－8　自分の仕事にプラスになると感じる家事

家事は仕事のプラスに

個別集計をすると174人（50%）の人が、仕事のプラスになると感じる家事を複数回答しており、「調理や食事」と答えた人が最も多い。3－7の負担と感じる家事との関係を見ると、調理や育児は負担と感じる人は少なく自分にプラスになる家事であり、介護は負担感は大きいけれども自分にプラスにもなっていると答えている人が多い（**図3－8**）。これを性別でみると、女性の方が男性よりもどの家事も仕事にプラスになると感じていることがわかる。詳しい分析は4章に記す。

図3-8　仕事にプラスになると感じる家事（複数回答）

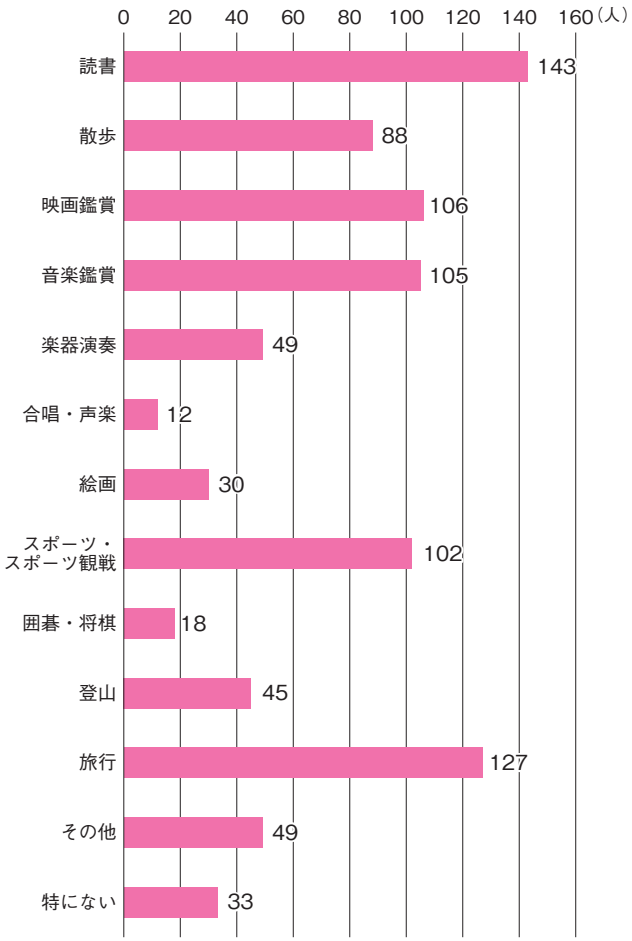


3－9　趣味について

多種多様な趣味

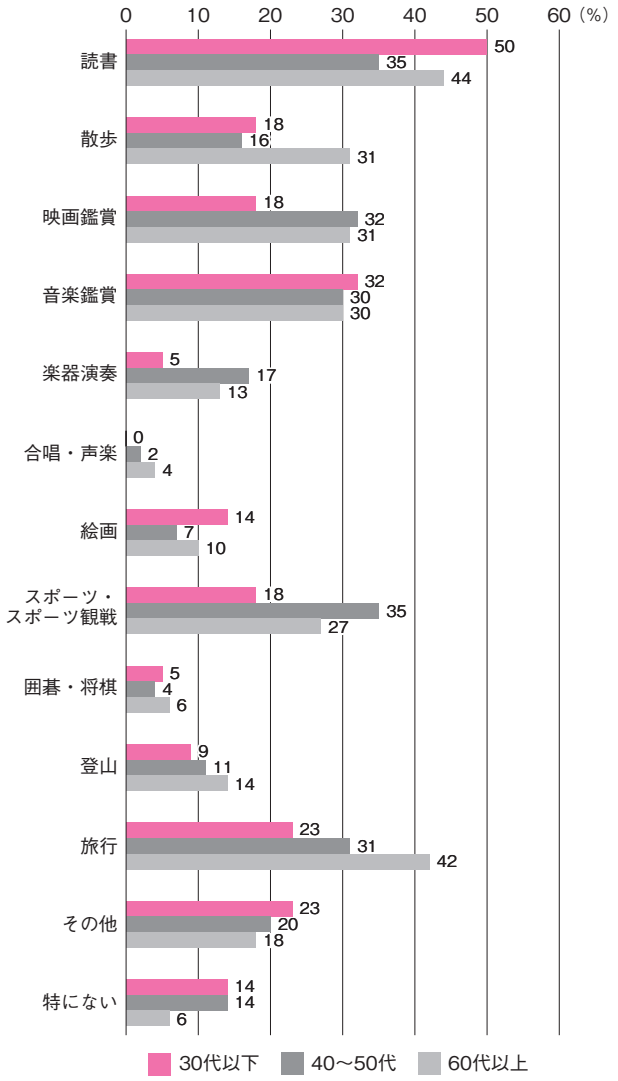
310人（89%）の人が趣味を持っていると答えている。また回答数の2.6倍の趣味が選択されており、複数の趣味を持っている人が多いことも読み取れる（**図3－9－1**）。読書が最も多く、旅行、映画鑑賞、音楽鑑賞、スポーツ・スポーツ観戦、散歩などの人気が高い。

図3-9-1　趣味について（複数回答）



年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて趣味の選択数が増えている。また割合で見ると、若い年代では「読書」や「映画」、40～50代では「スポーツ・スポーツ観戦」や「楽器演奏」が多い。60代以上では「散歩」や「旅行」が多くなっている（**図３－９－２**）。その他の中には、釣り、サイクリングやバイク、農業や園芸などが複数見られた。様々なボランティア活動をあげている人もいる。仕事と余暇時間のバランスでみると、「余暇時間や家庭生活の時間がほとんどない」と答えた人でも約85％の人が趣味があると答えている。

図3-9-2　年齢別趣味



３－10　趣味が仕事の役に立つことはあるか

趣味を仕事に役立てている若い世代

趣味が仕事の役に立つと答えた人は、192人で全体の55％を占める（**図３－10－１**）。これを年齢別にみると、50代までの年代で、趣味が仕事の役に立つと答えた人が６割を超えている（**図３－10－２**）。

図3-10-1　趣味が仕事の役に立つこと

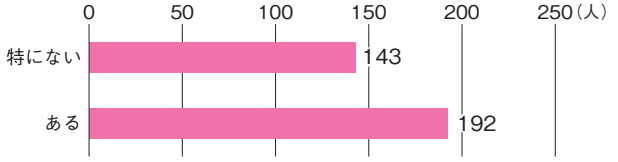
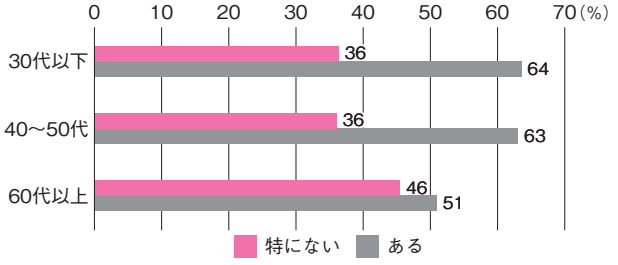


図3-10-2　年齢別趣味が仕事の役に立つこと



第３章　まとめと課題

【まとめ】

家族や家庭生活を尋ねたこの章では、設問を考えたときに、子育ての状況や家事の負担などと仕事や活動の関係を描き出すこともイメージしていたが、会員の８割が男性で、６割近くが60代以上、30代以下は１割にも満たないという会員像の中からはそうした実態はあまり浮かび上がってこなかった。しかし少数ながら子育て期や介護期にある人の中には家事に負担を感じている実態もある。また、子育て期を過ぎた年代ではゆとりも見えるが、70代からはまた家事時間や負担感がやや増加傾向にあり、高齢期にある生活者としての姿がうかがえる。

家族形態

家族形態は、「夫婦２人暮らし」と「夫婦と子ども」といった２～３人の家族が多いが、どの年代にも３世代家族が見られ６人以上の大家族もある。団地内２世帯居住といった事例もあり、多様な家族像と住み方がうかがえる。仕事との両立で大変だと思われる就学前の子どもがいる人は極めて少ないが、60代以上では就労している子どもと同居している人が多く見られたのは、成人しても家を出ない子どもが増えている現代の状況も反映しているのか特徴的である。

介護の必要な家族がいる人は58人（17%）であり、50代に最も多く親との同居率も高い。

家事について

家事に費やす時間は、全体でみると１時間以内の比較的短い人が多いが、これは家事を主に担っていない人が多いことや、子育てなどを終えて家事の量が少なくなった人が多いからではないかと思われる。ただ個別に見ると、介護をしている人や、子育て中の人たちの家事時間は比較的長く、休日に３時間以上こなしている人が15%いる。性別による違いが見られるが、第４章で詳しく述べている。

家事に対する負担感は、家事時間とも連動しており、家事時間の長い人は負担に感じている家事を複数あげている。一方で、家事が仕事のプラスになっていると答えている人も少なくなく、家事を生活の一部としてしっかりと捉えている「生活派」の一面がうかがえる。

趣味について

９割以上の人が「趣味がある」と答えており、かつ複数の趣味をあげている人が多い。また50代以下の人たちは、その趣味を仕事にも生かしていることがわかる。働きすぎていると感じている人も９割の人が「趣味がある」と答えている。

暮らしを楽しみ、人やものとの関わりの場をたくさん持っている会員像が浮かび上がる。

【課題】

１．生活者としての経験や視点から仕事や活動を組み立てる

調理や育児、介護などの家事が仕事にプラスになっていると答えている人が半数以上いることからも、私たちの仕事や活動は、生活者としての視点が切り離せないことがわかる。家事だけでなく、家族形態や家族像など自身の経験から、住まいやまちを考察し、活動スタイルを考えることなどを意識的に取り上げてはどうか。

２．子育てや介護などへのサポートを考える

子育て期や介護を担っている人は少ないものの、その時期の様々な負担を軽減する方策を、職場の制度（第２章）の改善などと併せて考える必要がある。

第４章　ジェンダーからみた新建会員

新建において「ジェンダー」という言葉を正面から扱ったのは、2013年に新建の編集で出版した『社会派建築宣言　誰もが人間らしく生きる生活空間の創造』が最初ではないかと思います。その第Ⅰ部第７章「新建活動においてジェンダーを考える」（中島明子）がありますが、それだけでは理解されないと、「多様な人々が創造・改善する生活空間へのステップ」と長い副題がついています。章の最後には、多様な人々が生きがいをもって建築創造に参画できるために、「まずは、女性建築技術者の実態と要求の調査からスタートしたい」とあり、これが７年後に「新建アンケート」として実現したわけです。

女性建築技術者に関してはこれまでも『建まち』誌やその他でも取り上げなかったわけではありません。新建草創期後の1976年に「女性建築技術者の会」（女技会）が発足しており、ここには新建の女性会員が多くを占めていました。当時、男女平等、女性の地位向上をめざした1975年の国際女性年の国内外の潮流が背景にあり、女技会の誕生も新建の男性を含めた多くの会員に支持されていたのです。

しかし、女性会員の活動は新建の中心には座ることのないままになっていました。そこに、近年の「性差別撤廃」「ジェンダー平等」の多様で大きな流れが浮上してきました。

新建50周年にあたって、東京支部ではジェンダー問題/平等を取り上げようと、分科会が設けられ議論は始まったところです。

新建アンケートではとりたててジェンダー平等に関する項目は設けていませんでしたが、性別に集計を行いました。新建会員の実態としてジェンダー平等の面からみた場合、どのような実態と課題があるのかをまとめてみたのが本章です。

なお「ジェンダー」という言い方は、「生物学的な性別（sex）に対して、社会的・文化的につくられる性別のこと」（JICA 国際協力機構）を指しています。

４－１　基礎項目におけるジェンダー

（１）支部別回答者のジェンダーバランス

女性25%以上が６支部・０が12支部

各支部のジェンダーバランスを女性会員の数とその割合でみる（**図４－１－１－１、図４－１－１－２**）。

女性会員がもっとも多いのは東京支部15人26%で、会員数が比較的多い支部は女性会員割合が高く愛知・奈良33%、福岡29%、京都28%、神奈川27%、北海道24%、千葉20%となっている。

逆に富山支部のように、会員数が多くても女性会員が少ない支部もある（13%）。また、会員数が少ない中で女性会員の割合が高い支部は、群馬、石川であった。

女性会員が０の支部は12ある。いずれも会員数は少なく全て12人以下である。

図4-1-1-1　支部別女性会員の人数

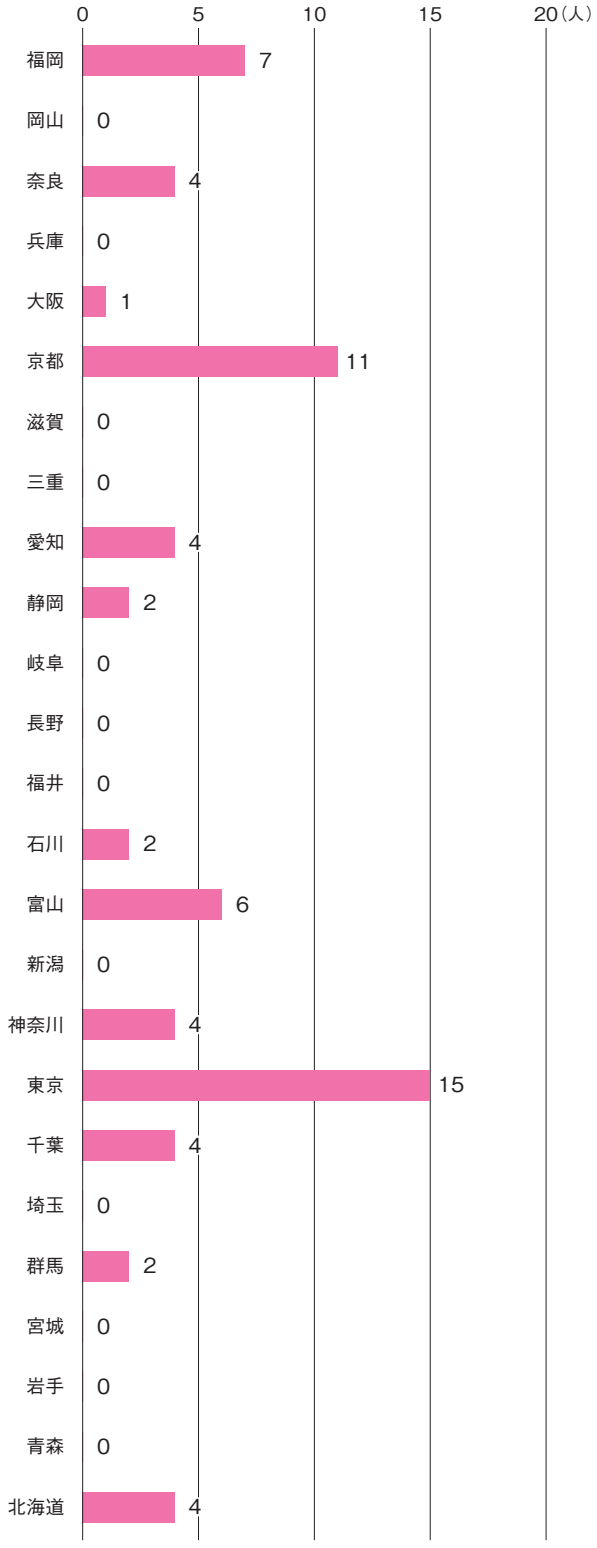
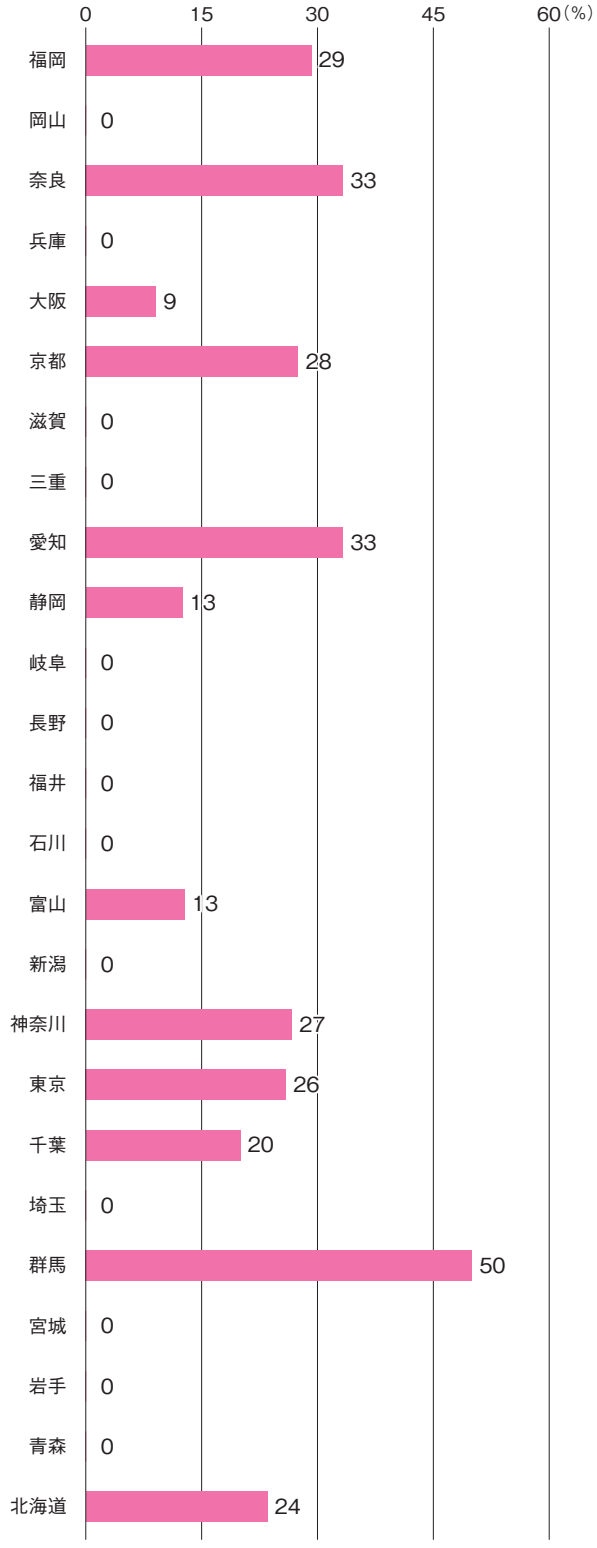


図4-1-1-2　支部別女性会員の割合



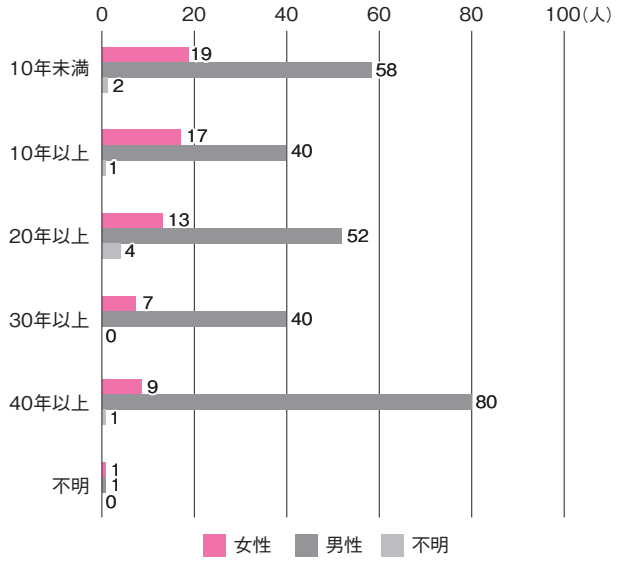
（２）会員歴のジェンダー

男性の方が会員歴が長い人が多い

男女差という視点で会員歴をみる（**図４－１－２**）。回答者は男性の方が多かったので、実数では男性がどの階層でも多いが、割合でみてみると特徴がわかる。男性は会員歴の長い人が多く、30年以上で35%、女性は24%である。女性は会員歴30年未満が54%と半数を超え、男性は36%であった。

このように、男性は、会員歴が女性に比べて長い人が多く、年齢も高く、したがって退職したり、再雇用している人が14%で女性６%より多くなっているのが本調査の特徴である。

図4-1-2　性別にみた会員歴（人数）



（３）入会のきっかけと男女差

ジェンダーによる差異より新建発足の事情が反映

入会のきっかけは、実数でみると（**図４－１－３－１**）ジェンダーで大きく異なるが、これは新建発足当初から男性会員が多かったことによる。回答の割合でみると（**図４－１－３－２**）、「会員の勧誘」、「新建の理念に共感」、「新建の活動に参加」は男女共に高く、男女差はない。男女差がみられたのは、「建築学生運動」「設立に参加」で男性の方が多いのは前述した通りで、「職場のつながり」「研究室のつながり」で入会した人は女性の方が若干多かった。

図4-1-3-1　性別にみた入会のきっかけ（実数）

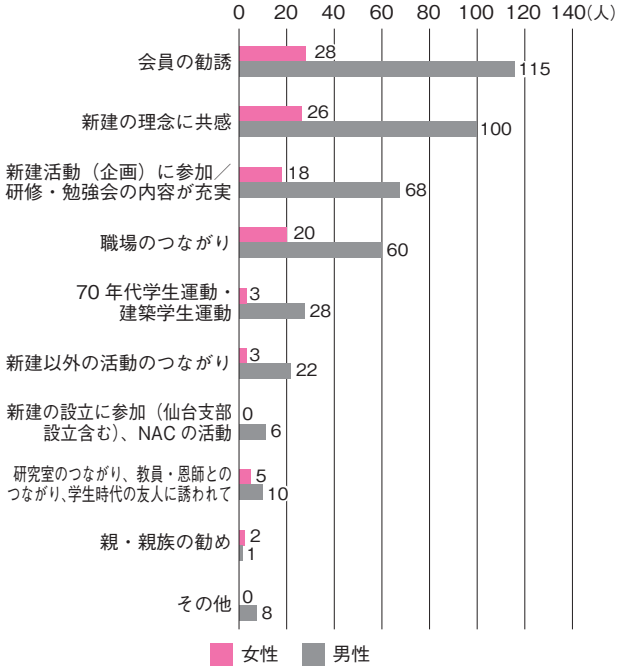
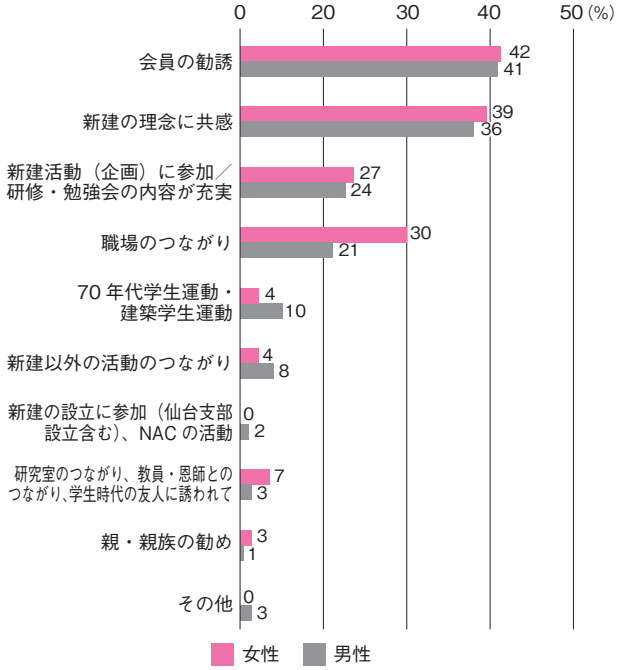


図4-1-3-2　性別にみた入会のきっかけ（割合）



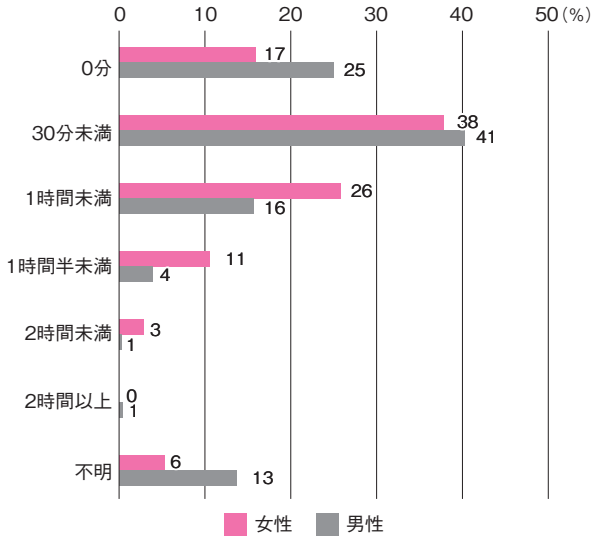
4－2　仕事におけるジェンダー

（1）職場への通勤時間

女性は相対的に長時間の割合が高い

女性の方が男性に比べて職場近くに住居を構えると考えていたが、予想に反して30分未満（職場と住宅が一緒を含む）では、むしろ男性の方が65％と女性54%に比べて多かった。さすがに女性で２時間以上の人はいないが、１時間以上（１時間半未満＋２時間未満＋２時間以上）でみると女性が14%、男性が５％で、女性の方が長時間通勤の割合が高い（**図４－２－１**）。

図4-2-1　性別にみた職場への通勤時間



（2）職場の組織形態、職場の規模とジェンダー

大きな違いはない

回答者は多様な組織形態に所属しており、株式会社、有限会社では男女で大きな違いはないが、若干の差異をみると、「企業組合」に女性の１割が所属し（男性３％）、種々の団体には男性が11％（女性７％）所属している（**図４－２－２－１**）。

職場の規模（人数）では、若干女性の方が規模の大きい職場に属しているが、全体に大きな違いはみられず、全体に比較的小規模の職場に属している（**図４－２－２－２**）。

図4-2-2-1　職場の組織形態とジェンダー

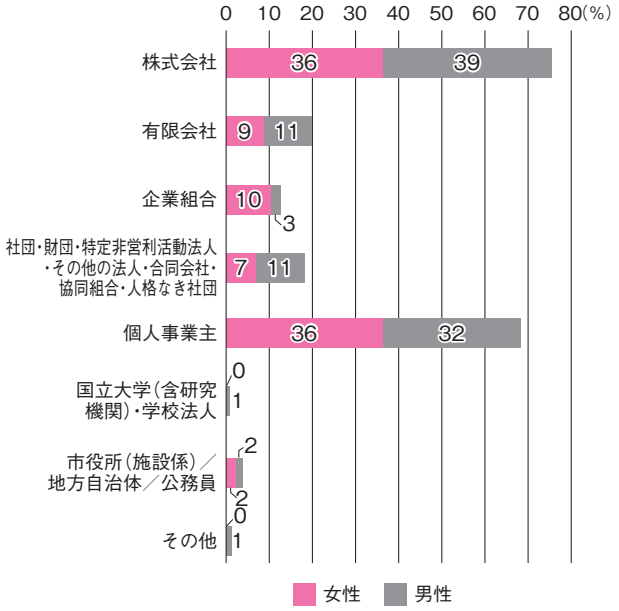
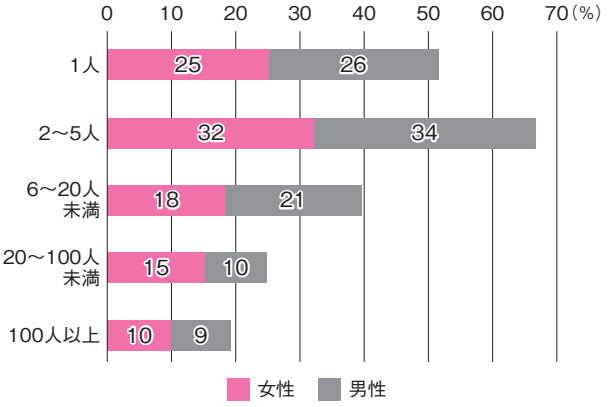


図4-2-2-2　職場の人数とジェンダー



（３）雇用形態とジェンダー

経営者では男性が、正規職員では女性の方が多い

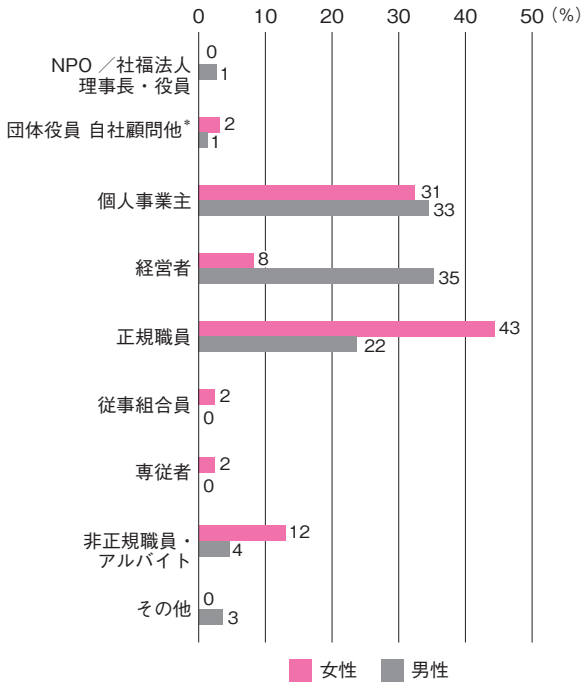
雇用形態で男女差の特徴はあるだろうか。個人事業主は両性ともに概ね３割で、違いについてみれば、経営者に男性が多く（男性35%、女性８%）、正規職員では女性が多い（女性43%、男性22%）。また非正規雇用・アルバイトで女性が男性より多い（女性12%、男性４%）。

その他８人は全て男性で客員研究員等の他、退職後の多様な雇用形態にある（**図４−２−３**）。

その他（全て男性）

客員研究員、嘱託職員、再雇用、特定業務職員（年度毎の更新65歳迄）、無期雇用の契約社員、非従事、居候

図4-2-3　雇用形態とジェンダー



（４）生活時間配分（家庭生活時間・労働時間）のバランスとジェンダー

女性の方がバランスよく暮らしている人がやや多い

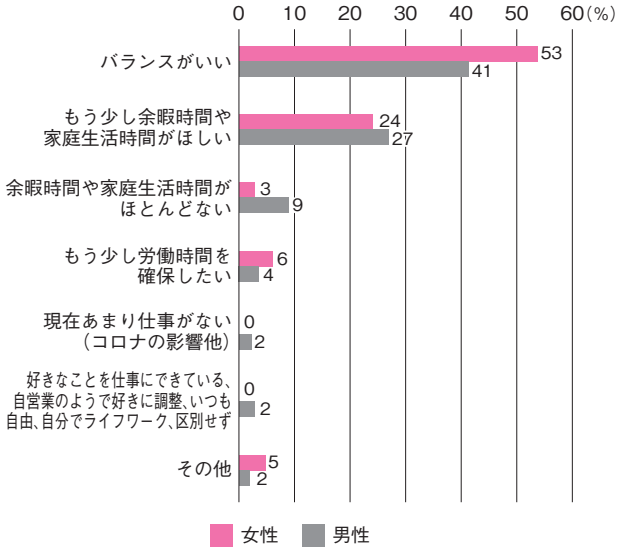
家庭生活時間、労働時間、余暇時間のバランス、いわゆるワーク＆ライフバランスは、女性の方が「バランスがよい」と回答している割合が高い（女性53%、男性41%）。「余暇時間や家庭時間がほしい」というのは男女共に１/４前後ある。

注目したいのは、１つはコロナ禍の影響等での仕事がない状況、２つは建築という仕事の自由さをあげている人が複数いることだ（**図４−２−４**）。

その他の内容

女性（３人）	どちらともいえない、どちらもほしい、年齢からもう少し仕事量を減らしてもよいかと思います。
男性（４人）	団体活動時間が多く全体のバランスが悪い、仕事と家庭生活の両方で余暇がほとんどない、仕事に束縛されない時間がほしい（日がほしい）、元々仕事しかなかったので、このまま仕事だけやって最期を迎えるだろう。

図4-2-4　性別にみた生活時間配分のバランス

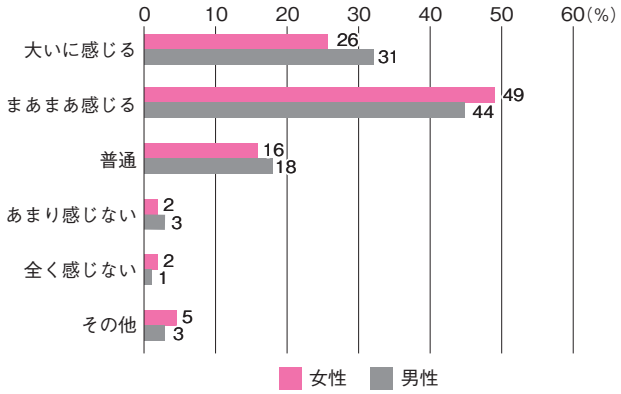


（５）仕事のやりがいとジェンダー

大きな違いはみられない

仕事のやりがいで性差がみられると思ったが、「大いに感じる」は男性の方がやや多いが、「まあまあ感じる」を含めると、女性も男性も75%強である。「感じない」という人も男女同じであった（図４−２−５）。

図4-2-5　仕事の喜びややりがいとジェンダー



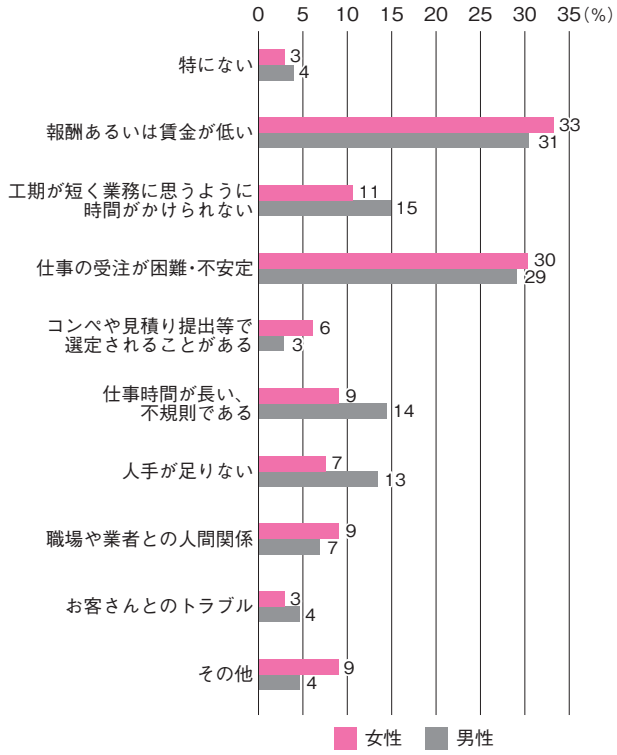
（６）仕事に関して困っていることに性差はあるか

大きな違いは見られないが……

「特にない」と回答した人は、女性２人（３％）、男性11人（４％）と割合で言えば大きな違いはないが、女性の64人（97%）、男性の264人（96%）が何らかの困りごとを抱えている。その内容のトップは両性ともに「報酬・賃金が低い」ことで、「仕事時間が長い、不規則である」「人手が足りない」の割合については男性の方がやや多い（図４−２−６）。

「その他」をみると、自分自身の自信がないことをあげる人がおり女性に多くみられる。男性の場合は自身の高齢化による問題、人材確保の問題をあげている。

図4-2-6　性別にみた仕事に関して困ったこと（複数回答）



その他の内容

女性	・工事期間が長い ・職人不足 ・価値観の違いが大きく若い人を育てることが難しい ・自分の能力不足 ・自分のスキルがアップしない ・前任者や部下のトラブル対応が多い ・緊張感が高く精神的に大変 ・組織の立て直しに突破口が見つからない
男性	・65歳以降の仕事の仕方 ・定年延長をするかどうか ・まだまだ失敗があり、年のせいかチョンボあり ・技術者の質と変化に対する成長が追いつかない ・自分に自信がもてない ・時代の流れに乗り切れない ・経験も自信も失いつつある

男性	・年をとり思うように仕事がこなせない ・業者の高齢化 ・若い人がいない ・特に木造建築で構造に疎い意匠設計者が多い ・福祉の現場をめざす人材不足 ・熱心な施工者や職人の減少 ・報酬が多額であればコンペに取り組んだり、新規採用できるだろう ・現在の収入では将来が不安なので長時間働かざるを得ない ・将来への準備が仕事と並行ではなかなか整えられない ・競争入札でダンピングが多く仕事が取れない ・施工者の見積り額が予算に合わない ・理事会の理不尽な決定・行動が多く多大なストレスに ・都市計画の考え方と実態の乖離 ・国の政策や事件事故、無配慮に振り回される ・管理すべきことが多すぎる

（７）仕事でパワハラやセクハラなどの嫌がらせや不快感を覚える言動を受けた経験

経験者は両性共無視できない人数であり、女性の方が多い

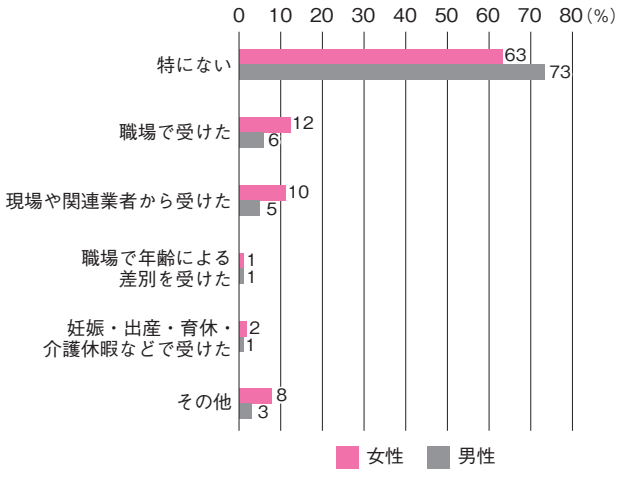
「特にない」と回答した人は、全体で７割であるが、女性63%、男性73%で、逆に「経験がある人」は、女性24人（36%）、男性72人（26%）と女性の方が割合でみると多く経験している。実数でみれば、男性も相当の人が何らかの経験をしている（**図４－２－７**）。

その内容は､具体的には明らかではないものの､「職場」「現場や関連業者」によるものが多くを占める。また、「出産・出産・育休・介護休暇など」の主に女性のライフイベントに関して受けた人が男女１人ずつ、職場以外で障がい者差別を受けた人もいた。

「その他」の回答でわかるように、過去に受けた人、自分自身ではないが身近に受けている人がいる場合もある。

よりよい職場づくりを考えた時、無視できない数字であり、仕事のネットワークも含めて改善する課題である。

図4-2-7　パワハラ・セクハラ等のハラスメントの経験とジェンダー



その他の内容

女性	・建築士会の勉強会に参加した際に受けた ・自分は直接受けていないが、身近に見たり感じたりすることがあり、精神的につらいときがある ・セクハラやパワハラの相談にのることがある。中には深刻なものもある ・過去にはいろいろ経験があるが、今は部下のモラハラが悩み ・若い頃は女性を低く見る発言をよく受けた
男性	・発注者から ・仕事先から、複数回ある。（人間の宿命と言う面もあるだろう） ・障がい者だからということで職場以外から馬鹿にされた ・現役のころは、そうした上司がいました ・工務店（大工や職人）などのコミュニケーション力・技術力の低下による ・正当だが、不条理な状況下でプレッシャーがきつい ・する側にもされる側にもなるので気を付けたい。また、建て主とも対等の関係を意識したい ・他

4－3　家庭生活とジェンダー

（1）家事時間（平日）（休日）

平日も休日も女性の方が多く担当

家庭生活における家事・育児・介護その他の時間（以下家事時間）は、平日も休日も女性の方が多く、男性の方が少ない。

家族形態によって異なるかをみても、単純に相関関係はみられない。さらに詳細な分析が必要かもしれないが、データ結果でみてみよう。

平日に30分未満と少ないのは男性の44%、女性の11%であり、これに対し、２時間以上は、男性では12%しかいないが、女性の半数以上（52%）となっている（**図４－３－１－１**）。

休日は全体に家事の時間が増え、男性も２時間以上の家事時間の人が26%に増えるが、女性はさらに71%と多くなる（**図４－３－１－２**）。

もちろん男性でも家事育児介護をパートナーと共に担っている人もいるし、女性でも合理的に時間を短縮している人もいる。

しかし、日本は他の先進諸国の中でも女性の無償労働（家事育児介護他）時間が多いことで知られている。OECD（経済協力開発機構）の2020年報告書でも無償労働（主に家庭内労働）の男女比は日本の女性は男性の実に5.5倍と突出して高い。2017年の内閣府男女共同参画局『平成28年社会生活基本調査結果から～男性の育児・家事関係時間』によると、共働き世帯であっても、６歳未満の子どもをもつ妻・夫の家事関連時間は妻6.10時間である一方で夫は1.24時間と５倍近くの開きがある。こうした日本の家事育児介護等の時間のジェンダーによる差異の傾向が、新建会員自身や家族や環境にも反映しているのではないだろうか。

図4-3-1-1　性別にみた家事時間（平日）

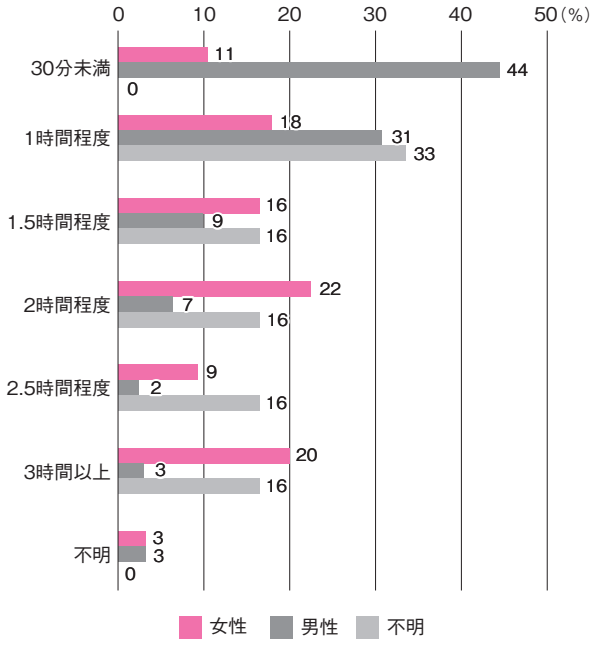
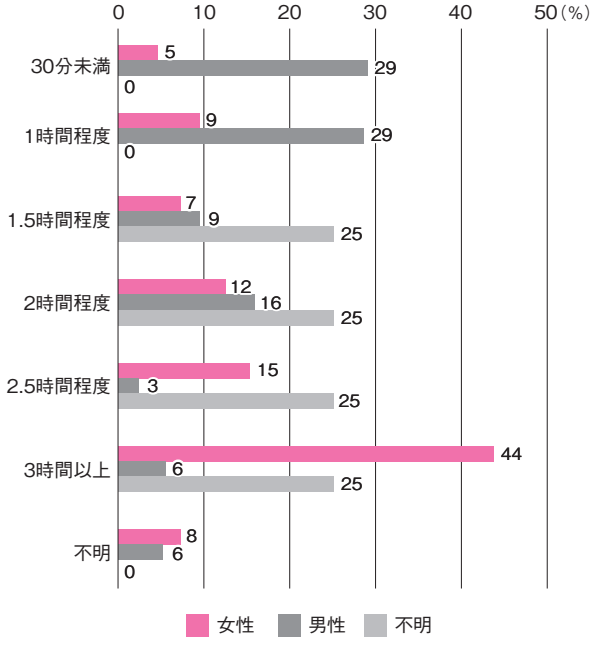


図4-3-1-2　性別にみた家事時間（休日）



（２）負担に感じられる家事

女性は全ての家事で負担を感じている

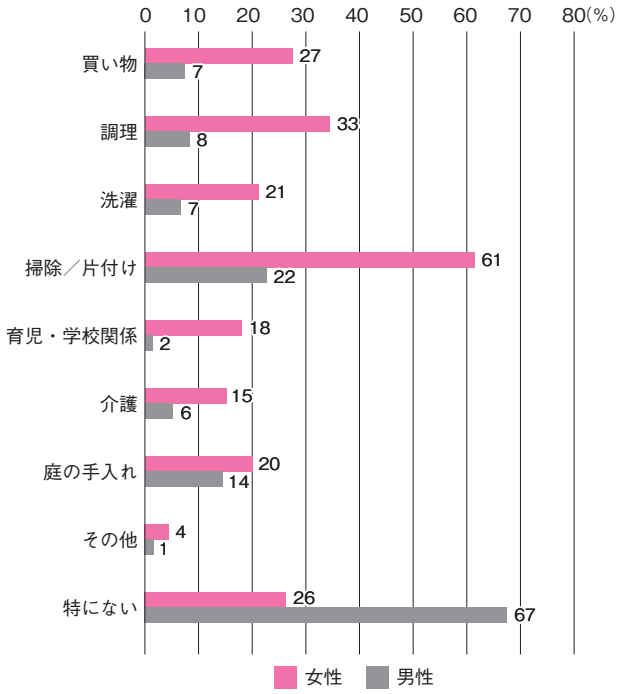
家事の負担と共に、それらの家事の負担についても、ジェンダーによる差異が明瞭である。

回答は複数答えている人が多かったが、それらから、家事の種別にまとめ直してみた。

「特にない」と回答したのは、男性67%、女性26%と、男性は女性の2.6倍である。

男女合わせて負担を感じる割合が高い順に並べると①掃除/片付け、②調理、③買い物で、予想外に④庭の手入れをあげている。全ての家事について圧倒的に女性の方が負担に感じているのは注目に値する（**図４－３－２**）。

図4-3-2　負担に感じられる家事（複数回答）



（３）家庭生活で仕事にプラスになっている家事育児などとジェンダー

ジェンダーによる差異が大きい

家庭での家事育児介護などは、仕事をしていく上で負担となる反面、その経験が、生活空間づくりにとって、プラスになることについて聞いているが、これもジェンダーによる違いが大きく出た。

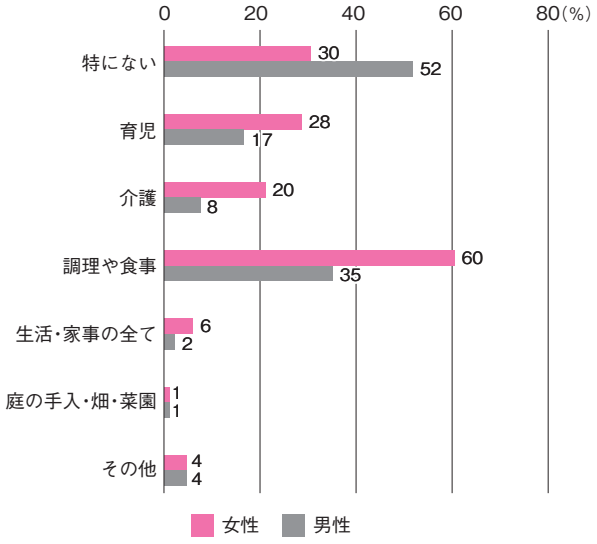
男性の半数以上は「特にない」と答え、女性では３割程度である。

プラスになったことは、男性も回答しており、男性の場合もっとも高いのは「調理や食事」で35%、ついで「育児」が17%で、「介護」は８%である。

これに対して女性は「調理や食事」が60%、「育児」が28%、「介護」が20%と、いずれも女性の方がプラスに感じている人が多い。

仕事の性格にもよるが、女性の方が家庭内の家事育児等を担当し、負担もあるが、仕事においてプラスになっていると感じている（**図４－３－３**）。

図4-3-3　性別にみた家庭生活が仕事にプラスと感じる割合



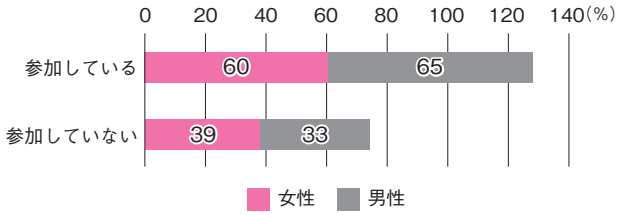
4－4　新建活動とジェンダー

（1）新建以外の地域活動・社会貢献活動への参加とジェンダー

大きな違いは無い

地域活動や社会貢献活動への参加状況は、男性の方がごくわずかに多い程度であった（**図4－4－1**）。

図4-4-1　新建以外の地域・社会貢献活動の参加とジェンダー

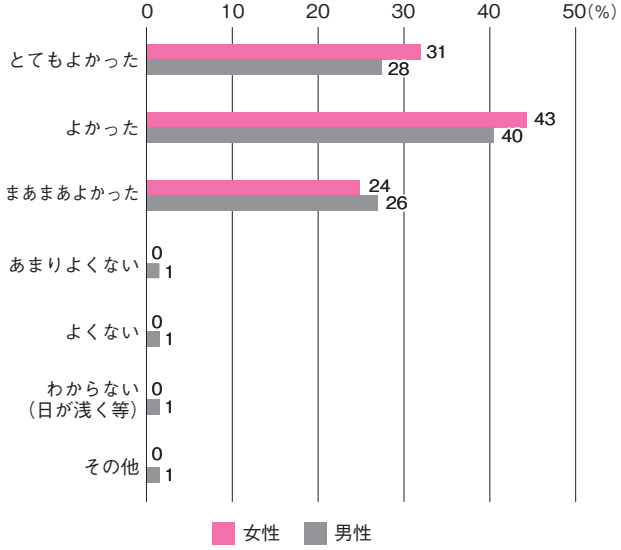


（2）性別にみた新建に入ってよかったか

女性の方がやや評価が高い

新建に入会した評価で、「とてもよかった」と「よかった」を合わせると、女性は76%、男性69%で女性の方がよかったと思っている人がやや多い（**図4－4－2**）。

図4-4-2　性別にみた新建に入ってよかったか



第4章　まとめと課題

【まとめ】

ジェンダー平等に関する項目を設けてはいないが、関係のありそうないくつかの項目について取り上げた。予想に反して差異がない内容もある。まとめてみると次のような特徴があった。

基礎項目とジェンダー

支部別にみた女性会員の実数・割合では、女性が25%以上いる支部がある一方で、全くいない支部が12支部で多くが会員数が少ない支部であった。また、新建の成り立ちにより、比較的早い時期から男性会員が多いことを反映して、男性会員の方が会員歴は長く、入会動機の差異がある。

仕事におけるジェンダー

職場の組織形態、職場の規模（人数）では違いがみられず、また「仕事のやりがい」「仕事に関して困っていること」についても、性別での違いはあまりない。

特徴的なことは、①雇用形態で経営者に男性が多く、正規職員で女性が多かったこと、②生活時間のバランスでは、全体的にバランスがよいと回答した人が多いが、女性の方がやや多かったのは

予想外であった。③パワハラ・セクハラ等については、経験がある人は全体に多くはないものの、経験者は女性の方が多く、男性も無視できない人数が経験していた。

家庭生活とジェンダー

家事時間で平日・休日共に女性の方が多く担当しており、全ての項目で女性の方が負担を感じ、そうした経験や家庭生活が仕事にプラスになっていると答えたのは女性の方が多かった。

その他

「新建に入ってよかった」と答えた人は女性の方が若干多かった。

【課題】

１．各支部でのジェンダーバランスを整える―すなわち多くの支部で女性会員の割合を高める課題である。一般に組織のなかでマイノリティの割合が３割となったときに、組織全体の変容をもたらすという米国の社会学者カンターの「黄金の３割」理論があるが、各支部で３割を女性が占めるようになると、支部での活動が多様で豊かなものになるだろう。

２．家庭生活における家事・育児・介護の担い方について考えたい。アンケート結果では、さらに分析が必要だが、ジェンダーで大きな差異がみられた。家庭をもつ新建のメンバーは比較的家庭内の家事・育児・介護を担っていると思うが、データからは、女性の方が負担する時間が長く、したがって負担感も大きいことを示している。家庭内民主主義とジェンダー平等を実現する上で、古くて新しい課題である。同時にそうした経験は仕事にとってプラスになると感じている人も少なくない。生活者として家事・育児・介護等を経験することは、生活派の建築をめざす建築人としては、住み手や使い手に共感しながらよりよい生活空間を創造する上でも貴重な経験になるはずだ。

３．職場などでのセクハラ、パワハラなどについて、経験者は女性の方が多いものの、男性も経験していた。建築界ひいては社会からハラスメントをなくし、誰もが互いを尊重し、仕事の環境も差別のない心地よいものに変えていくことにも取り組んでいきたい。

第５章　地域活動・社会貢献

５－１　地域活動・社会貢献活動

積極的に参加している

新建以外の地域活動、社会貢献活動に参加している会員が225人（65%）と、住民として地域に関与していることが伺える（図５－１－１）。

年齢別にみると、地域活動等への参加は、60代が77人（34%）と最も多く、次いで70代以上が69人（31%）、50代39人（17%）、40代31人（14%）と続く。30代以下は８人（４%）と大変少ない。20代30代は時間的にほとんど参加できず、余裕が出てきた60代70代の地域参加が大半を占める。地域活動参加年齢が高齢化し、若い人の地域参加をどう増やしていくか課題である（図５－１－２）。

図5-1-1　新建以外の地域活動、社会貢献活動

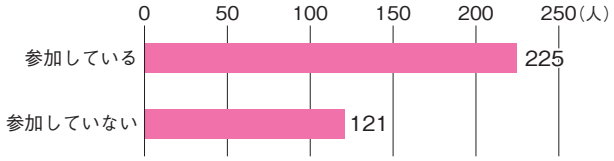
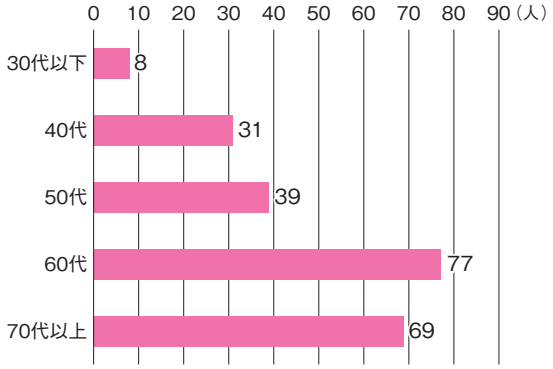


図5-1-2　年齢別地域活動参加度合い



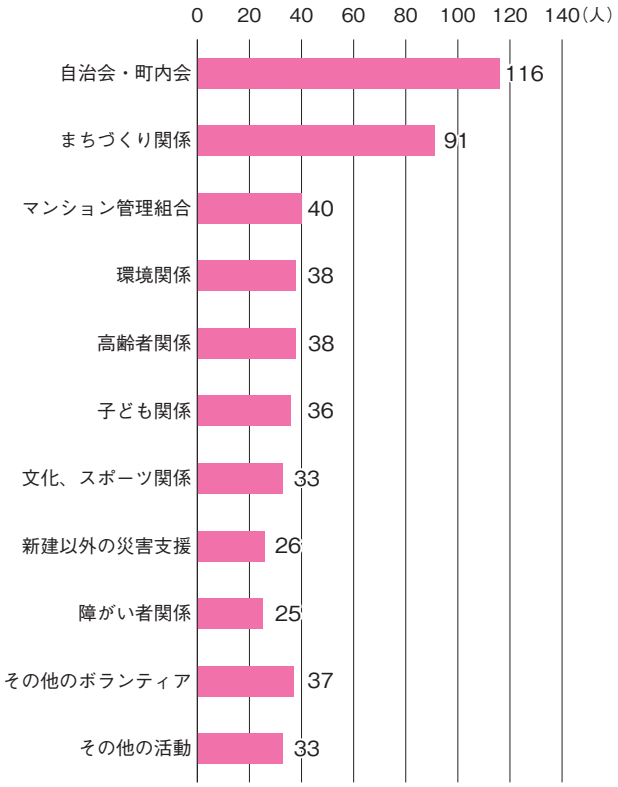
５－２　地域・社会貢献活動の内訳

自治会関係ほか、まちづくり関係の活動が多い

町内会関係116人（33%）マンション管理組合40人（11%）と自分が所属する自治組織に参加する割合が高い。

他にはまちづくり関係91人（26%）が多く、次いで環境活動38人、高齢者関連38人（共に11%）、子ども関係36人（10%）、文化・スポーツ関係33人（９%）、災害支援関係26人（７%）、障がい者関係25人（７%）と続く。職能を活かせる地域活動として、まちづくり関係が多いことは、会員の職能を活かした社会貢献を実践している現状が見られる。高齢者関係、子ども関係も多いが、環境に係る活動が多いことは、地球温暖化への危機感を反映していると思われる。中には、婦人運動、平和運動、政治運動などの社会活動への参加も少数だがいる。また一人で複数の活動をしている活動的な人も少なくない（図５－２）。

図5-2　地域・社会貢献活動の内訳（複数回答）

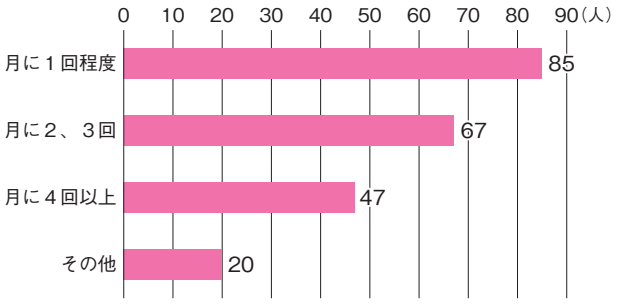


５－３　もっとも参加している地域活動の頻度

月一回程度の活動が多い

月に１回程度が85人（39％）ともっとも多く、月に２、３回が67人（31％）と続くが、月に４回以上も47人（21％）と高い比率である。逆に年に数回程度以下は１割以下と少ない。イベントや定例会など月に１回程度の活動が多いと思われる。月に２回以上も７割近い割合であり、たいへん積極的に活動していることが伺える（図５－３）。

図5-3　もっとも参加している地域活動の頻度



５－４　近所付き合いの深さ

会員の多くが近所に親しい人がいる

近所に親しい人がいるは188人（55％）と多い。挨拶程度の人だけは122人（36％）で、あまり親しい人はいないは31人（９％）と比較的少ない。地域の人との交流を大切にしている人が会員には多いと推察できる（図５－４－１）。

年齢別にみると、60代以上では近所に親しい人がいる人の割合が多く、あまり親しい人はいない割合はとても低い。一方で、40代以下では、あいさつ程度や親しい人はいないが、合わせて48人（62％）いることは時代を反映しているともいえる。高齢ほど近所付き合いが強いといえる（図５－４－２）。

図5-4-1　近所付き合いの深さ

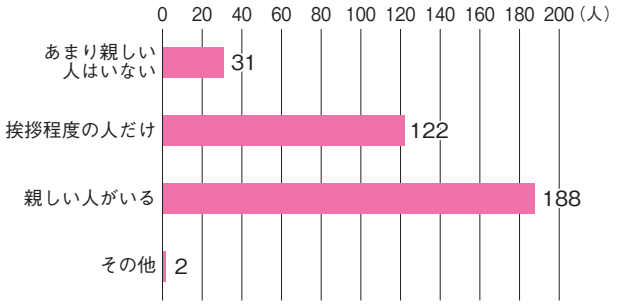
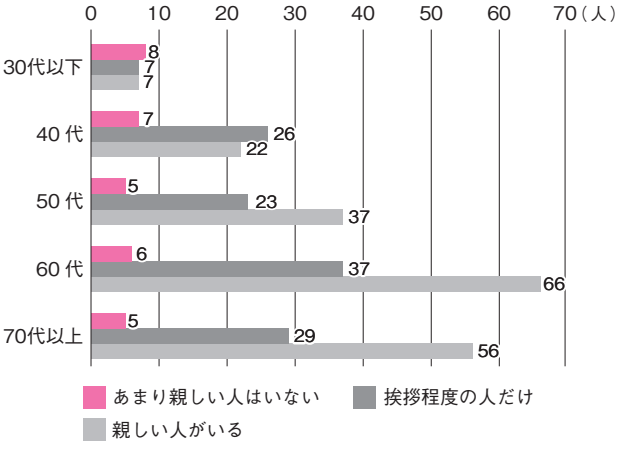


図5-4-2　年齢別近所付き合いの深さ



5－5　助け合える人の存在

会員の多くが近所に助け合える人がいる

244人（71%）の人が助け合える人がいるに対し、助け合える人がいないは84人（24%）と1/3である。多くの会員は地域住民の相互扶助に積極的に関わっているとみてよいのではないか。特に災害時は避難所開設や住まいの安全性についての相談などに期待されているのではないか（**図5－5－1**）。

各年代における、近所に日常生活や災害時に助け合える人がいる割合は60代では87人（81%）、70代以上では67人(74%)と多く、50代42人(64%)、40代35人（64%）と続き、30代以下は11人(50%)と低下する（**図5－5－2**）。

図5-5-1　助け合える人の存在

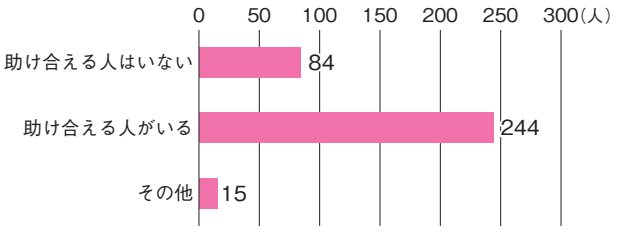
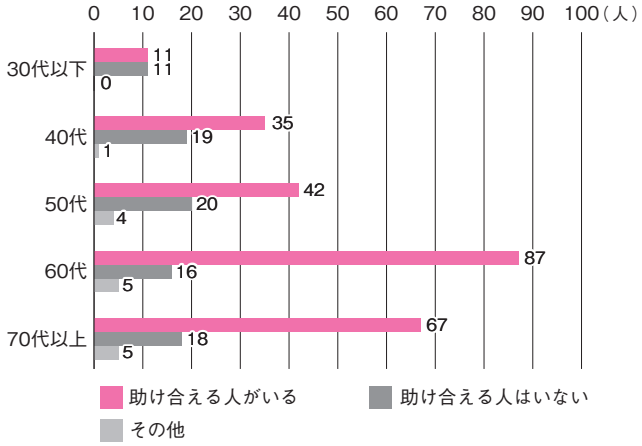


図5-5-2　年齢別助け合える人の有無



5－6　地域での専門的相談の有無

比較的多くの会員が専門的相談を受けている

専門的な相談を受けることがたまにあるが181人(53%)ともっとも多く、特にないが118人(34%)である。よくあるは41人（12%）にとどまっている（**図5－6－1**）。

年齢別にみると、専門的相談がよくある比率は年齢が上がるごとに増え、70代以上で23%と多い。よくあるとたまにあるの合計は、40代以上の年代では6割を超えているが、30代以下では3割に下がる。現役の一線を退いても、地域で専門性を活かした相談は受けているようだ（**図5－6－2**）。

職種別にみると、営業職は地域での営業活動もするし、大工その他の職人は、消防団やお祭り活動などへの参加も多く、相談を受けやすいのではないか。専門的相談は特にないも比較的多く、専門性の近隣へのアピールをあえてしていない会員も多いのではと推測する（**図5－6－3**）。

図5-6-1　地域での専門的相談の有無

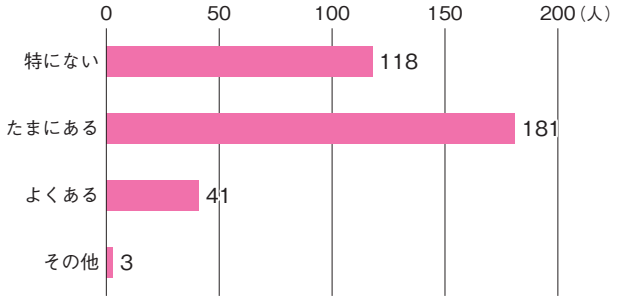


図5-6-2　年齢別地域での専門的相談の有無

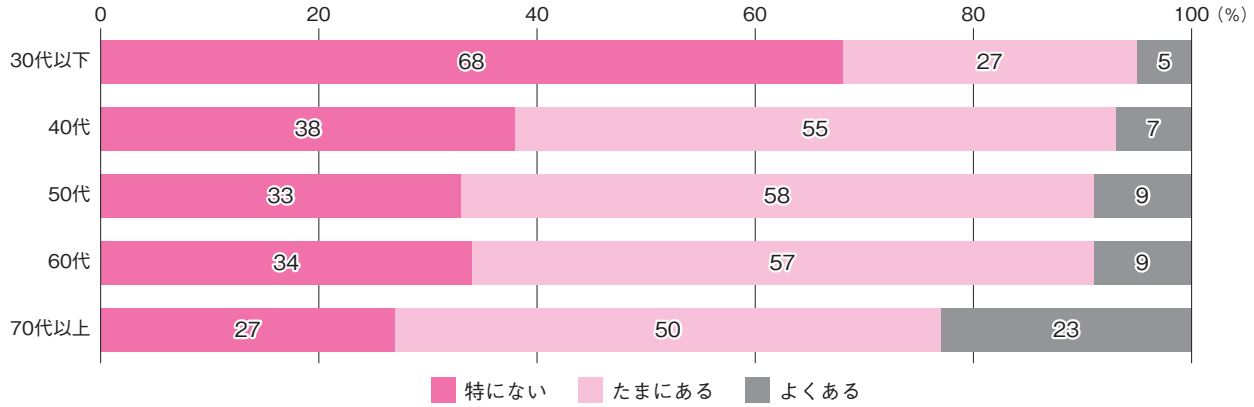
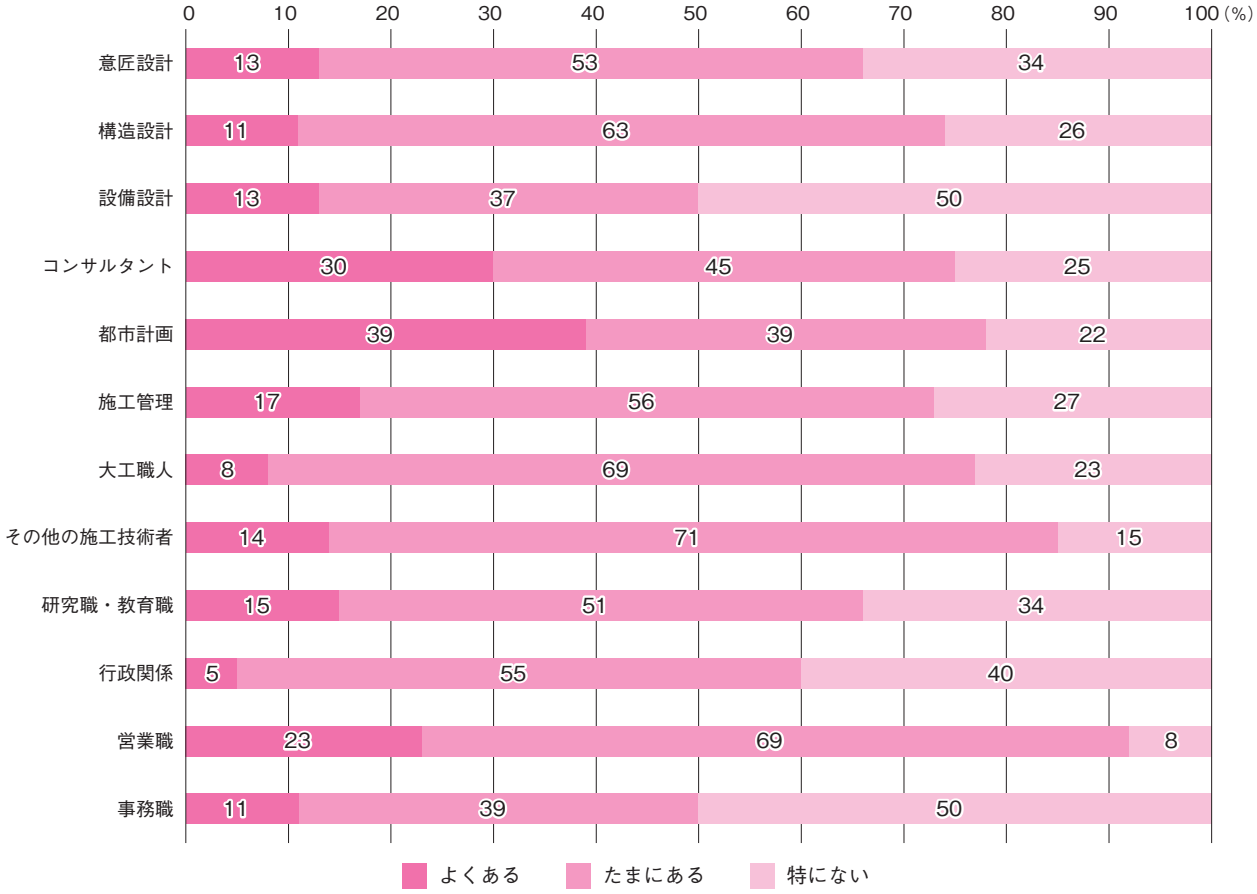


図5-6-3　職種別専門的相談の有無



第５章　まとめと課題

【まとめ】

地域活動への参加

地域活動、社会貢献活動に参加している会員は65％と多い。年齢が下がるにしたがって、地域活動への参加は減っていく。仕事や子育てに時間を取られ、地域に目が行き届かないという事情も推察できる。

地域活動の内訳では、町内会・マンション管理組合の自治組織が多い。その他では、まちづくり関係の活動が多い。職能を生かした地域への取り組みは、まさに新建の理念にかなっている。活動頻度も「月に１回以上」は９割にものぼり積極的である。新建会員の特徴の一つと言える。

地域住民との交流

近所に親しい人がいる会員は55％で、あいさつ程度の付き合いも36％で合わせて９割に上る。日常生活や災害などで助け合える人も同様の傾向である。半面、若い人の地域活動への参加が少ないのと同様に、40代以下は挨拶程度の付き合いが多い。特に若い世代では、小さな子どもがいる母親同士がネットでつながるなど、必ずしも地域にこだわらない関係も多いと思われる。一方、ネットではつながりを持てず、孤立してしまう単身者や高齢者も増えてくるのではないか。今後地域で信頼し、助け合う関係も重要性を増してくる。

また、地域で専門的な相談を受けることが「たまにある」が53％と多いが、「よくある」は12％で少ない。地域では専門家というより住民の一人として関わっている会員が多いと推察される。

【課題】

１．若手の地域活動

若い人の地域参加を促進し、地域での世代間交流をどうやってつくっていくかはこれからの重要な課題である。そのためには若手の労働時間の短縮を進めるなど、地域生活時間をどのように確保するかが重要な課題であろう。

２．地域活動・社会貢献活動の再評価

会員がかかわる地域での様々な個人的な取り組みをもっと新建で評価し、『建まち』誌などでより積極的に取り上げてくことも必要だ。それらの記事を、地域の関係者に配布すれば新建のアピールにもなるのではないか。

また、会員の職能を地域に生かすということで言えば、もっと自身の職能の専門性を周りにアピールしていっても良いのではないか。地域活動へのボランティア参加が、専門家としての信頼につながり、結果として仕事に結びついてくると良い。

第６章　新建について

６－１　新建はどんな存在

新建の存在意義・性格をしっかり認識している会員が多い

回答の半数を超えたのは「社会に目を向ける場」が186人（53%）、「同じ志（憲章を介して）が集まる場」が182人（52%）だった。また「技術交流の場」が146人、「話し（飲み）相手がいる場」が143人（共に41%）、「刺激を得る場」が136人（39%）と続いた。いずれも新建の性格を表しており、会員交流の大切さの評価も高い。

さらに「職能を考える場」が122人（35%）で、その重要性も確認できる（図６－１－１）。

会員歴別に見てみると、会員歴40年以上すなわち草創期に入会した会員は「憲章」「社会との繋がり」を新建の存在意義と評価している。会員歴の長短に関わらず評価されているのが「話し相手」「刺激を受ける」など交流に対する見方である（図６－１－２）。

図6-1-1　新建はどんな存在（複数回答）

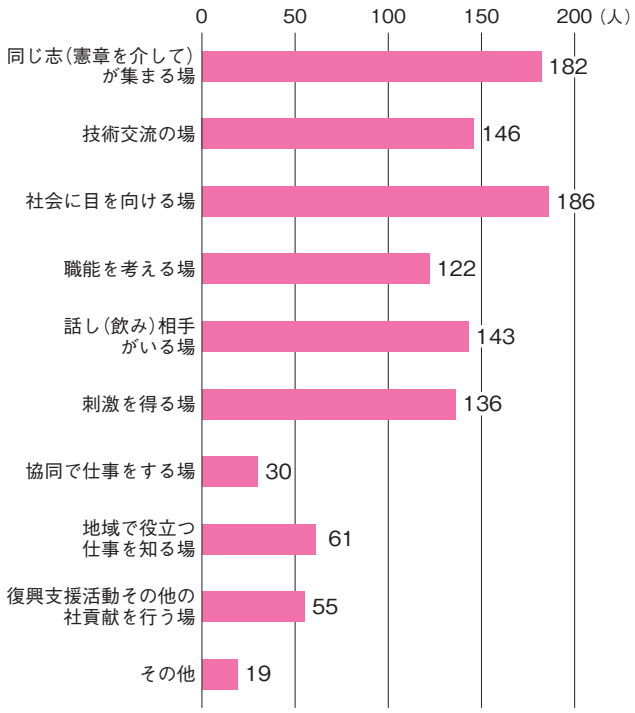
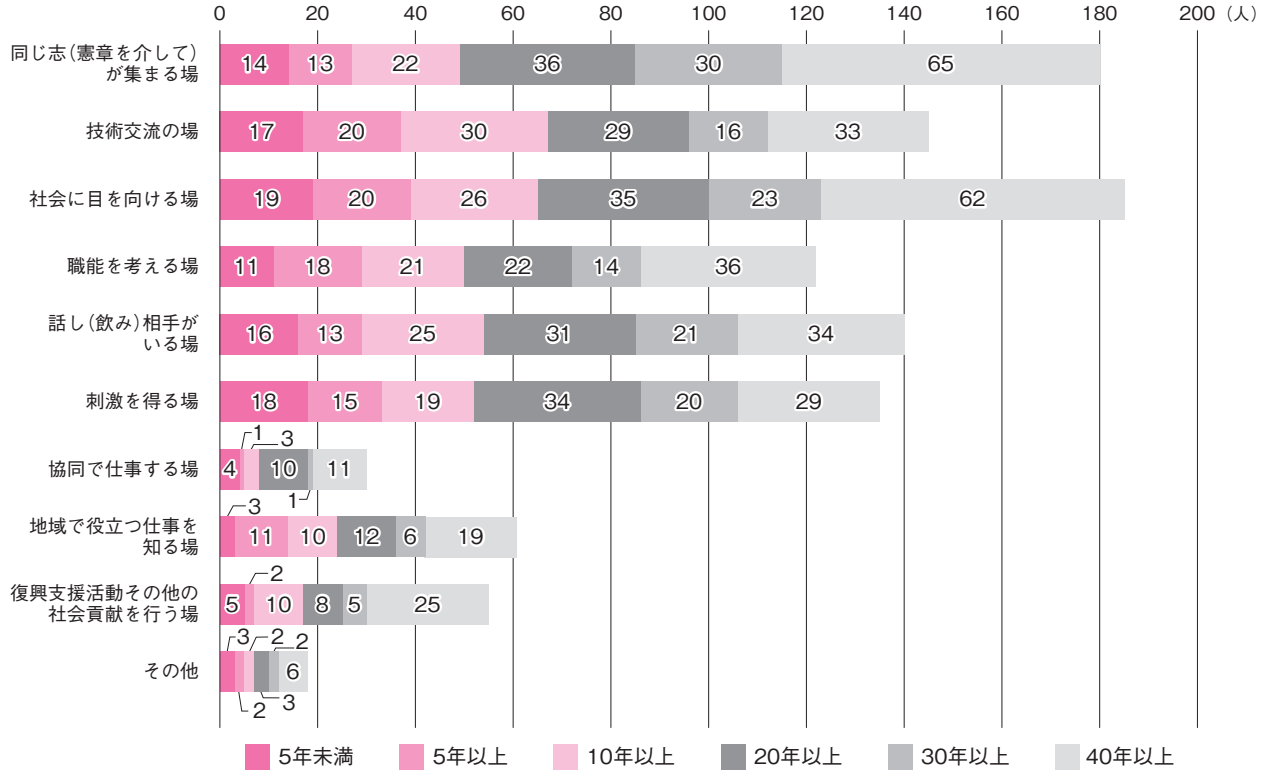


図6-1-2　会員歴別新建はどんな存在



6－2　新建に対する評価

回答の98%が「よかった」と評価

回答の多いのは、「よかった」140人（42%）、「とてもよかった」101人（30%）、「まあまあよかった」90人（26%）の順で、回答者の98%には満足度が高い。

現在在籍している会員だから肯定的反応は当然といえるが、むしろ少数ながら「よくない」２人や「あまりよくない」３人と答えた会員の意見も聞きたい（**図６－２－１**）。

年齢別に見ると、30代以下・50代・70代以上はほぼ100%と満足度が高く、少数だが不満が出ているのは40代と60代である（**図６－２－２**）。

入会したきっかけとの関係を見てみたが、「とても」「まあまあ」「よかった」のそれぞれ票数に、きっかけによる多寡はあるが、全体順位と差がなかった。

図6-2-1　新建に入ってよかったか

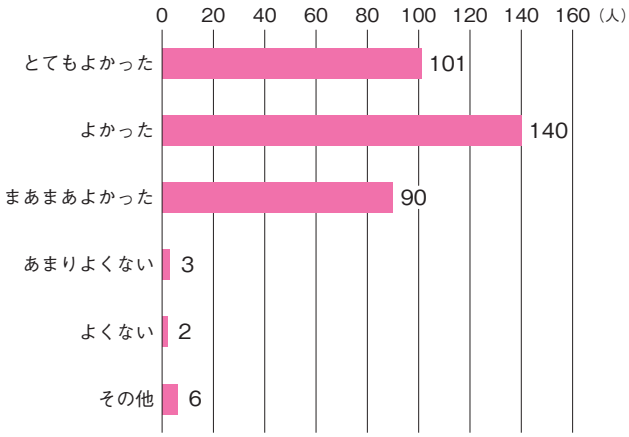
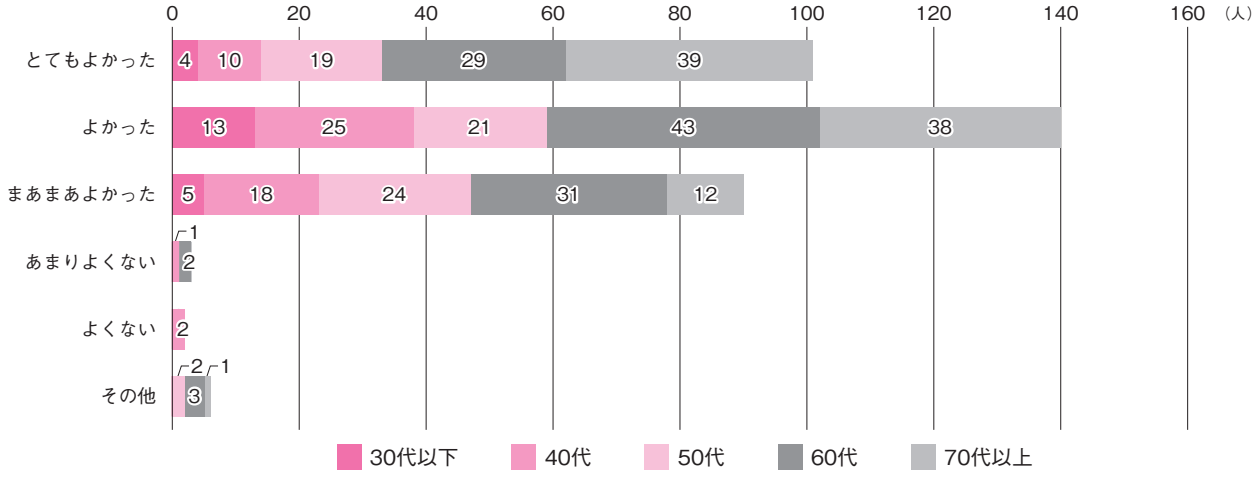


図6-2-2　年齢別新建に入ってよかったか



６－３　新建に入ってよかったこと

年齢を超えた交流と関心のある企画が過半

「年齢を超えて知り合いがたくさんできる」226人（65%）がもっとも多く、「関心のある企画に参加できる」185人（53%）が続いた。「尊敬できる人や憧れの人と交流できる」160人（46%）も多く、個々人の繋がりも注目すべき要素と言える。「いろいろな地域に行く・地域の仕事を知る」110人（31%）も評価が高い。（図６－３－１）。

評価項目ごとに年齢割合を見てみると、60代・70代以上の会員の評価が高いのは「関心のある企画に参加できる」115人（当該回答数の62%）、「いろいろな地域に行く・地域の仕事を知る」66人（当該回答数の60%）、「年齢を超えて知り合いがたくさんできる」121人（当該回答数の54%）、「尊敬できる人や憧れの人と交流できる」84人（当該回答数の53%）で、半数を超えている。

50代以下の回答で比較的多いのは「悩みや迷っていることを相談できる」42人（当該回答数の55%）、「尊敬できる人や憧れの人と交流できる」73人（当該回答数の46%）である（図６－３－２）。

図6-3-1　新建に入ってよかったこと（複数回答）

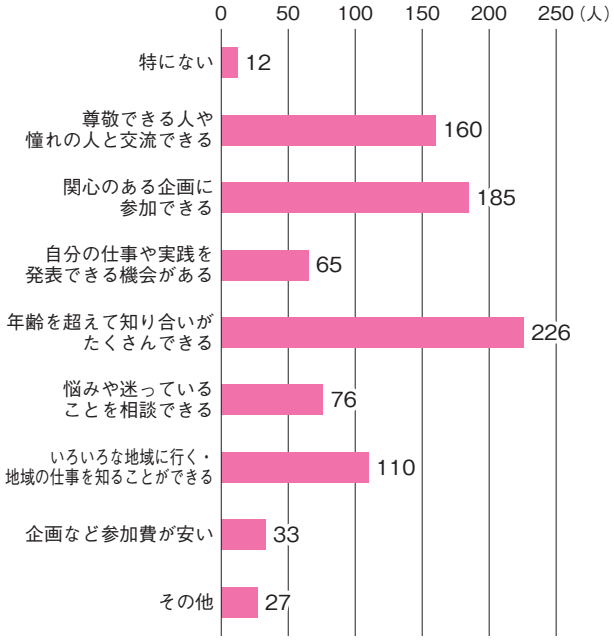
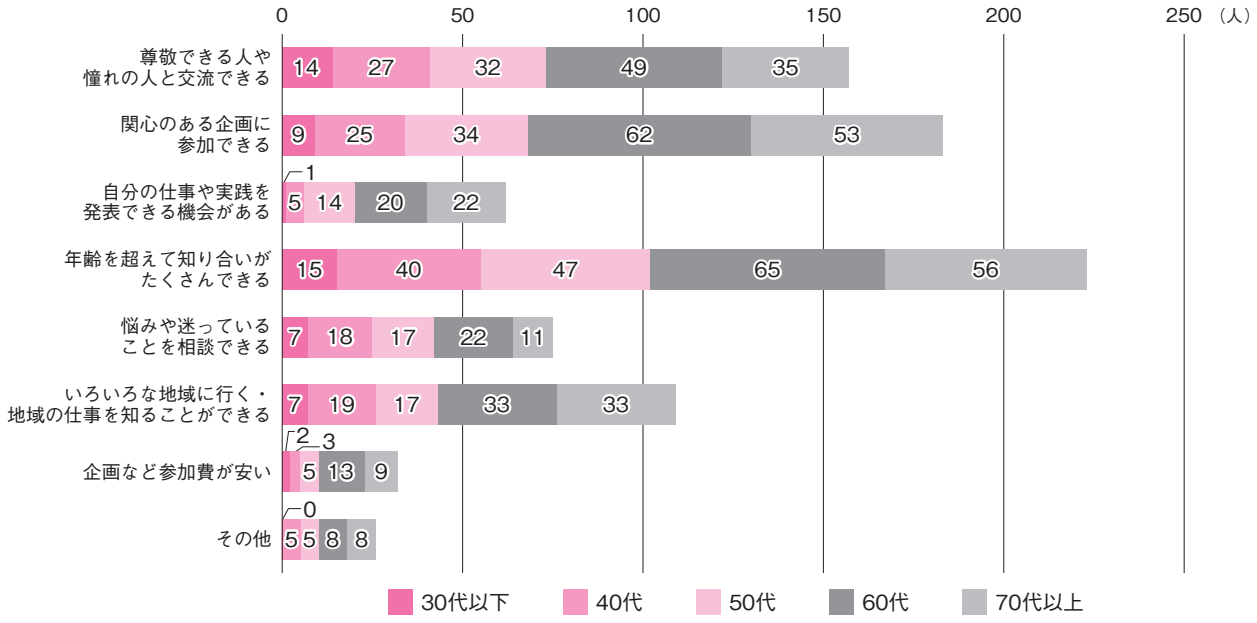


図6-3-2　年齢別新建に入ってよかったこと



「入会したきっかけ」別に「入ってよかった点」の関係を見てみた。「入会のきっかけ」により、評価する点に多少の動きが見られるが、それぞれ上位１～３位は全体順位１～３位と同様の結果になっている。

特徴的なのは、「会員の勧誘で入会した」人は「年齢を超えた交流」が１位で「尊敬できる人との交流」が２位なのに対し、「理念に共感して入会した」人は「年齢を超えた交流」が１位で「関心のある企画」が２位、「企画に参加して入会した」人は「関心のある企画」が１位で「年齢を超えた交流」が２位と、順位が入れ替わっていることである（**図６－３－３～６－３－５**）。

図6-3-3　会員の勧誘で入会した会員の評価する点

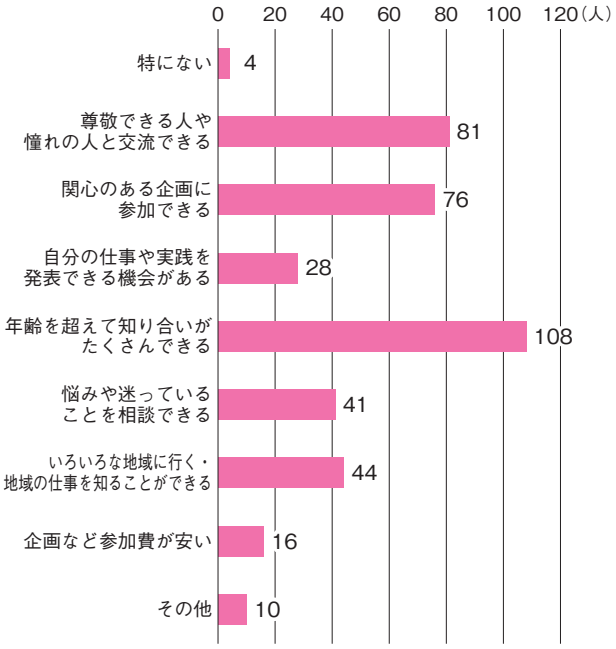


図6-3-4　理念に共感して入会した会員が評価する点

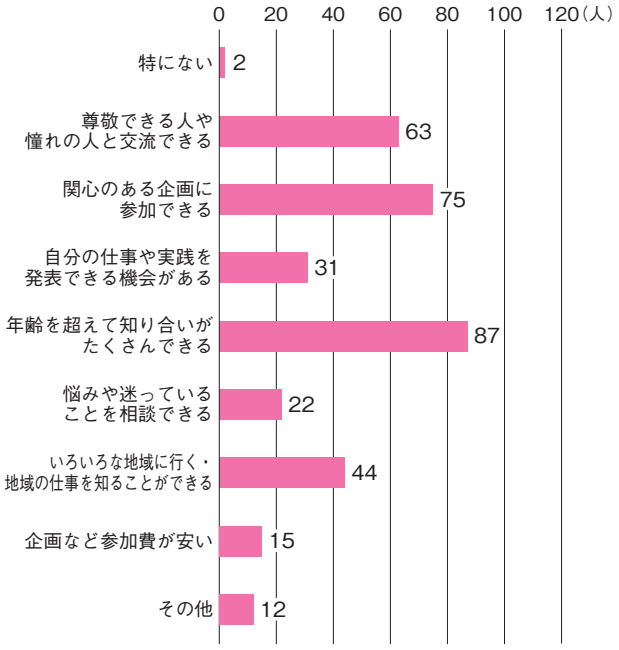
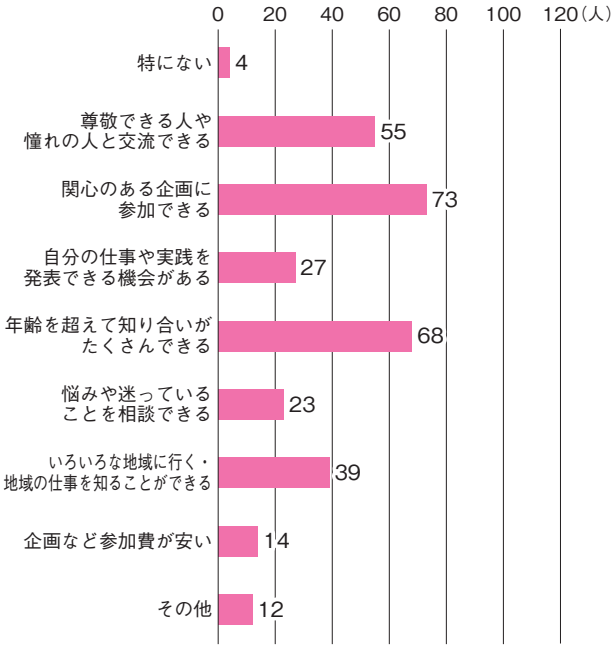


図6-3-5　新建企画に参加して入会した会員が評価する点



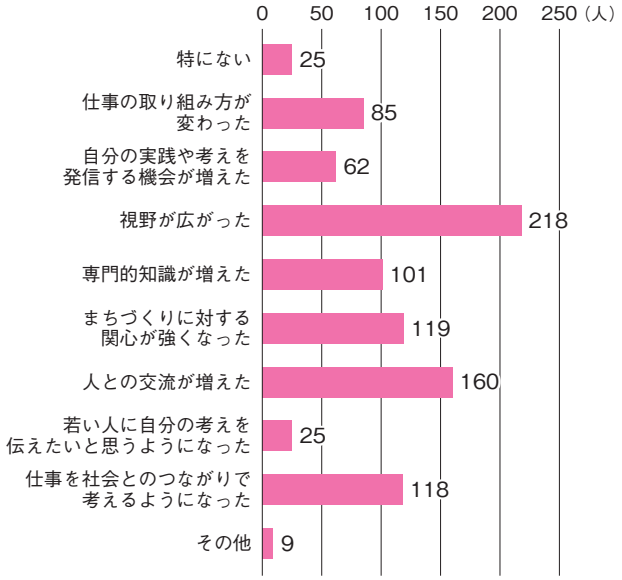
６－４　新建に入って影響を受けたこと

交流の中で、視野が広がって、まちづくりに対する関心が強くなった人が多い

「視野が広がった」218人（62%）、「人との交流が増えた」160人（46%）、「まちづくりに対する関心が強くなった」119人（34%）、「仕事を社会とのつながりで考えるようになった」118人（34%）の順で多い。

「まちづくりに対する関心が強くなった」回答者は意匠設計や構造設計・設備設計など単体設計者だろうか、新建会員の職種（１−９）から見て、「視野が広がった」という回答数と共に、新建の性格が「建築・まちづくり」にある点でうなずける。自らの経験に捉われず関心が広がっていることが分かる（**図６−４−１**）。

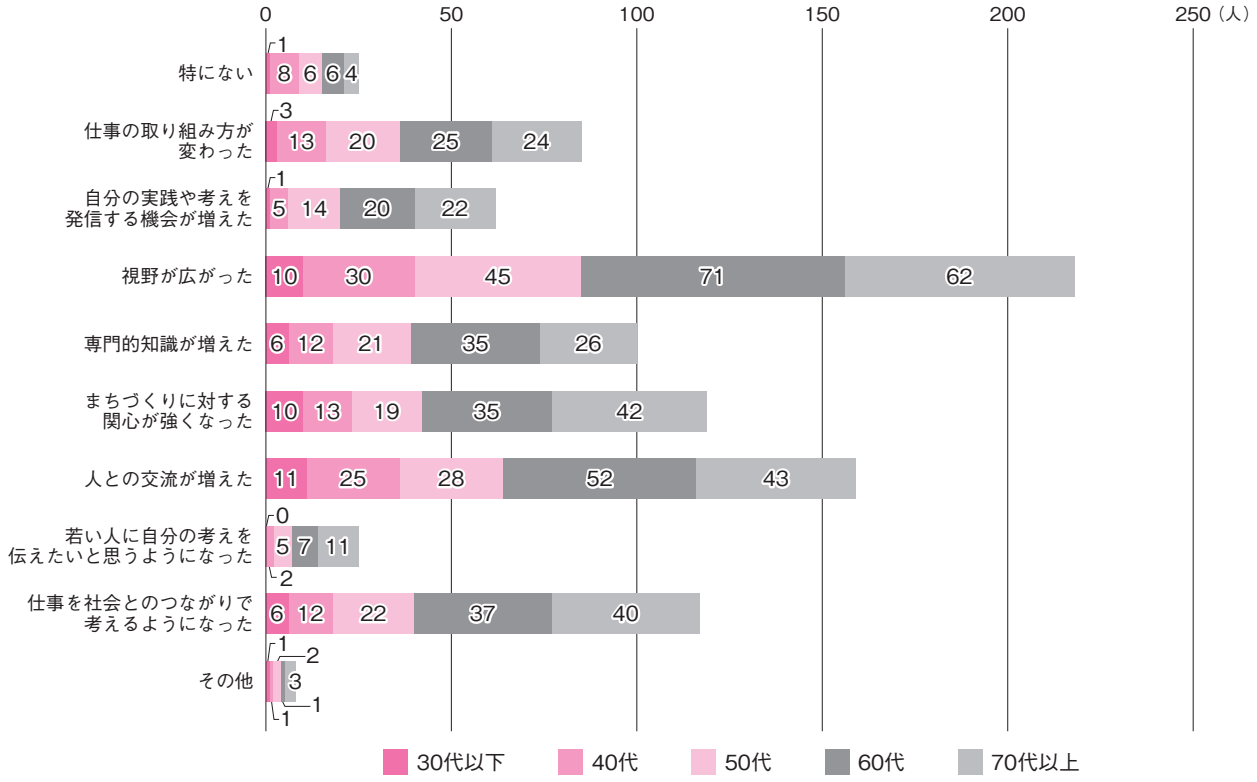
図6-4-1　新建に入って影響を受けたこと（複数回答）



年齢別に見てみると、60代以上では「視野が広がった」133人（38%）、「人との交流が増えた」95人（27%）、「まちづくりに対する関心が強くなった」「仕事と社会のつながりを考えるようになった」共に77人（22%）、「専門的知識が増えた」61人（17%）の順で多い。

50代以下でも「視野が広がった」85人（24%）がもっとも多く、「人との交流が増えた」65人（19%）、「まちづくりに対する関心が強くなった」42人（12%）、「仕事を社会とのつながりで考えるようになった」40人（11%）と続く（**図６−４−２**）。

図6-4-2　年齢別新建に入って影響を受けたこと



6－5　新建の運営への参加状況

参加したのは「企画などの準備」160人（46%）、「幹事」159人（46%）が多く、「建まち誌の編集・寄稿」132人（38%）、「支部ニュース作成」124人（35%）などが比較的多い。「参加したことはない」も81人（23%）と一定数ある。

また残念ながら「参加したくても忙しくて参加できない」が13人（３%）（図６－５－１）。

年齢別に見てみると、「企画などの準備」を担っているのが60代63人（18%）、70代以上42人（12%）、50代26人（７%）であわせて131人（37%）となっている。「幹事」経験は70代以上52人（15%）、60代48人（14%）、50代30人（９%）、40代20人（６%）、30代以下８人（２%）と、若手の担い手が極めて少ない。「支部ニュース」への関わりは50代以下48人（14%）と比較的若い層の率が高い（図６－５－２）。

図6-5-1　運営への参加状況（複数回答）

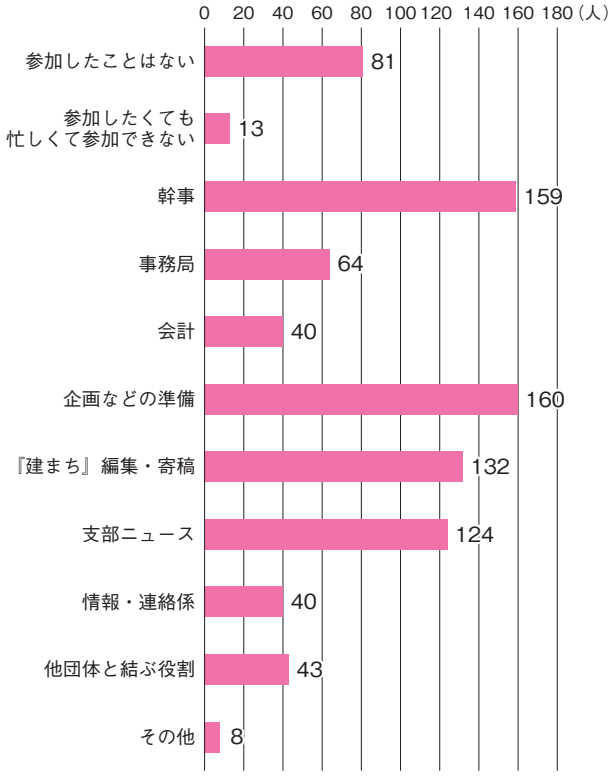
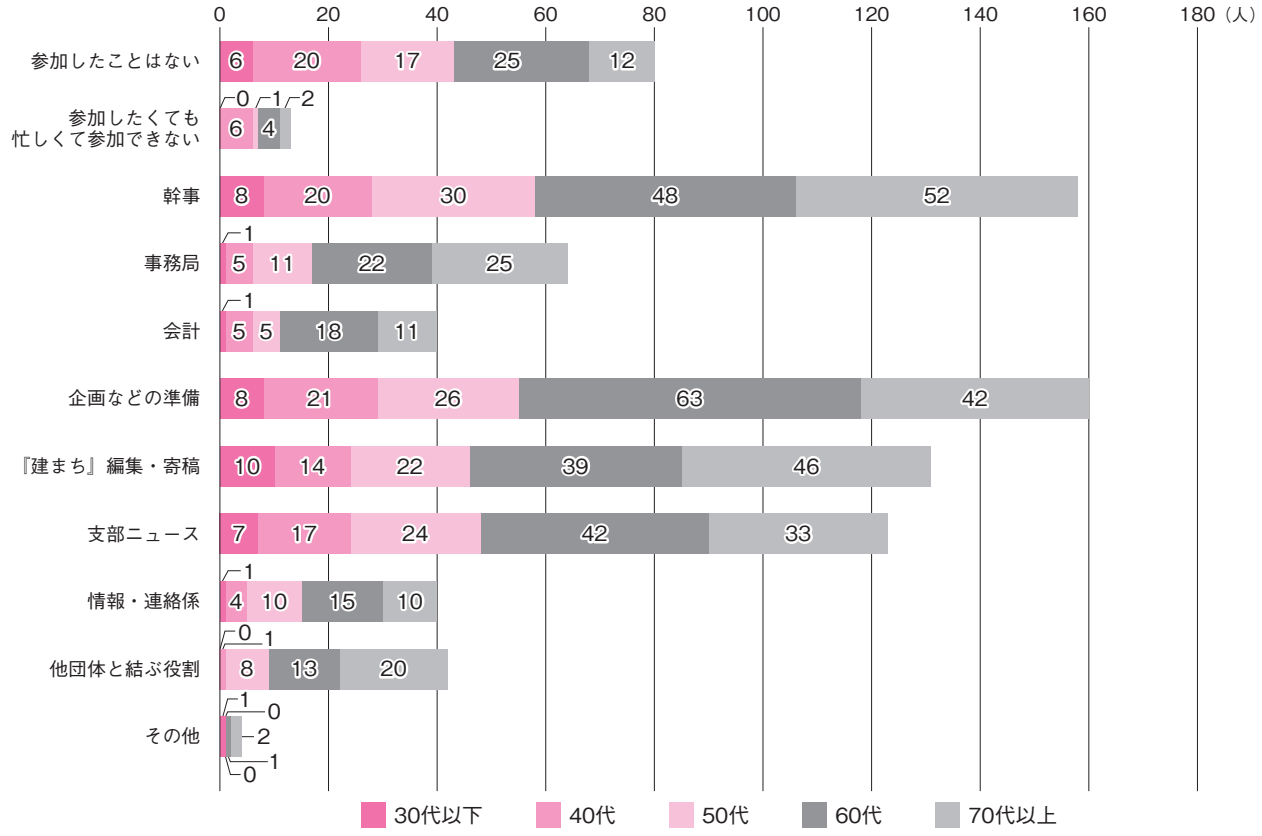


図6-5-2　年齢別運営への参加状況



６－６　新建の企画への参加状況

支部企画への参加は多いが、ブロック企画への参加は少ない

支部活動への参加が多く、「支部の見学会・講演会など」232人（66%）、「支部企画の例会・勉強会」230人（66%）、「支部懇親会・交流会」224人（64%）、「実践報告会（仕事を語る会）」155人（44%）となっており、全国の活動では「建まちセミナーなど」218人（62%）が多い。「ブロック会議・ブロックセミナーなど」はまだ認知不足なのか104人（30%）と少ない（**図６－６－１**）。

年齢別にみると、全ての企画で参加者の半数以上を60代・70代以上の会員が占めている（**図６－６－２**）。

図6-6-1　企画への参加状況（複数回答）

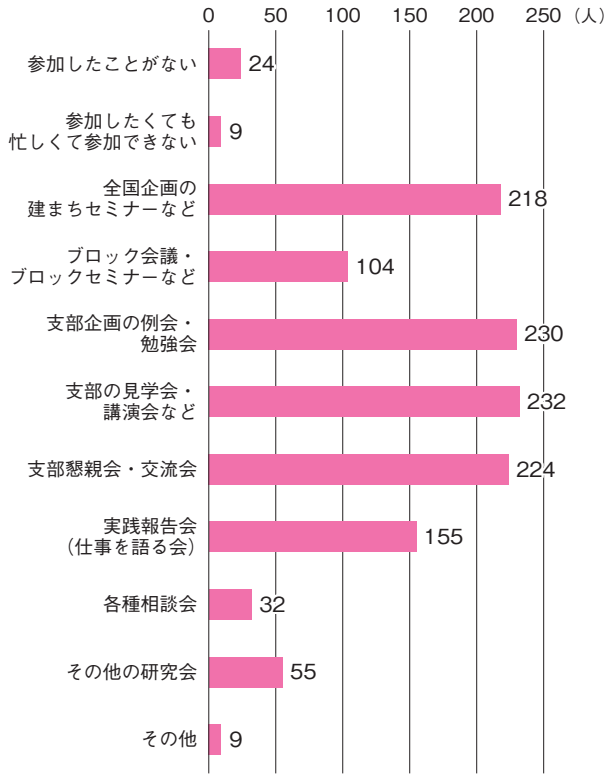
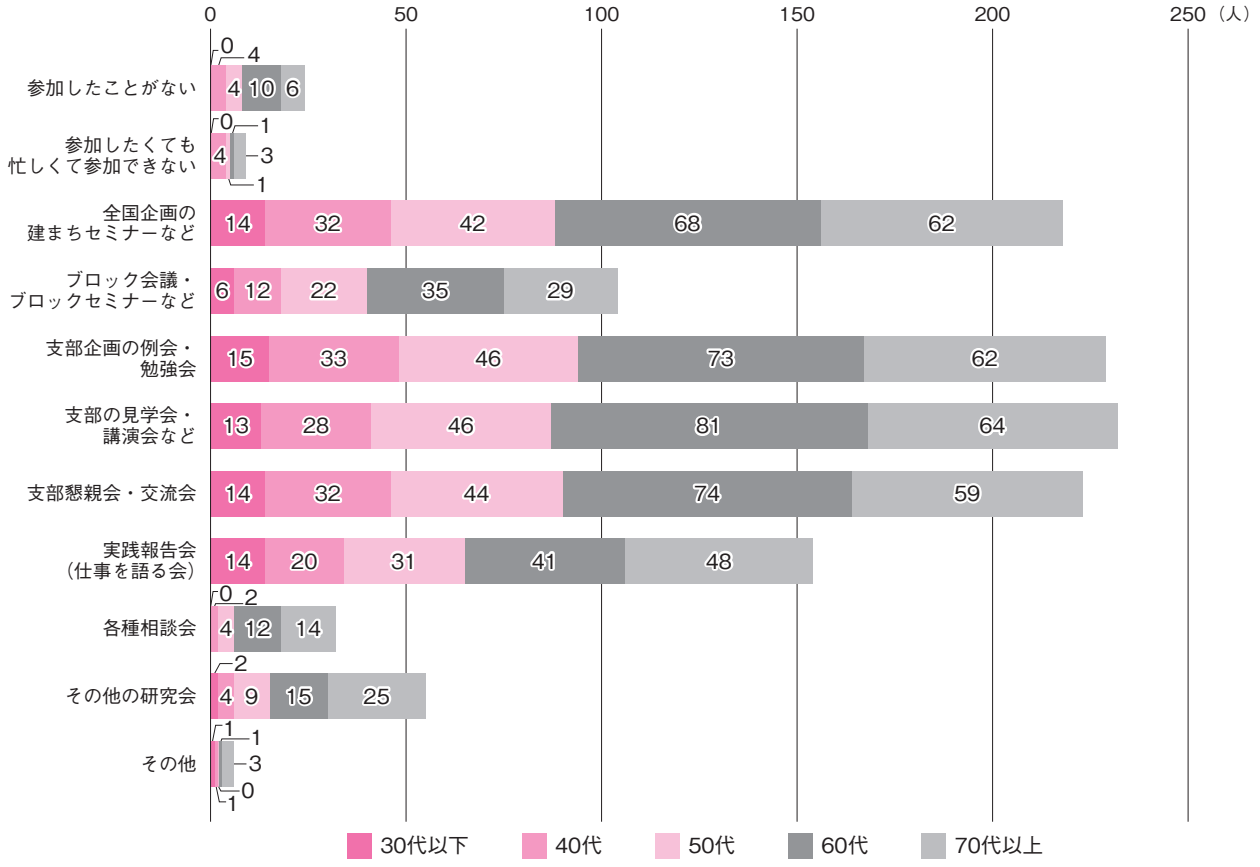


図6-6-2 年齢別企画への参加状況



6－7　新建活動についての悩み

意外にも「特に悩みを持たない」会員が多い

悩みで多いのは、「多忙で参加できない」65人（19%）で、「会費が高い」27人（8%）と「他団体との交流について」20人（6%）については、全体比率では多いとも言えないものの検討の余地はある。

「特にない」181人（51%）と回答した会員が意外に多かった（図6－7－1）。

年齢別にみて、「多忙で参加できない」と答えたのは40代が20人（6％）ともっとも多く、70代以上14人（4％）、60代12人（3％）、50代11人（3％）、30代以下7人（2％）と続く。

「会費が高い」との回答は70代以上11人（3％）、50代6人(22%)、40代と60代はともに4人(1％)、30代以下2人（1％）となっており興味深い（図6－7－2）。

図6-7-1　活動についての悩み（複数回答）

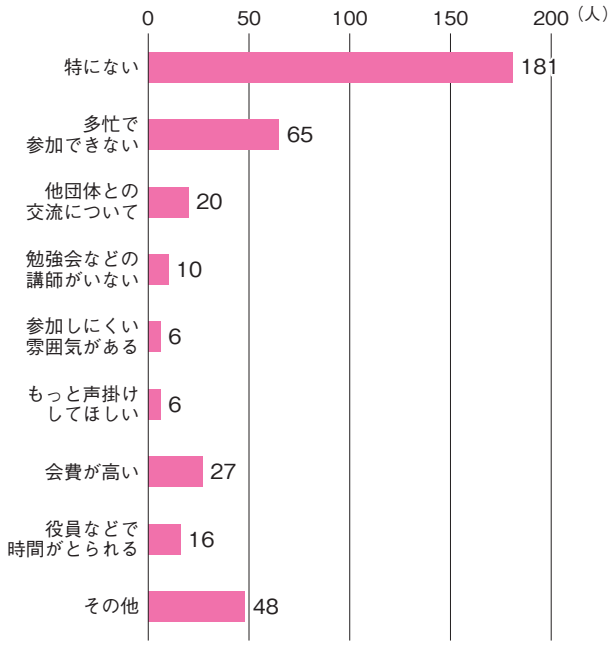
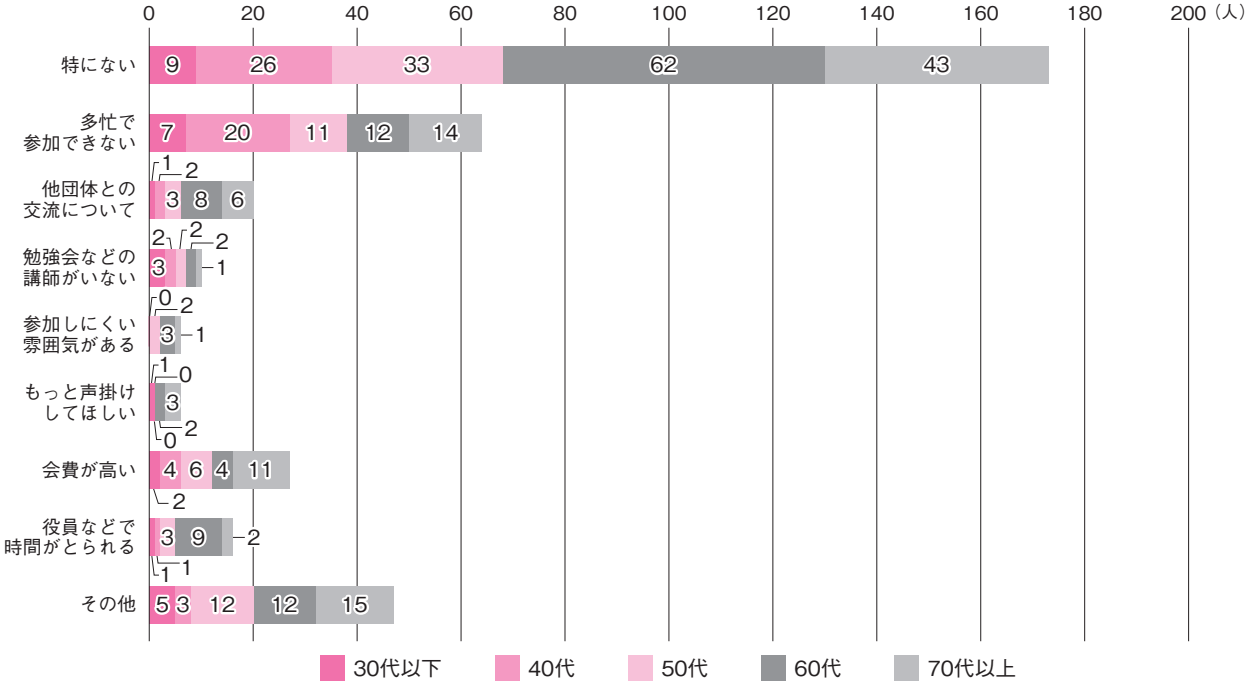


図6-7-2　年齢別活動についての悩み

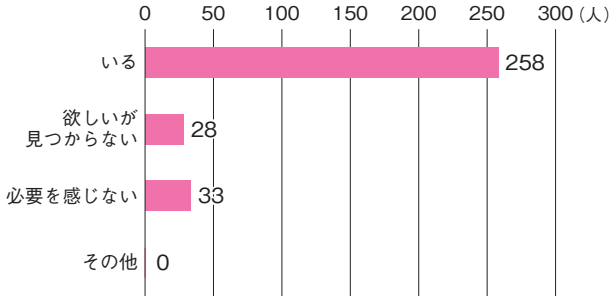


６―８　新建で社会情勢や悩みを話す人の存在

「話す人がいる」が８割

多くの回答者が、話す人が「いる」258人（81％）と回答しており、集団のよい面が明らかになっている。「欲しいが見つからない」28人（９％）については何らかの方策を検討すべきか。また「必要を感じない」33人（10％）の回答もあった（図６－８）。

図6-8　悩みを相談できる人の存在



６－９　全国の会員へ知ってほしい活動

記述回答は33人からあり、その一部のテーマのみ以下に記載する。

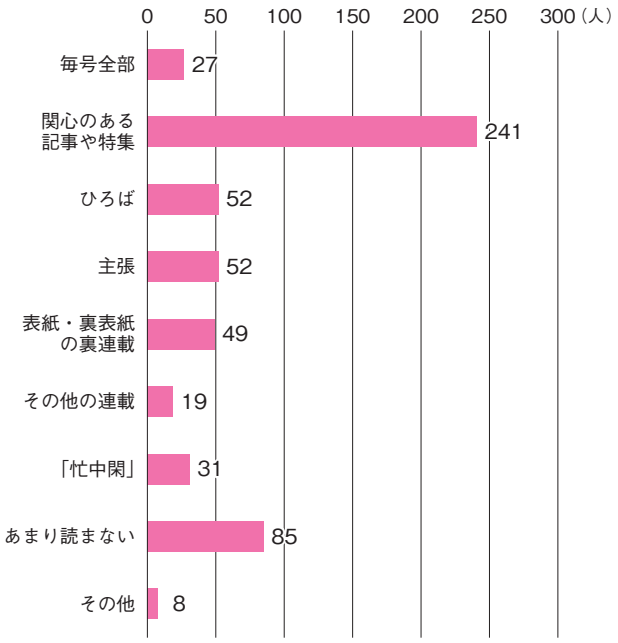
＊業務の基本的法律である建築基準法、都市計画法、景観法、文化財保護法の根拠を加憲する研究
＊愛知県一宮市との関わりで、日本の産業遺産「のこぎり屋根工場」を取材・撮影した。
＊住まいと福祉の会
＊登録有形文化財大牟田庁舎本館の保存と活用の実現
＊ＣＭ方式での建設活動
＊狭小店舗のセルフビルド
＊共同住宅の住戸内の補修やリニューアル工事
＊住宅、民家の伝統と作り方
＊地域の生産力と伝統工法、民家の継承再生
＊左官を考える会の取り組み
＊奈良での景観を守る会の活動
＊現代住宅の改善、特に接着剤を大量に含んだ合板で包んでいる住宅をなくしたい
＊一級建築士の製図試験の学校の運営
＊足助での「結の家」という地域おこし団体で地域移住・定住促進の活動
＊福島原発災害の実情と支援活動の限界
＊省資源・高耐久な住まいづくり
＊300年住宅、田んぼの発電所、シルバータウン
＊再生エネルギーの取り組み
＊リニアモーターカー関係での実践
＊自治会活動とまちづくり協議会組織で、計画作成やイベントなどの実施
＊現代アートに関する活動
＊園芸福祉「ふくおかネット」の活動
＊台湾との交流

6－10　『建まち』誌の読まれかた

読まれているのは関心のある記事や特集

「関心のある記事や特集」241人（69%）がもっとも多く、連載では「主張」「ひろば」ともに52人（15%）、「表紙・裏表紙の裏連載」49人（14%）、「忙中閑」31人（9%）が読まれている。「毎号全部読む」は27人（8%）と少なく、「あまり読まない」は85人（24%）と多い（**図6－10**）。

図6-10　『建まち』誌の読まれかた（複数回答）



6－11　『建まち』誌で印象に残っている記事

記述回答は42件あり、その一部を以下に記載する。

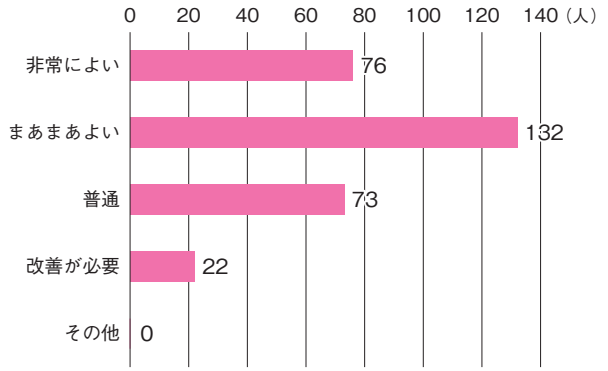
＊50周年記念企画は、読み応えあり
＊三沢浩さんのA・レーモンドの連載
＊山本厚生さんと中島梢さんの連載「暮らし方を形にする」
＊小林良雄さんの「20世紀の建築空間遺産」
＊保育園づくりの連載
＊濱崎裕子さんの「地域住民の思いをかたちに」
＊宮城での「杜の家づくりネットワーク」
＊伝統工法と耐震性
＊伝統構法、古民家の耐震改修
＊増田一眞さんの「新伝統工法の構築」
＊中林浩さんの「建築が残る意味」
＊「文化財行政と地域文化のこれから」
＊建築法規に対する伴年晶さんの記事
＊青森特集
＊沖縄の特集
＊3.11津波の被害状況報告書
＊世界の災害復興から学ぶ
＊災害に向き合う建築技術者
＊まちづくり運動、東京問題
＊藤本昌也さんのまちづくりの実践報告
＊新自由主義の都市再開発を軌道修正させた英国住民運動
＊「建築技術、建築職能のこれから」の特集
＊福田啓次さんの「建築と職能」
＊設計事務所をどう選ぶのか
＊『建まち』アーカイブス

６－12　『建まち』誌の評価

７割が「よい」と評価

「まあまあよい」が132人（44％）と多く、「非常によい」76人（25％）と合わせると70％の人は「よい」と答えている。「普通」は73人（24％）で、よくも悪くもない評価。しかし、「改善が必要」の声も22人（７％）あり、次の要望（６-13）につながっていると解することができる（**図６-12**）。

図6-12　『建まち』誌の評価

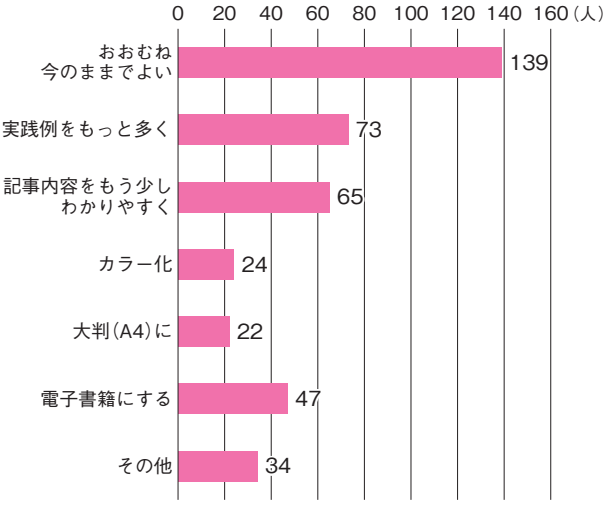


６－13　『建まち』誌への要望

体裁や記事取り扱いに66％から要望

もっとも多いのは「おおむね今のままで良い」139人（40％）だが、「実践例をもっと多く」73人（20％）、「記事内容をもっと分かりやすく」65人（19％）と記事内容への要望があった。「電子書籍にする」47人（13％）、「カラー化」24人（７％）、「大判（Ａ４）に」22人（６％）の回答もあり、前問で「改善が必要」と答えた人数以上から要望が出た（**図６-13**）。

図6-13　『建まち』誌への要望（複数回答）

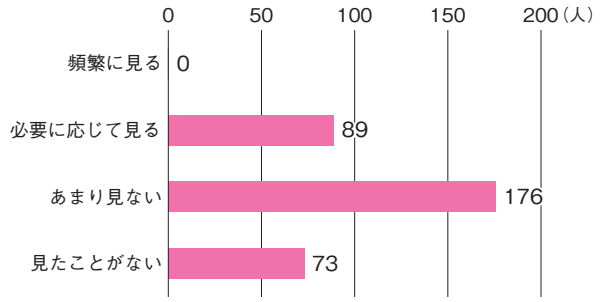


６－14　新建ホームページについて

まだまだ認知度が低い

「あまり見ない」176人（52％）がもっとも多く、「必要に応じて見る」は89人（26％）。「見たことがない」人も73人（22％）おり、まだ認知度が足りないか、会員の中にはホームページそのものに馴染みがないことも考えられる（**図６-14**）。

図6-14　新建ホームページについて

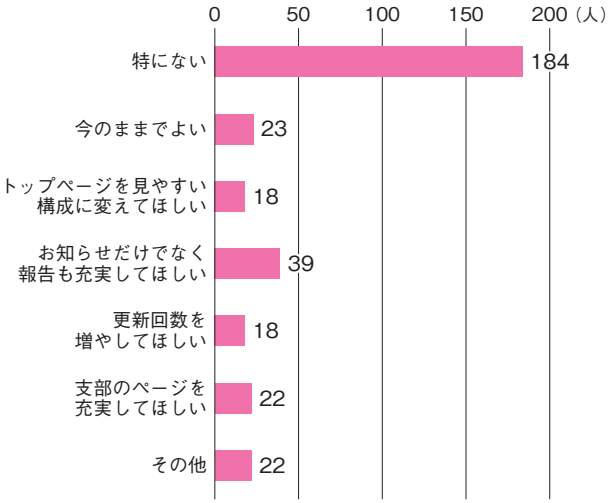


6 －15　新建ホームページへの意見

「特にない」184人（53%）が多く、「あまり見ない」「見たことがない」会員の反映とも考えられる。

「お知らせだけでなく報告も充実してほしい」39人（11%）、「支部のページを充実してほしい」22人（6 %)、「更新回数を増やしてほしい」「トップページを見やすく」がともに18人（5 %）だった（**図 6 －15**）。

図6-15　新建ホームページへの意見（複数回答）



第 6 章　まとめと課題

【まとめ】

会員の多くは新建の意義・性格を認識している

「社会に目を向ける」「同じ志を持つ人が集まる」場という新建の存在意義を認識しており、会員交流の大切さの評価も高く認識していることが確認できた。草創期に入会した会員は「憲章」「社会との繋がり」を捉え、会員歴の長短に関わらず認識されているのが「話し相手」「刺激を受ける」など交流に対する見方であった。

入会して「よかった」「影響受けた」が多数

現在在籍している会員の声だから当然とも言えるが、98%が肯定的反応であった。

年齢を超えた交流と、関心のある企画の評価が過半を超えて高く、「尊敬できる人と交流できる」と特定のつながりも注目すべき要素だ。

評価項目ごとに年齢割合に若干の違いはあるが、60代・70代以上の会員の評価が高いのは「企画」「年齢を超えて知り合いができる」などで半数を超えている。

「悩みや迷いの相談」「尊敬できる人との交流」を挙げるのは50代以下が多い。

「入会したきっかけ」が異なっても、入会後の評価する点に差はない。

新建で影響を受けたのは、「交流」の中で「視野が広がり」「仕事と社会のつながりを考えるようになった」「まちづくりに対する関心が強くなった」が多い。

「まちづくりに対する関心」は集団の性格が「建築・まちづくり」にある点でうなずける。自らの経験に捉われず、関心が広がっていることがわかった。また、「仕事の取り組み方が変わった」「専門的知識が増えた」というのは50代以下の回答割合が比較的多い。

新建で運営・企画への参加状況

運営参加が多いのは「企画などの準備」「幹事」が多く、「建まち誌の編集・寄稿」「支部ニュース作成」などの回答も比較的多数。「参加したことがない」回答も一定数ある。残念ながら「参加したくても忙しくて参加できない」、忙しくても参加できる活動の工夫も大事な課題である。

年齢別には、「企画などの準備」を担っている人は50代以上で 8 割を超える。「幹事」経験は若手の担い手が極めて少ないが、「支部ニュース」への関わりは50代以下の比較的若い層が多い。

支部活動への参加は多く、見学会・講演会や例

会・勉強会・懇親会・実践報告会（仕事を語る会）など。全国の活動では「建まちセミナーなど」が多く、「ブロック会議・ブロックセミナー」はまだ周知不足なのか少ない。

年齢別には全ての企画で参加者の半数以上を60代・70代以上の会員が占めている。参加しやすい企画の設定から若手の参加が課題ではないか。

意外にも「特に悩みを持たない」会員が多い

「特にない」と回答した会員が意外に多かった。「悩み」で多いのは「多忙で（活動に）参加できない」で、「会費が高い」「他団体との交流」に悩みがあるようだ。全体比率では多いとも言えないが検討の余地はある。

「多忙で参加できない」と答えた年代は40代が最も多く、会費で悩むのが70代以上に多く30代以下は比較的に少ない結果になっており興味深い。

新建活動の悩みや社会情勢などを話す人がいるとの回答が多く、集団のよい面が明らかになっている。

全国の会員へ知ってほしい活動は10％弱の回答があった。『建築とまちづくり』誌上や、ホームページ上の公開など検討したらどうか。

『建まち』誌、関心ある記事・特集が読まれている

「関心のある記事や特集」が最も多く読まれており、連載では「主張」「ひろば」「表紙・裏表紙の裏連載」「忙中閑」が多く、「毎号全部読む」人は少ない、「あまり読まない」回答も1／4程度いた。

『建まち』誌への評価は6割が「よい」だった。

「実践例をもっと多く」など記事内容・形式体裁と併せて延べ240を超える要望があった。評価で最も多いは「おおむね今のままでよい」と及第。

新建のホームページは、まだまだ認知度低い

「あまり見ない」と回答した人が最も多く、「見たことがない」人もいて、まだ認知度が足りないか。中にはホームページそのものに馴染みがないことも考えられる。普及に努める必要がある。

「必要に応じてみる」回答が1／4ほどあり、「お知らせだけではなく報告もして欲しい」「支部のページを充実してほしい」「更新回数を増やしてほしい」「トップページを見やすく」など要望があった。

【課題】

1．新建の運営・企画への参画促進を図る

支部活動への参加の方が多いことがわかったが、全国企画の中でも多いのが「建まちセミナー」というのは、開催支部での取り組みになっていることがあげられる。共通する鍵は「参画」にあり、自ら企画決定することが重要である。ブロック企画にしても同様だ。同時に若い世代の参画を意識して進める必要がある。

また、集まる時間・場所・方法など、忙しくても参加できる工夫を自ら徹底して追求していこう。

2．『建まち』誌の改善を進める

得られた改善要望は検討に値することが多く、是非対応していこう。特集の組み方など編集委員から会員・読者に広げて声を集めるなど、参加性を上げて巻き込むのが有効と考えられる。

3．新建ホームページ周知を図る

ホームページは団体を知る最初の、いわば「顔」である。同時に会員サービスのツールとしても、情報発信と報告・更新などさらに充実を図るべきである。

会員の利活用には、『建まち』誌などを活用しながら認知度を上げ、見たいけど見られない会員には操作方法などを周知したり、アンケートや企画参加の申し込みなどホームページを使った活動を、機会あるごとに実施することも考える。

第７章　新建の未来に向けて

７－１　新建で取り組みたい・強化したいテーマ

新建が進めてきたテーマの継承発展を挙げる回答が最多

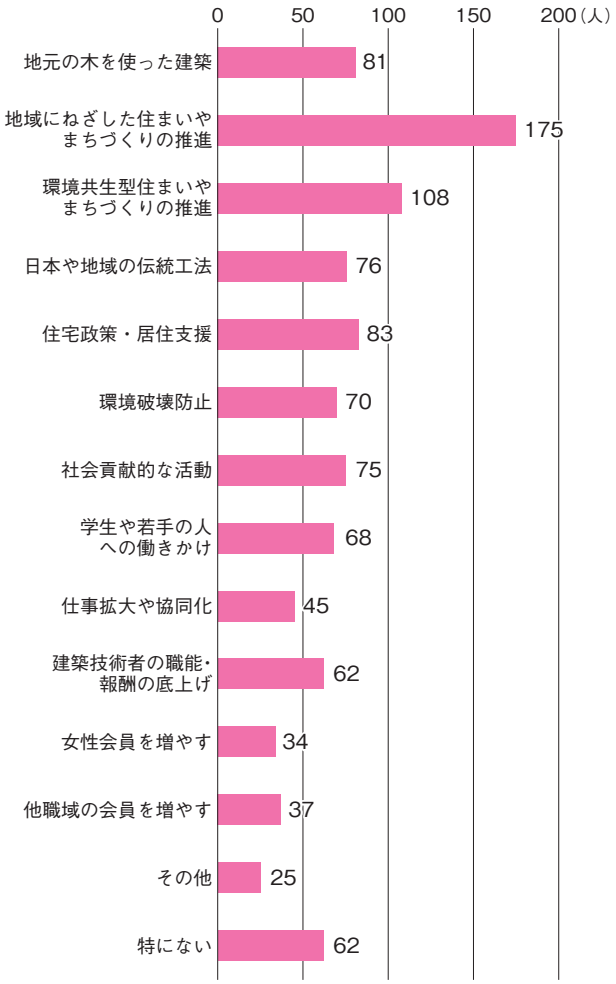
取り組み・強化したいテーマで最も多いのは「地域にねざした住まいやまちづくりの推進」で回答者の175人（50%）。続いて、関心が高まっている「環境共生型住まいやまちづくりの推進」が108人（31%）、「住宅政策・居住支援」83人（24%）など新建らしいキーワードが順当に上位に並んだ。新建がこれまで活動の中心に据えて取り組んできたことで、継承発展させていこうという意向が確認された。

４位以下は「地元の木を使った建築」81人（23%）、「日本や地域の伝統工法」76人(22%)、「社会貢献的な活動」75人（21%）、「環境破壊防止」70人（20%）などと続き、これらも重要なテーマであることが読み取れる。

「建築技術者の職能・報酬の底上げ」62人（18%）、「仕事拡大や協同化」45人（13%）など会員自身が当面するテーマは2割未満にとどまっている。

新建は昨今、会員数の後退が大きく問題視されているが、「学生・若手への働きかけ」68人（19%）「他職域の会員を増やす」37人（11%）や「女性会員を増やす」34人（10%）など組織的な課題への回答は相対的に少なく低順位に集まっている（**図７－１－１**）。

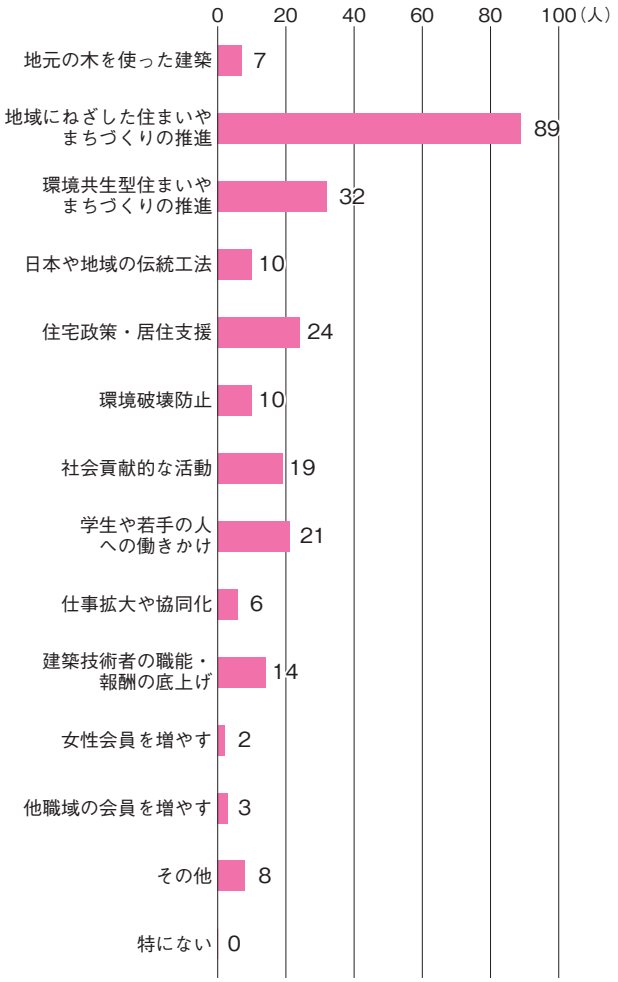
図7-1-1　取り組みたい・強化したいテーマ（複数回答）



ところが「中でも最も必要な内容」を問うと、１位「地域にねざした住まいやまちづくりの推進」、２位「環境共生型住まいやまちづくりの推進」、３位「住宅政策・居住支援」は前問同様上位だが、４位以下に「学生や若手への働きかけ」・「社会貢献的な活動」・「建築技術者の職能・報酬の底上げ」などと順位の入れ替わりもあり、関心のあるテーマから必要なテーマに絞ったら若干の変化があった。

変化があったのは、いずれも新建の現在の課題で、「若手への働きかけ」「社会貢献的な活動」「技術者の職能・報酬の底上げ」など身近な項目が強く意識されている（**図７－１－２**）。

図7-1-2　最も必要な内容



7－2　新建の良さを周りに伝える方法

最も身近な支部企画の案内が新建の良さ伝える最良のツール

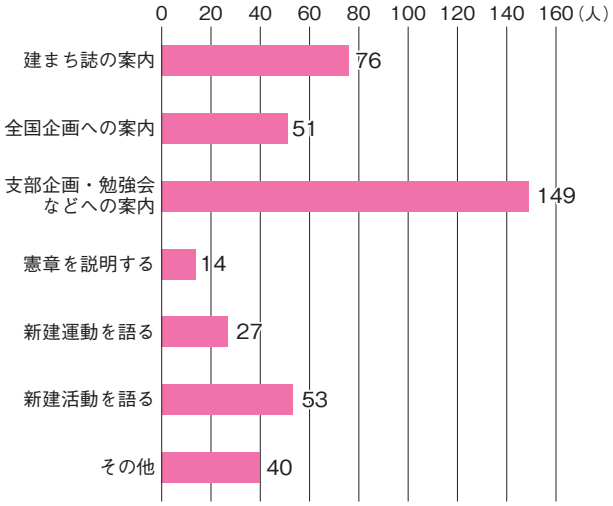
新建のアピールをどうしているかを尋ねると、「支部企画・勉強会などへの案内」が149人（43%）で、「全国企画への案内」の51人（15%）を大きく上回り、身近な動きが伝えやすいようだ。次いで、広報としての役割の「建まち誌の案内」76人（22%）で、これは周知行動の王道。

自らの活動を含めて伝えられるためか「新建運動を語る」「新建活動を語る」が合わせて80人（23%）となっている。新建運動・新建活動を語る上で「憲章の説明」はセットと思われるが、日常活動とじかに繋ぎにくいのか14人（４%）にとどまった（**図７－２**）。

「新建に入ってよかったと思うこと」（Ｑ５―３）に回答した会員が「周りにどう伝えたか」クロス集計を試みたが、多い順に１位「年齢を超えて知り合いができる」、２位「関心のある企画に参加できる」、３位「尊敬できる人やあこがれの人と交流できる」、４位「いろいろな地域へ行く・地域の仕事を知ることができる」、５位「悩みや迷っていることを相談できる」、６位「自分の仕事や実践を発表する機会がある」の各回答にわたって、「支部企画・勉強会などへの案内」が１位で、「建まち誌の案内」が２位、「全国企画への案内」「新建活動を語る」が続き、全体集計と同じで、「よかった」評価と「周りに伝える」意識との間にほとんど違いが見られない。

「新建に入って影響を受けた」（Ｑ５―４）と回答した会員の「周りへの伝え方」との各回答別クロス集計結果も「新建に入ってよかった」回答別と同傾向で、周りへの伝え方にほとんど差異がないことが確認された。

図7-2　新建の良さを周りに伝える方法（複数回答）



７－３　活発で充実した新建活動をするために新建に望むこと

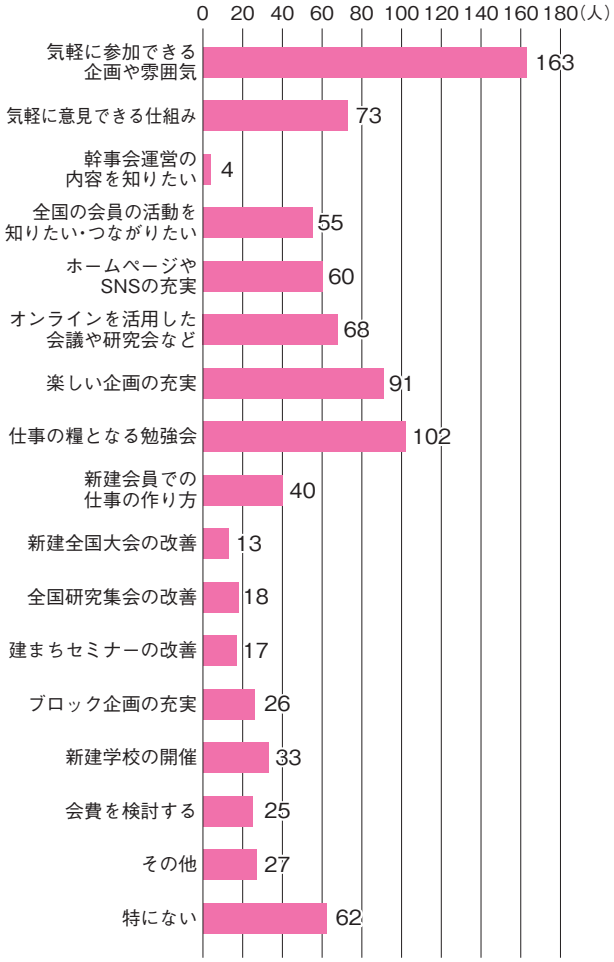
「気軽に参加できて、楽しくためになる企画活動」の必要性を望む声が多い

新建活動を充実・活発化するには、①「気軽に参加できる企画や雰囲気」163人（47%）、②「仕事の糧となる勉強会」102人（29%）、③「楽しい企画の充実」91人（26%）がベスト３。「気軽に意見できる仕組み」73人（21%）、「オンラインを活用した会議や研究会」68人（19%）や「ホームページやＳＮＳの充実」60人（17%）の要望も上位になった。

「全国研究集会の改善」や「建まちセミナーの改善」など参加者の評価の高い全国企画への期待は18人、17人（各５％）と低く、「改善」の余地が不要ということか、会員にとって全国的な活動は距離があるようにも取れる。

「全国大会の改善」13人（４％）や「幹事会運営の内容を知りたい」４人（１％）など組織的な課題に関しては最下位に並んでいる（**図７－３**）。

図7-3　これからの新建に望むこと（複数回答）



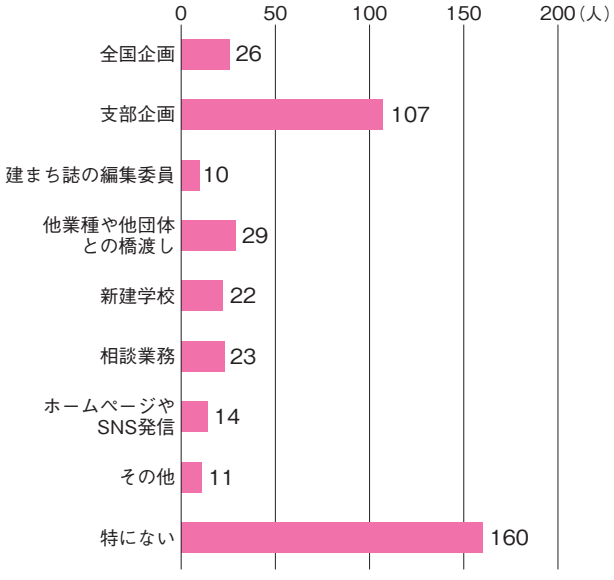
７－４　新建活動の運営で関わりたいこと

運営で関わりたい活動も支部企画など身近な活動が挙げられた

今後関わりたい新建活動は「支部企画」107人（31%）が断然多く、身近な要望に応える活動に関わりたいと回答している。「全国企画」26人（７％）や「新建学校」22人（６％）、「ホームページやＳＮＳ発信」14人（４％）、「建まち誌編集」10人（３％）など、全国活動には関心が薄い結果になっている。

関わりたい活動・運営が「特にない」という回答が160人（46%）で目につく。“仕事が忙しい”“時間が取れない”などの理由だろうか、「望むこと」を「自らどう実践するか」という自主的に参画する集団としては、積極的に関わろうとする意識割合の低さが寂しい（**図７－４－１**）。

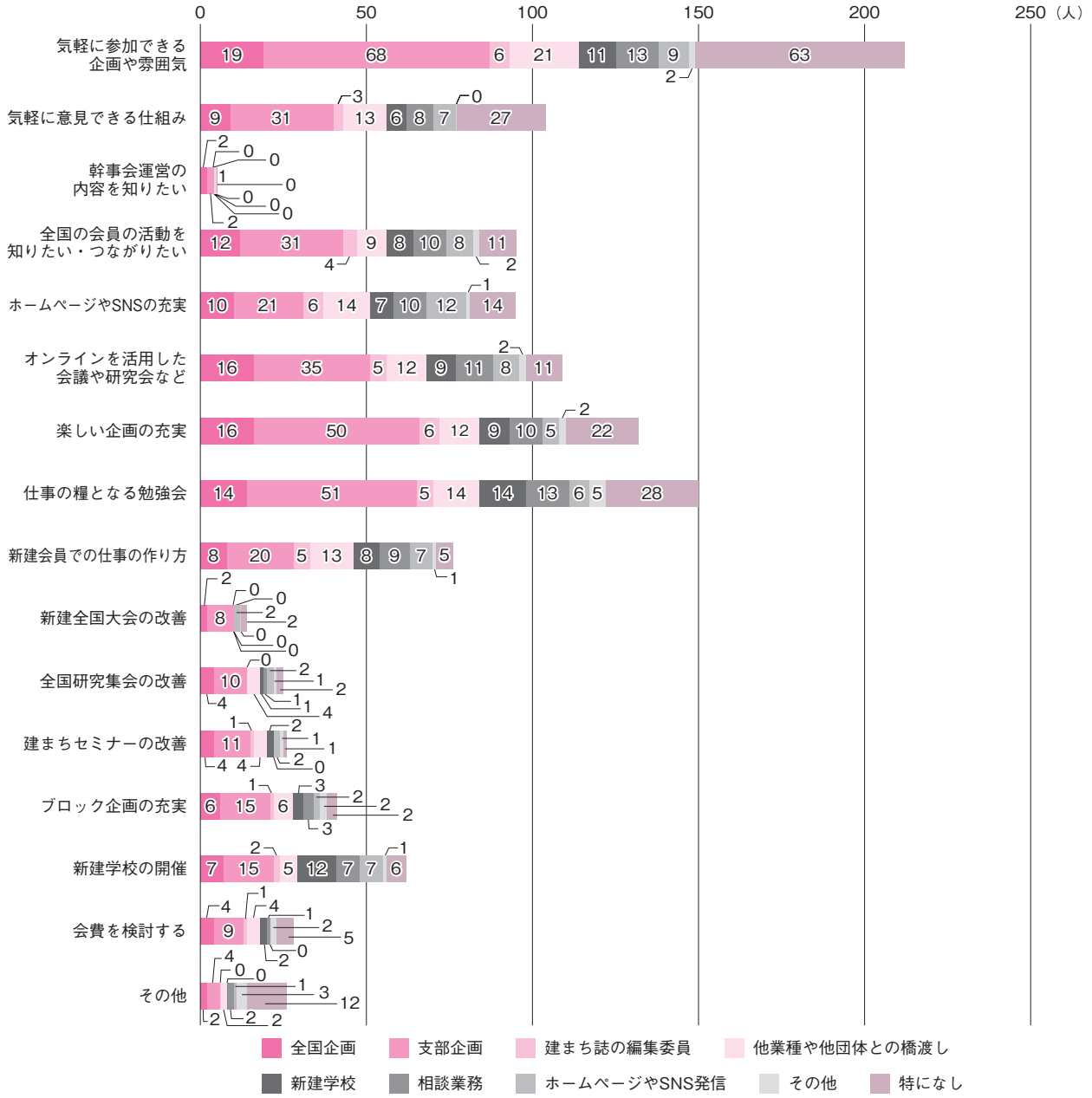
図7-4-1　関わりたい新建活動（複数回答）



「新建に望むこと」を答えた会員が、「新建でどんな活動に関わりたい」と回答したのか、は興味深いクロス集計となる。「気軽に参加できる企画や雰囲気」と答えた会員が「支部企画に関わりたい」68人（37%）は心強いが、「特に関わりを望まない」会員もほぼ同数いる。

この中で、「支部企画に関わりたい」会員は、「楽しい企画の充実」や「仕事の糧となる勉強会」なども望んでおり実践のイメージを持っているように見える（**図7－4－2**）。

図7-4-2　新建に望むことからみた新建で関わりたい活動

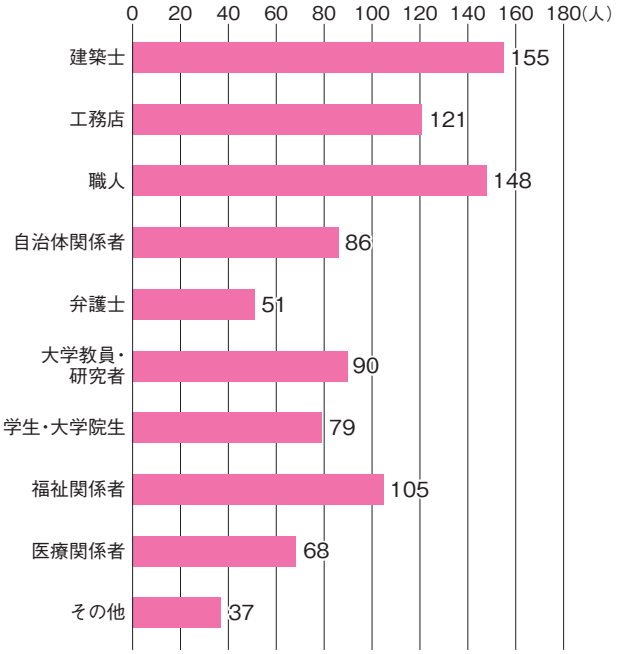


７－５　今後、仕事や活動を共にしたい人たち

協働したい相手として「建築士」155人(44%)、「職人」148人（42%）、「工務店」121人（35%）という回答が多いのはこれまでの協働関係でも順当なところではないか。「福祉関係者」105人（30%）、「医療関係者」68人（19%）を合わせると建築士を凌ぐのは最近の社会的背景・建て主さんの置かれた状況を表しているとも見られ特徴的である。

建築専門分野にかかわらず、「大学教員・研究者」90人（26%）、「自治体関係者」86人（25%）、「学生・大学院生」99人（22%）、「弁護士」51人（15%）などさまざまな職種と力を合わせようという意識がみられるのはこれも暮らしに寄り添うと必要な感覚だろう（**図７－５**）。

図7-5　今後、共に仕事・活動をしたい人たち（複数回答）



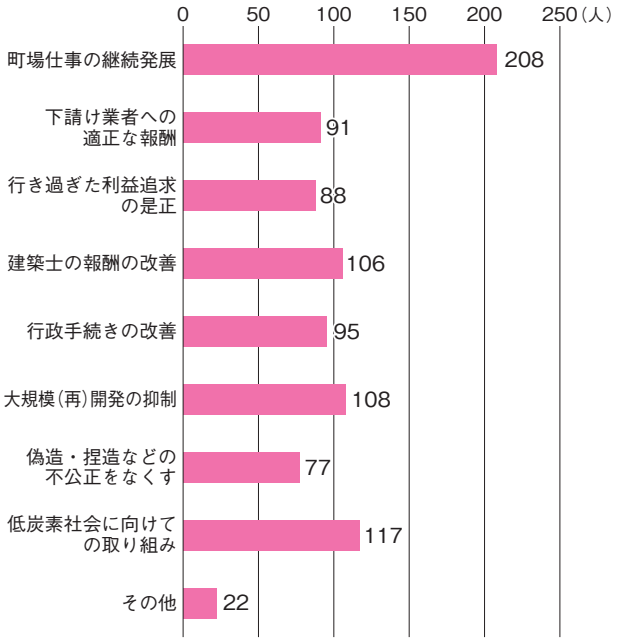
７－６　建築・まちづくり業界に期待すること

業界に望む声が多い「町場仕事の継続発展」は住む人の立場から当然か

「町場仕事の継続発展」を望む声が208人(59%)と群を抜いて多いのは、暮らしに最も近い仕事としてのものづくりの現状認識の現れであろう。次いで「低炭素社会への取り組み」117人（33%）、「大規模開発の抑制」108人（31%）という社会的要請の多い項目が続いた。低炭素社会への取り組みは今、「脱炭素社会への取り組み」へと大きく動き出している。「建築士の報酬改善」106人（30%）、「下請け業者への適正な報酬」91人（26%）、「行政手続き改善」95人（27%）も関心は比較的高いが、定着感のある「行き過ぎた利益追求是正」88人（25%）は感覚的に麻痺状態になったか、頻発する「偽造・捏造などの不公正なくす」も77人（22%）と、いずれも思ったほど関心の多い結果にはなっていない（**図７－６**）。

社会的に指摘される建築・まちづくり業界の課題認識と比較すると、会員の自覚と社会的関心との関係がよくわかると思ったが、社会的な関心量を表すデータが見つかっていない。

図7-6　建築・まちづくり業界に期待すること（複数回答）



7－7　建築・まちづくりを志す人に建築教育で学んで欲しいこと

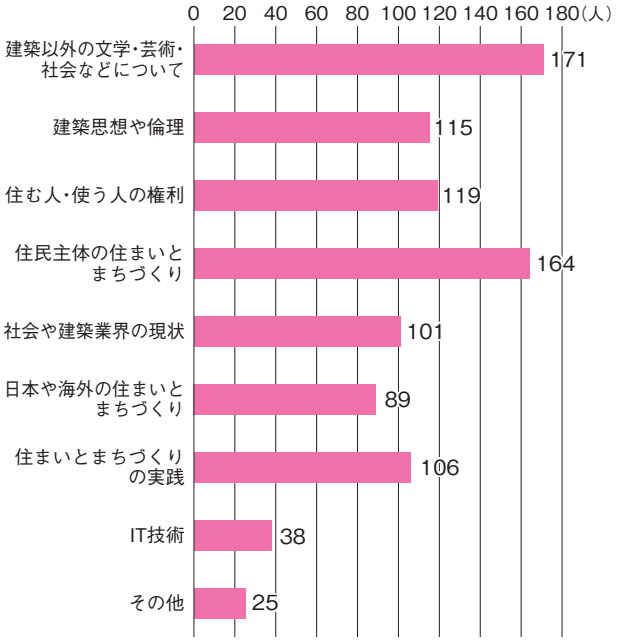
建築・まちづくりを志す人に学んで欲しいのは「幅広い知見を持つ」こと

「建築以外の文学・芸術・社会など」異分野の知識を挙げた回答が171人（49%）で、技術者に必要なのは幅広い知見であることを指摘している。もちろん「住民主体の住まいとまちづくり」が164人（47%）と多いのはいかにも新建らしい。

次いで「住む人使う人の権利」119人（34%）となるが、「住まいとまちづくりの実践」106人（30%）や「社会や建築業界の現状」101人（29%）などの声は、志す人に「学んでほしい」というよりはむしろ、実践を始めてから現場で身に着けるものという認識からか、「建築教育」の課題としては若干少なめにみえる。

「建築思想や倫理」が115人（33%）と多いのは、「志」の大元に置くべき重要な点と考えた会員が多かったと見て取れる（**図7－7**）。回答の多い項目は、「こんな点が不足だった」と会員が実務を続けて感じている「自戒」の匂いもして、学んでおけばよかった、という項目とも取れる。

図7-7　建築を志す人に学んでほしいこと（複数回答）



第7章　まとめと課題

【まとめ】

今後、取り組みを強めたいテーマ

「地域にねざした住まい・まちづくり」など、新建がこれまで追求し続けてきたテーマが肯定的に重要視されており確信としたい。また、「環境」「地域」を重視する意識も時宜にかなって特徴的である。

新建の良さを周りに伝える活動

身近な支部企画の案内が新建の良さを伝えている。「新建運動・活動を語る」も身近な動きが伝えやすいが「憲章の説明」は日常活動とじかに繋がりにくいのか少ない。

新建に望むこと、関わりたい活動

「気軽に参加できて、楽しくためになる企画」が新建活動の中心という意識が強く、「新建に望むこと」の最多意見であり、従って「関わりたい活動」でも「新建の良さを周りへ伝える」上でも最も多い回答があった。これからの活動を考える上で重要な点である。ただ、支部中心に偏っている傾向も見えて、全国活動・企画への関心が低い。

今後仕事・活動を協働したい相手

「協働する」意識は、建築専門分野に限らず医療・福祉職や自治体職・研究職など、暮らしに直結した職域が意識されている。

建築・まちづくり業界に望むこと

「建築士の報酬改善」などよりも「町場仕事の継続発展」が多かったのは住む人の立場からの現場の発想と見ることができる。

これから建まちを志す人に学んでほしいこと

「建築以外の文学・芸術・社会など」への知見が必要という回答が「住民主体の住まい・まちづくり」と同じくらい必要と考えているのは、幅が必要であることを表し、建築思想・倫理・住み手・使い手の権利を学んでほしいという回答も近年の社会的要請に即しているようだ。

【課題】

１．会員、特に若手や女性、他職種の会員を増やす意識を強める

会員が減少を続ける状況は建築団体共通と言われるが、明確な憲章を持ち、建築・まちづくり運動を展開するには、多くの会員を迎える行動が欠かせない。「取り組みたいテーマ」ではその意識不足が明らであり、活動の重要なテーマと位置付けて取り組みを強めたい。

２．新建の良さを周りに伝えていく

身近な支部企画の案内と同時に、新建の運動・活動も大いに語り、新建の良さを周囲の建築まちづくりを共に進める人々に伝えよう。日常の実践を語る中で新建憲章の理解を進める活動が可能になる。

３．新建の強み「全国単一組織」を大いにアピールしていく

新建活動で支部活動・企画など身近な要望に応える活動が中心に位置づけられる一方で、全国活動や企画への関心が薄いという結果を打破し、他団体と協働する中で明確になる全国単一組織という性格の強みを生かした全国企画・活動に関心を持ち工夫していきたい。

４．自分たちで望むことは自分たちの実践で実現させる

活動の運営で関わりたいことが「特にない」という回答が多いのは気になる点で、自主的に参画する集団で「新建に望む」ことは「自から実践する」意識を強め、再認識する機会を作っていきたい。

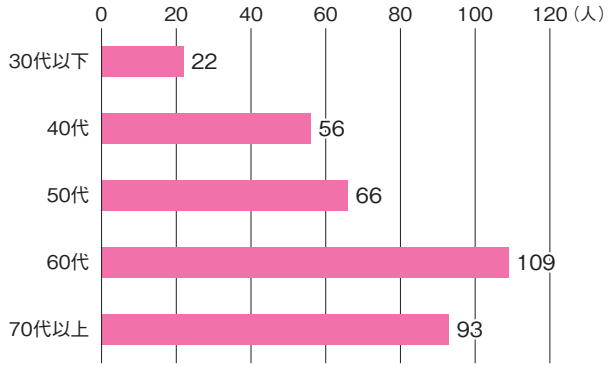
8章　会員自身のこと

8－1　年齢

高齢化が顕著

60代が最も多く109人（32%）、70代以上93人（27%）と合わせて約6割である（**図8－1**）。

図8-1　年齢



8－2　性別

若い世代に女性が多い

男性275人（81%）、女性66人（19%）である（**図8－2－1**）。年齢別に見ると、50代以下であれば、女性43人（30%）、男性100人（70%）となり、4章で述べられている「黄金の3割」に近付いているが、60代以上では、女性23人（12%）、男性175人（88%）となる（**図8－2－2**）。

図8-2-1　性別

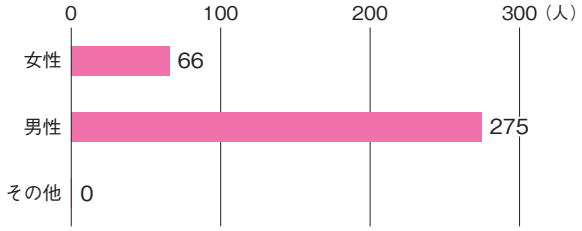
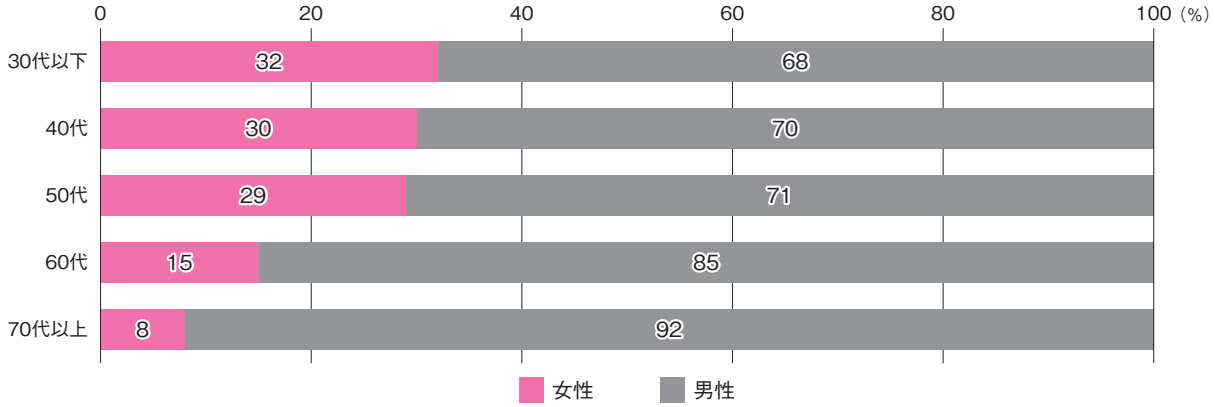


図8-2-2　年齢別の性別割合

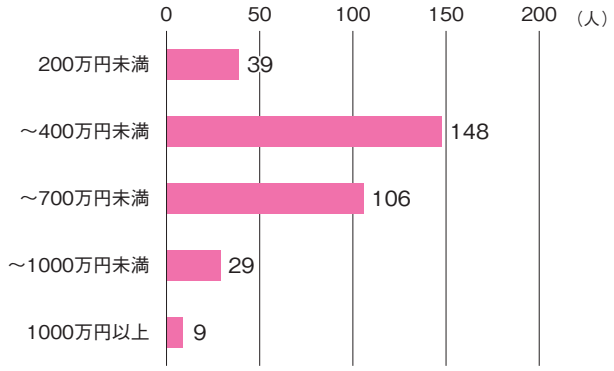


８－３　税込み年収

年収400万円未満が４割強

400万円未満がもっとも多く148人（45%）、続いて700万円未満106人（32%）である（図８－３）。

図8-3　税込み年収



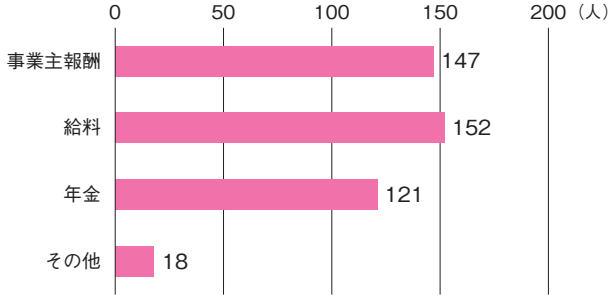
８－４　収入源

給料と事業主報酬がほぼ同数

給料152人（43%）、事業主報酬147人（42%）、年金121人（35%）の順となっている（図８－４）。収入源が二つ以上なのは、給与所得者（152人）では45人、事業主（147人）では49人、年金受給者（121人）では78人である。それぞれの回答における複数収入の割合は、給与所得者は30%、事業主は33%、年金受給者は64%であり、年金受給者の複数収入の割合が高くなっている。

一方、複数回答としたが、収入源が一つであるとしているのは、248人で回答総数350人の71%となっている。

図8-4　収入源（複数回答）

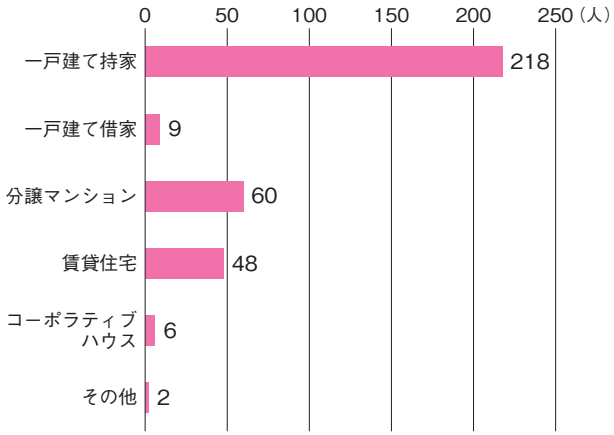


８－５　住まい

持家率は高い

住まいについては一戸建て持家が多く218人（64%）である。分譲マンション60人（17%）、コーポラティブハウス６人（２%）と合わせると、持家に住んでいるのが284人（83%）となっている（図８－５－１）。平成30年住宅・土地統計調査における全国平均の61%と比べるとかなりの高率である。

図8-5-1　住まい



年齢別に見てみると、30代以下で一戸建て借家や賃貸住宅の割合が多いのは妥当に思えるが、他の年代でも持家ではないという回答も少なくはない（**図８－５－２**）。

東京は全国的に見ても、持家率が低いといわれるが、東京支部で見てみると、一戸建て持家24人（42％）、分譲マンション19人（33％）、コーポラティブハウス２人（３％）の合計45人（78％）であり、上記調査の東京平均45％を大きく上回る。また、一戸建て持家の割合は下がるものの、分譲マンションの割合が上がるのも特徴となっている（**図８－５－３**）。

図8-5-2-1　住まいの年齢別割合

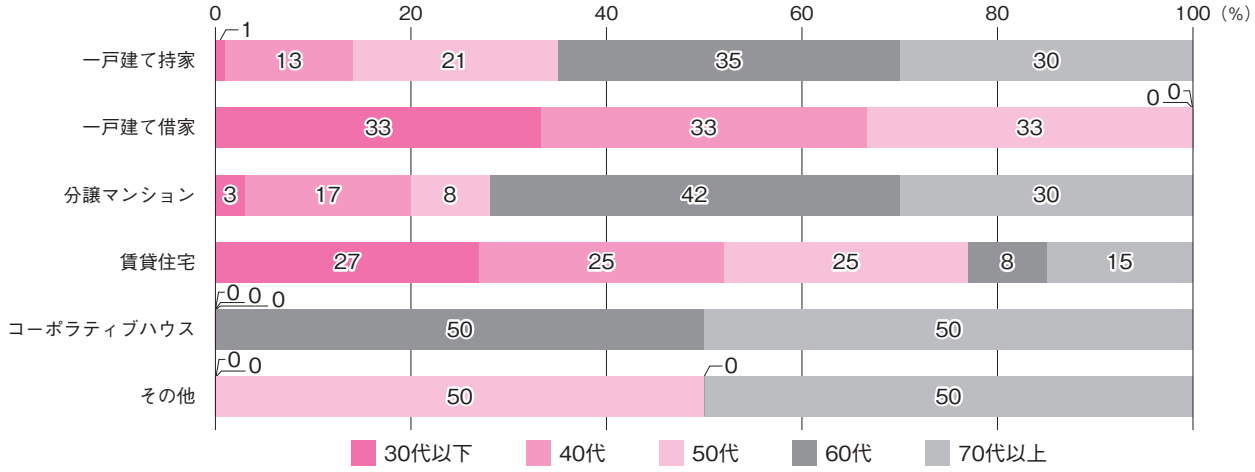


図8-5-2-2　年齢別住まいの状況

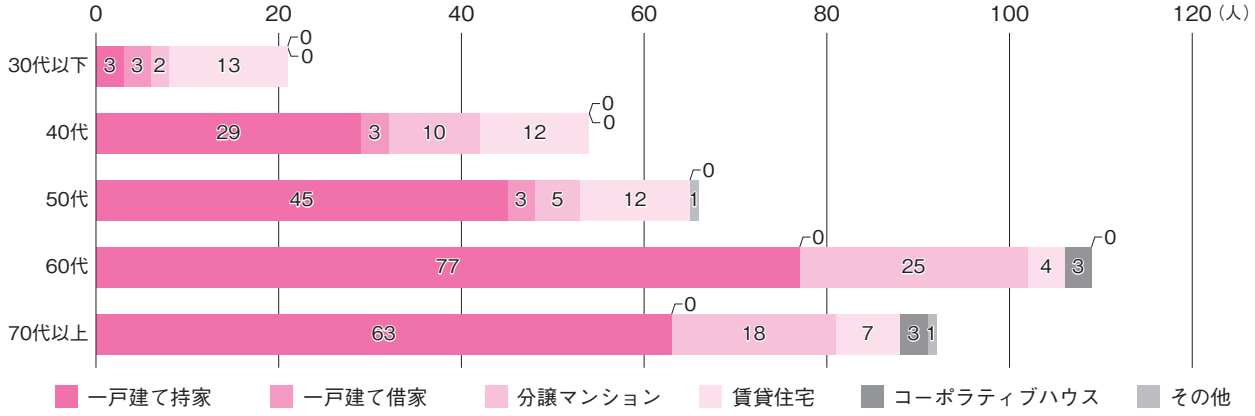
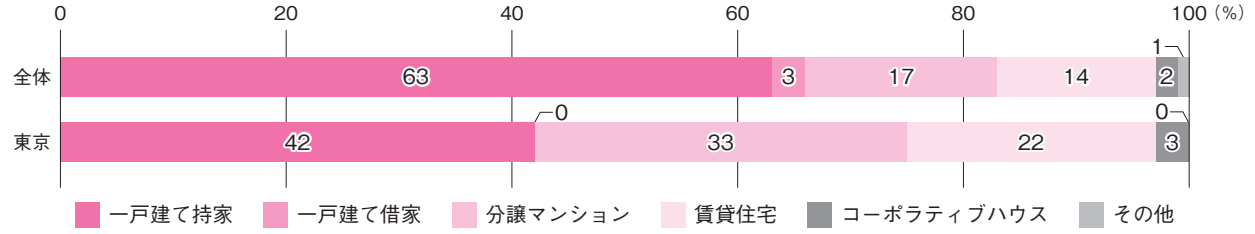


図8-5-3　住まいの東京支部との比較

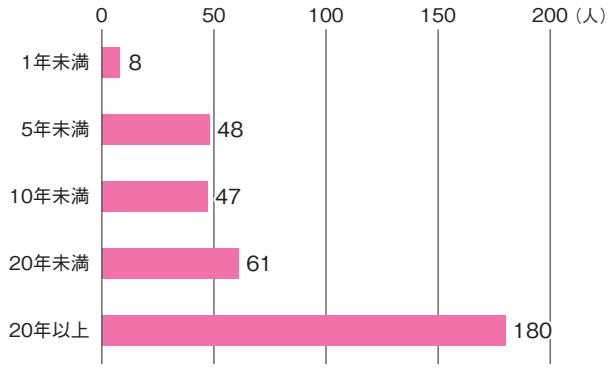


８－６　居住年数

20年以上が突出して多い

居住年数では、20年以上が半数を占めており180人（52%）、20年未満は61人（18%）、５年未満48人（14%）、10年未満47人（14%）と続く（**図８－６－１**）。

図8-6-1　居住年数



地域の人から専門的・仕事に関することで相談されることがあるかどうかについては、20年以上住んでいても、よくある30人（17%）、たまにある96人（53%）、特にない49人（27%）であり、居住年数による違いはあまり見られなかった（**図８－６－２**）。

近所づきあいでは、20年以上の場合、親しい人がいる112人（62%）、挨拶だけ58人（32%）、あまり親しい人はいない６人（３%）であり、それなりに関係性が作られている（**図８－６－３**）。

日常生活や災害などで助け合える人がいるかどうかについては、助け合える人がいるのは20年以上で134人、20年未満で45人であり、いずれも74%となっている。助け合える人がいないのは、10年未満で15人（32%）、５年未満で16人（30%）、１年未満で５人（63%）となり、居住年数での差が出てくる（**図８－６－４**）。その他として、「その時になってみないとわからない」「話し合ってはいない」「協力し合える関係と信じている」といった回答も見られた。

図8-6-2　居住年数と地域から相談を受ける頻度

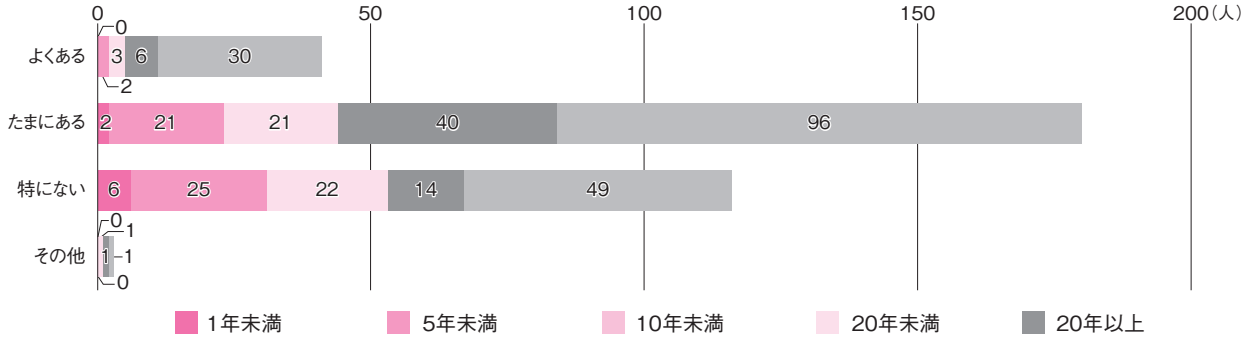


図8-6-3　居住年数と近所づきあい

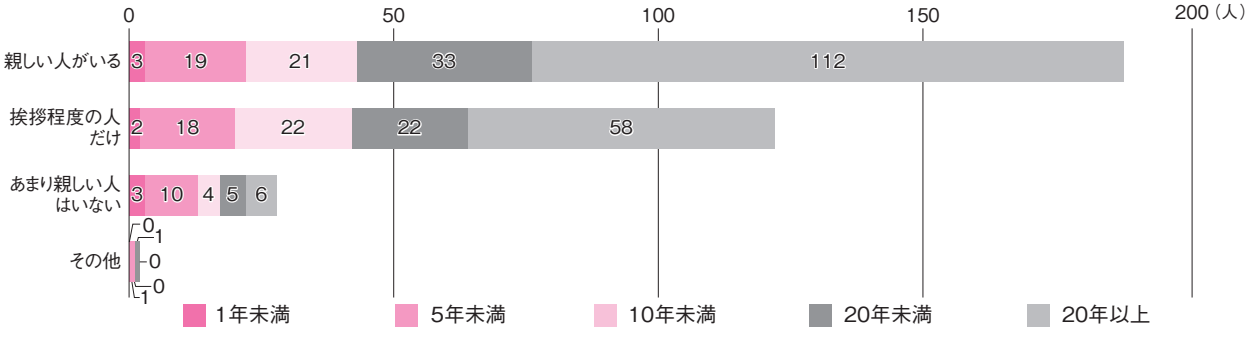
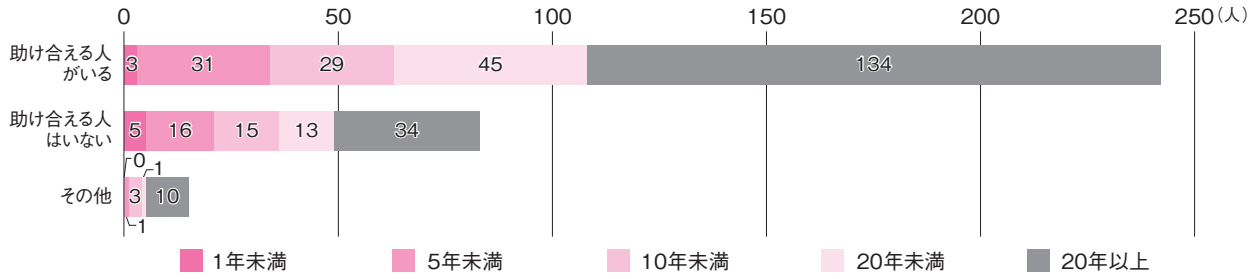


図8-6-4　居住年数にみる助け合い



8－7　健康状態

性別・年齢別の健康状態－男性の方が問題ありの人がやや多く、高齢化に伴う不調と精神的不調もみられる

全体の７割の人は健康状態に問題はない（**図8－7－1**）が、「おおむね問題はない」人の割合は女性の方が若干多く、「大いに問題がある」「やや問題がある」と答えた人は、実数では男性が75人、女性が14人と男性が多く（**図8－7－2**）、割合でみると男性が28％、女性が21％と男性の方が問題があると答えた人が多い（**図8－7－3**）。

これは男性の方が高齢の人数が多く、当然ながら年代が上がるほど「問題あり」と答えた人が多くなるからである（**図8－7－4、図8－7－5**）。

問題がある人について、どのような内容かを自由回答で聞いたところ、女性11人、男性55人が回答している。なお「問題なし」とはいえ、高齢化に伴う症状を挙げた人もいた。

女性の場合、６人は高齢化に伴う健康問題を、他に精神疾患、持病あり、病名を答えた人が各１人である。

男性で気になるのは、１人がアスベスト被害と回答し、また相対的に若い層（30代～50代）で、精神的不調（うつ病、自律神経失調症、不眠、その他）で苦しんでいる人がみられる。30代の１人は「仕事の将来の不安」を挙げている。また腰痛を訴える人が「かなり問題」で１人、「やや問題あり」で４人と少なからずいる。他には加齢に伴う不調があり、「視力低下」「活動意欲の低下」「疲れやすい」「生活習慣病」を挙げている人も男性にみられることも分かった。

図8-7-1　健康状態

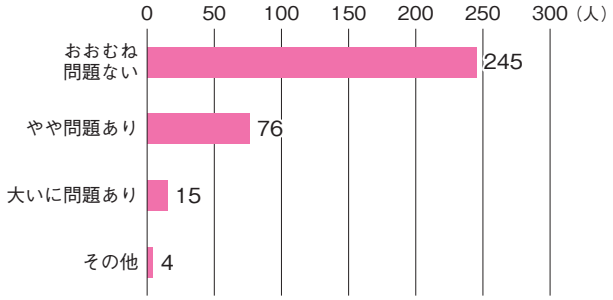


図8-7-2　性別健康状態（人数）

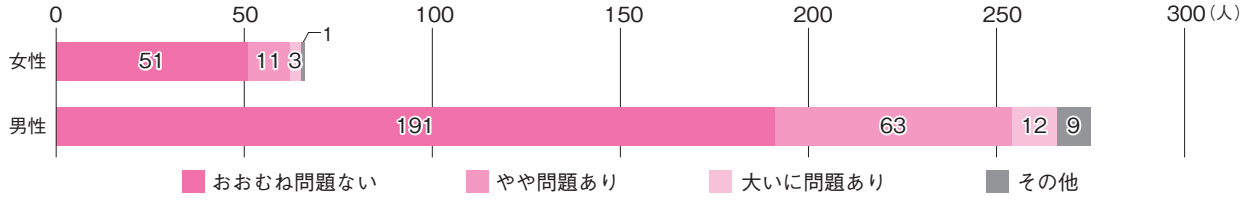


図8-7-3　性別健康状態（割合）

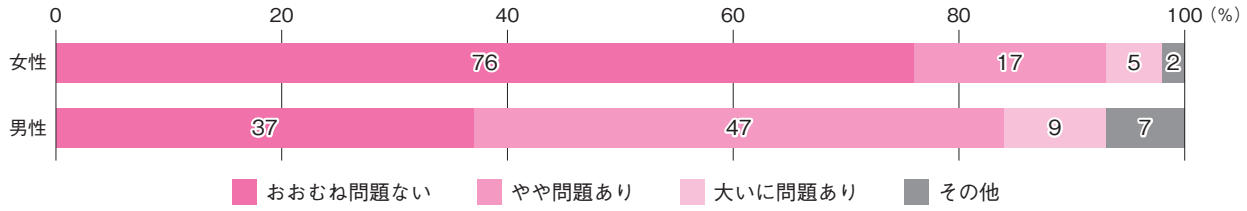


図8-7-4　年齢別健康状態（人）

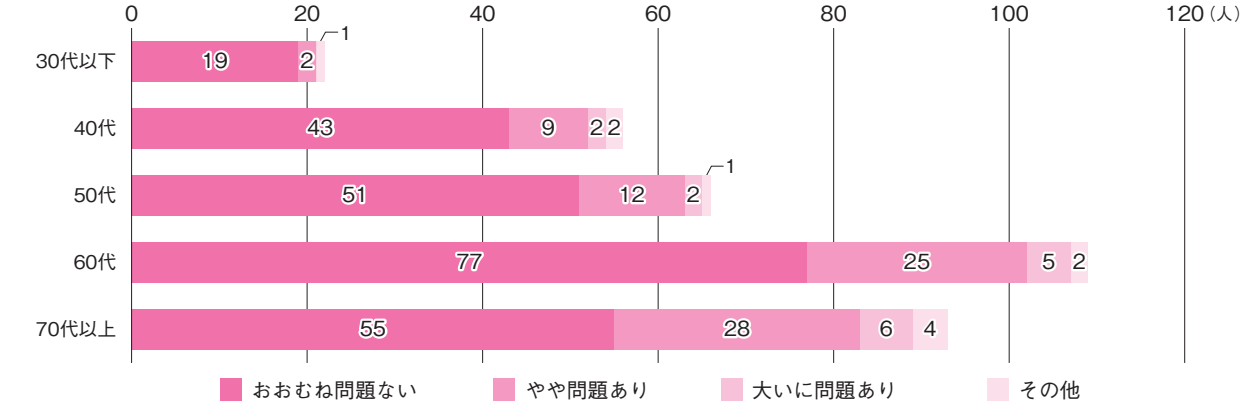
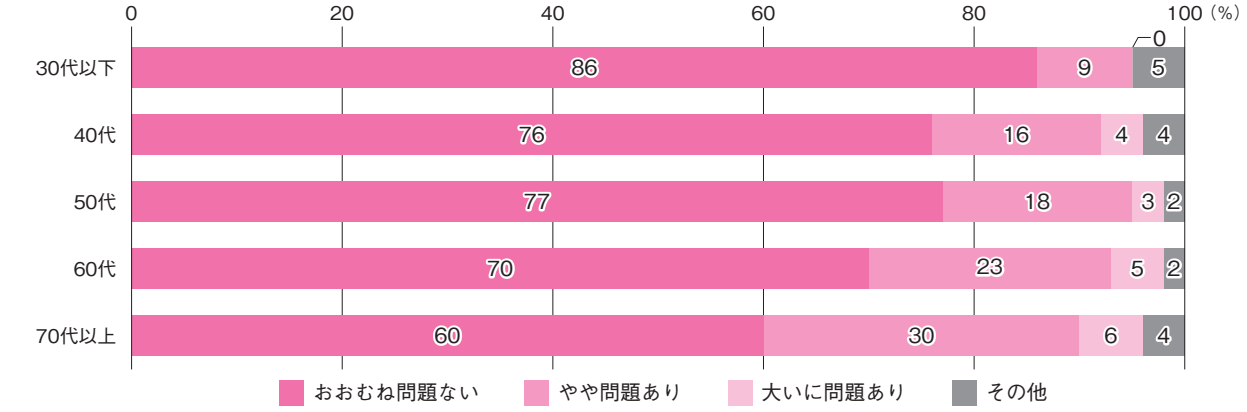


図8-7-5　年齢別健康状態（割合）



第８章　まとめと課題

【まとめ】

この章はかなり具体的に会員個人のことをたずねたにもかかわらず、どの設問も無回答が１％から５％という少数で、結果的に95％以上の回答を得た。

年齢については、さまざまな機会に指摘されているように、会員の高齢化の事実を確認した。また年齢による男女比に特徴がある。70代以上では女性が８％に過ぎず、この世代の建築家・技術者が少なかったこともあり、新建設立にかかわった会員も男性が多かったことを反映していると考えられる。

収入は400万円未満が半数近くで、一般的にはだいぶ低いといえる。同じ時期に日本生活協同組合連合会が行った家計調査では、世帯年収の平均は760万円であった。新建会員個人と世帯といった聞き方の違いはあるものの、男性が８割、60代以上が６割であれば、一般的には世帯年収を合計しても同程度になるかどうか、厳しいのではないだろうか。60代以上が多いことから、年金の金額にも左右されると考えられるが、年金以外の収入も確保しており、自衛に努めていることがうかがえる。一方、50代以下でも400万円未満は一定程度あり、給与や事業主報酬以外の収入源を持っていない。

住まいについては、コーポラティブハウスを設問の選択肢としては用意しなかったが、６人（２％）とはいえ一定の回答が得られた。協同の住まいを推進してきた新建の特徴であろう。企画者・設計者として実践しながら住まいを実現させているようすがうかがえる。設問の選択肢として用意していた「高齢者住宅・施設」については回答がなかった。実際に入居している会員があったとしても、アンケートに答えるのは難しかったのかもしれない。年齢とともに収入が下がっていることも考えられるが、その分、持ち家率の高さがセーフティネットとなっているともいえる。

健康状態についてはおおむね問題ないが７割と多数派ではあるものの、逆にいえば３割に何かしらの問題があるということだ。また、ごく少数とはいえ、中には深刻な回答もあった。高齢男性の割合が高いことから、これからますます何かしらの問題を抱える人が増えることになる。

【課題】

1. 若い会員、女性の会員を増やすことが必要である。息長い活動のためにも、その時々の若い会員に加わってもらうことを、常に意識する。建設現場に女性が増えている近年の状況からすれば、女性の会員がもっと増えてもよいのではないだろうか。さまざまな新建活動を展開するためには、多様な人材から柔軟な発想がわき起こることを想像し、年齢、性別、職業を超えて多くの会員を迎える必要がある。
2. 収入については個人や新建だけで解決できる課題ではないため、例えば、建築士報酬の改善を求めてさまざまな人や団体と協力するなど、技術や職能への報酬が適正に得られるような活動に取り組む。労災問題や年金制度の改善も同様な取り組みが必要であろう。
3. 国の持家政策に踊らされることなく、自らが望む住まい方を追求し、職能として人びとの住まいを実現する。戸建持家、戸建借家、分譲マンション、コーポラティブハウスなどにかかわらず、新築、改修、DIY の別なく、高齢者や障害者の入居が阻まれることなく、人びとの多様なあり方に応じた多様な住まいの実現を考える。
4. 年齢にかかわらず、健康管理をないがしろにしてはいけない。健康診断は少なくとも年に一度受けるなど、若い時期から本人や家族の健康について心に留めておく必要がある。適切な業務時間、健康な食事、大いなる新建活動などにより、健やかな毎日を送れる工夫をする。

自由回答に寄せられた声

アンケートの最後にある自由回答欄には回答者の４割弱132人の方が記入されている。一般のアンケートからみても自由回答への記入は多い。アンケートには盛り込まれなかった項目や、アンケートでは書ききれない内容、そして新建や社会対する意見表明であり、アンケートに対するご意見である。それらをそのまま掲載したかったが膨大な量になる。そこで書かれた人には大変恐縮ですが、内容ごとに分け、断片を引用しながらまとめた。書かれた意図が十分に反映されなかったとしたらお許し頂きたい。尚、１つのご意見を項目に分けている場合もあり、である調にして縮小し、字句については修正させて頂いている。

１．新型コロナウイルス感染拡大における生活・仕事・新建

アンケートでは新型コロナウイルスの影響がまだ大きくなっていない時期に調査票を設計したため、コロナ禍について聞くことができなかった。その結果自由回答欄には最も多い32人の声が記載された。

早く収束するようにという願いがあり、マスクをしない生活のためにも「PCR 検査を」という意見。「折角入会したにもかかわらず、コロナの影響であまり活動ができない」会員もいる。

そして新建50周年はコロナ禍で迎えた。新型コロナで生活スタイルも変容し、「50周年記念行事の開催方法も新しいスタイルが求められる」と提起があり、別の会員は「困難な中にあっても、全国のあちこちに新建会員がいてその場その場で立ち、活動している事実があり励まされます」とあり、将来の仕事の夢を描き「進んでいこうと思っています」と述べている。

□コロナと仕事

それではコロナ禍によって仕事はどのように影響し変容したか。

「３月以降の仕事で中止、延期となったケース、建主と打合せができないなどこれまでにない経験をしている」という人がある一方で、「在宅勤務が増え、昔の勉強部屋が仕事部屋になっているので、不思議な感覚になります。これからの人は、それを踏まえて自分の部屋のあり方（考え方）が変化していくのかと思います。不安であるけれど、わくわくする変化でもある気がしています」という人もいる。

「働き方や業務形態はいやおうなく変わってしまった。事務所のスタッフは７年前からテレワークだが、実はどうしようもなく限界を感じている。テレワークだとそれまで蓄積した知識や技量以上の仕事はできない。集団免疫を早く定着させて元のように相対して人と接し、現場を回って様々な問題を乗り越えて仕事を進めるようになってほしい」

「コロナウイルス禍での今後の受注予測は、不急工事の先延ばしは有るが、わが社のドメインである『構造物の補修・補強・耐震工事という社会のインフラ保全工事』は需要そのものが拡大しても減少することはなく、売り上げの増大が見込める。新建会員各位も目先の仕事量の減少に囚われずに少し先を見て、需要が拡大している市場で仕事をしているという認識があれば、提案力により仕事の発掘が出来ると思う」

「新しい世界への興味と刺激を期待したが、私の知識不足もあり活動について行けていない。加えてコロナの影響で自分の仕事もストップした状態では新しいこと（新建の活動）へのモチベーションも上がらない。気持ちとしては日本と海外の暮らしを比較しながらこれからの暮らし方について参考にしたり、学べるといいなと思っている。心のどこかに昔暮らした藁葺き屋根の家に対する愛着や懐かしさ、生活のリズムをもう一度取り戻したいという感情があるのでこれからも会員として学べるものは学びたいと思ってる」

「元々、事務所と自宅の両方で仕事をしていたが、新型コロナウィルス禍で各種営業マン等の来客対応のない自宅での仕事の時間を半分以上にしている」

中にはコロナ禍にあって「“地域経済の活性化に役立つ企業”を目指し、伝統構法の古民家再生

事業（耐震リフォーム）」に挑戦している人もいる。

□コロナ禍と生活の変容

コロナ禍は人々の生活の変容をもたらした。

「コロナで一気に全生活が影響を受けており、今後もこのような事態は続くと思う。それに対処するやり方を作り出す事が必要。今までの見直しをする事で、より良い方策が見つかるはず。地産地消とか、地域で回る経済人の繋がりを構築する必要がより重要」

「様々な場所で閉塞感を感じることが多くなっているが、できる限り自由な意見を言ったりできる生活を送りたいと思って仕事をしている」

□コロナ禍における新建

さて、コロナ禍については、多くの人が戸惑いながら、改めて新建の活動を考えている記述がみられた。

「様々な情報が大きな潮流のように私を飲み込み、その中で溺れないように必死に泳いでいたら１日、１ヶ月、半年が経ったそんな感じだ。しかし、世の中コロナだけではない（略）世の潮流に身を預けるのでなく、深く潜って光の当たらない場所に何があるのか自ら確かめたい。そんな私にとって新建、『建まち』は多くの先輩方からの教えや知識を得られる図書館のようであり、足元を照らしてくれる存在だ。（略）直接顔を合わせる交流も大事だと思う。Zoom 等のビデオ会議を利用した企画が今後も増えるといいなと思う」

あるいは、コロナ問題は、都市問題・国土問題でもあり、「この視点からの議論を、是非新建から発信してほしい」という要望がある。

また、人々の交流が難しくなったことへの危機感をあげた人も多い。「社会の繋がりが分断されないように、繋がりを維持していくための方策を模索していく必要がある」「主体的に考える機会や場が縮小している。必要最低限、上意下達が主流となることへの不安が大きい中で、新建が他団体と連携しながら声を上げていくことが大切」

□『建まち』誌への掲載

『建まち』誌で、「コロナに関連して、在宅勤務に伴う住まいの変化､通勤など移動行動の変化､それに伴う都市構造の変化などについて特集」「外出自粛などによる、建築業界・新建メンバーへの影響について、技況を調べて掲載」して欲しいという要望があった。

□オンラインの効用

オンラインによる会議や企画は、対面ができないためのやむを得ない選択肢であったが、結果的に非常に大きな効用がみえてきた。

「夜に出歩くのがシンドクなっている者にとっては朗報。各種企画のネット配信を図っていただければ、間接的にも活動に参加できる」「オンラインでの学習機会が増えて、自宅からの参加ができるようになり、ありがたい」「短時間の Zoom 会議を多くして、開催して頂きたい」「距離的制約のないリモートでの企画は新たな広がりが感じられ、大いに活用すべき」。

さらに海外の人とも交流し、積極的に活用している人もいる。「Zoom を使った活動が拡がっていて、自身もその企画を主催している。海外で活動している建築家も加わり、技術交流など30人程度の参加で毎週開催している。新建は全国組織なので、支部を主体としながらも、もっと活動、情報交換の手法を考えるべき」

「コロナが落ち着いてもオンラインでの学習会や会議は定着してほしい。遠方にいるものとして“東京はいいなあ”といつも思っていたが、高い新幹線代と時間を費やさなくていいならこんなに便利なものはない。セキュリティーが心配だが、さらにいい方法があればこれからも活用していきたい」。

□新型コロナと生き方

コロナ禍は生き方にも影響を与えた。

「コロナ禍は私の人生にとって、戦後の貧困、震災（阪神､東北）に加えて大きな経験となった。特に今回のコロナ禍は全世界的な災厄にも関わらず大国のリーダーも含めて多くの国のリーダーが自国第一主義に陥っているのではないか。“経済を回しながら命を守る”という相反する課題は国際的な協調なしに収束は困難。翻って身近な問題や国政の問題でもいろいろ意見を言う人は多いが、全て政治とかかわっていることを話し合い、政治の革新に向けて勉強していきたい」

「コロナで新しい生き方が必要になるだろうが、それはこれまで新建が主張してきたことと大きな

違いはない。組織としてしっかり主張して」

□コロナ禍をチャンスに描く社会

コロナ禍は多くの問題を提起したが、その中から新たな社会への展望もみえてくる。

「新型コロナ禍の状況から競争や生産性重視ではない新しい価値観（絆・思いやり・コミュニティ）を重視し、戦争の無い、平和な社会を望みます」「社会の問題点が鮮明に見えてきた面がある。禍を新しい社会への転換に変えていくチャンスと捉え、新しいあるべき社会に変えていく事が必要だ。それはそれぞれの会員が立っている場所によって手法は異なるが、実践するための知恵を会員全体で出し合えたら素敵だと思う。そして、様々な課題に取組みたいと思う時に、経済的に余裕が無ければできない、という事も忘れてはならない事で、社会に必要な事をした人にそれなりにお金が流れる仕組みも重要。今はITの活用でそれが可能なのかもしれないが、そうであれば、そんな手法も学んでいく必要があるのかもしれない」「コロナ禍は当分おさまる気配はなく、人と人が対面することを遠慮しなければならない期間が長期間続くと考えられる。この状況は仕事のやり方を変えるよい機会だ。“何かができなくなった”ではなく“新しい方法を使えるようになった”と考えて、より楽しくなるように考える」

□コロナ禍からみえる社会

コロナ禍からさらに社会のあり方を考えている。

「コロナ問題で生活・仕事環境の見直しが進んでいるが､根本である再発防止には届いていない」「政治や国・地方行政において誰が本当に国民の幸せの実現に注目しているか、誰がそうではないか、はっきり見えてきた。建築とまちづくりにおいても、我々技術者が最も重視すべき人々の暮らしや健康、福祉が蔑ろにされる場合がある。目先の派手さの陰に危うさや冷淡さが見え隠れする。それに気づく機会が増えた。コロナ禍を通して人々の世の中を見る感覚が研ぎ澄まされつつある。新建は、この機会にますます自信をもってこのスタンスを堅持し、さらに世の中に訴えてゆきたい」

「新型コロナでこれまでの日本の脆弱性があらわになった。気づかなかったというように先に進んでしまうのは将来に禍根を残す。不安定雇用である非正規の多さ、建築・建設業界での格差など私たちの業界でも多くの課題がある。新建でも話し合っていきたい」

□アフターコロナ

コロナ後のことも視野にいれて書いている人もいる。「アフターコロナは、新しい生活スタイル、働き方、生き方も変わらなければならない。環境破壊や気候変動がすすめば、社会全体が立ちいかなくなる。政治経済、国のあり方も変える必要があるが、一人一人が変わらないといけない。新建活動が一つのきっかけになる」「50年間ほとんど変わらない活動スタイルに疑問を感じることもあったが、今はそれが継続できたスタイルだったような気がしている。コロナ以後の時代状況の中でどのような化学変化を起こすか、楽しみだ」

□新型コロナから提起されること

「コロナに限らず、衛生管理がしやすい住宅の提案が求められている」という提案も頭にいれておきたい。

2．会員について

会員については、会員数の減少と高齢化、そして会員の状況が不明であることを指摘し、元気な新建をめざそうとしている人がいる。

「支部会員数が年々減少し、会員の高齢化が進み、新建の存続が危ぶまれている。若い会員も少なく、会員拡大のきっかけ作りもできていない。何とか会員を増やしたい。現在、隔月例会を何とか継続しているが、コロナ禍の影響で開催が出来ない状況。（略）会員間のコミュニケーションを図り、励まし合い、元気な新建を保つことが重要。会員宛てに連絡（ニュース、例会案内など）をしても返事が無い会員が多く、会員が今何をしているのか分からない状況がある。“継続は力なり”を信じて、決めたことを継続していきたい」

そして地域づくり・まちづくりの分野で新建の歴史に学び、「全国組織としての利点をいかして、

新建会員を増やして幅広い活動や社会に対するインパクトのある提言をしていけるようにしたい」「新建の会員さんは設計者が多く敷居が高く感じるが、今後は町場の仕事起こし、職人の育成、高経年マンションの問題等の解決へ向けて、皆様のご指導をお願いしたい」

「京都の女性は活躍されているようで頼もしい限り。男性も負けずに頑張りましょう」というエールもある。

□若い会員への期待

新建会員の高齢化は大きな課題で、「対策が必要」という意見は多い。

「若い人が入って来る道を絶えず考え続ける必要が有る」「どの企画をすれば若い人が参加するのか皆んなで知恵を絞る」「若い人の意見もたくさん聞きたい」「新たな社会を担っていく、若い世代を中心に会員や支援者が増えることを祈願」

「廻りには同世代以下の若い会員が少なく、今後の活動が心配。（略）まずは新建活動の中で、若い世代への発信、思想・技術の継承、多世代間交流に繋がる取組みが増えることを期待」「若い世代に誤解されず、関心を持ってもらえるよう丁寧に伝える事を心掛けたい。多様な人が社会にプラスの影響を与えるべく参加する方向性を共有しつつ、多少のズレが視点の違いとして議論の幅を持たせる団体であり続けて欲しい」

「若い人との交流を通じて新建の理念や技術を伝えていかなければと自問」

「地球温暖化対策をはじめ、社会システムの再構築が望まれている現在、もう少し、社会に対して活動をしていった方がよい。そのためにも、20代、30代の人たちに対して、協働していく方向で新建がその役目や仕事を創りだしていっていただきたい」

また、「学生との交流会のような企画」「若者からみて魅力ある活動、セミナー企画」「新しく会員になった若い人にメリットを感じさせることが必要。メリットは人によって違うが、技術の獲得、事例の勉強、建築思想から始まって政治的思想の開眼、等」

「夢を実現するためにはまだ足りない点が沢山ある。新建の皆さまのこれまでの活動とこれからの活動どちらも大変勉強になる。これからの為に若い人の意見を」

□生き方

生き方を模索している人の声もある。

「今まで得た知識と経験を生かして様々な人の幸せに貢献したい」「就職以来アパート住まい。今後、高齢者の賃貸住宅の確保に苦労するかもしれない。住居に関する新建の活動はどうしても国の経済対策として〈個人所有の住宅〉が重点とされてるが、変える活動が必要。〈住まいの保障〉の意味からも公共住宅の充実を、格差が拡大している現在こそ訴える必要がある」

「現在、現代アート書道に力を入れ、抽象絵画も継続して取り組んでいる」「ウィリアム・モリスの思想と実践を改めて研究したい」そして「一人一人が力を発揮すること」と書いた人もいた。

□高齢期を考える

高齢期を迎え、仕事の第一線から退いたり、新たな生活設計をたてている会員もいる。

新建活動については、「体力低下、時間が取れず、活動に参加出来ず申し訳ない」と言い、悩みは「自身の年齢を考えた時の仕事の継続性の確保」である。同じく体力気力が弱ってきたが、「この先もまだまだやりたいと強気と弱気が2重にからまっている。身近にやり残した事（社会性と文化性）があって、心残りがないようにやっておきたい」「もうすぐ古希を迎え、1日も早く新型コロナウイルス禍の終息を願い、子や孫のため、将来の子どもたちのため、よりよい社会になる様に少しでも貢献出来たらと思う」「食物連鎖の頂点にいる生物は、支えられていることを自覚しないと滅びていく。残り時間が少ないので、命に感謝しながら出来る事をできるだけ穏やかな気持ちで過ごしたい」「一期一会という言葉も少しリアルに考えるようになった気がする」

そしてこれまで歩んできた道を振り返り、「この間3つの分野で活動。①大手ゼネコン、現場、設計部―若い時、②中堅設計事務所―中年、③個人設計事務所―老年。会社の理解を得て設計部門に転属して自分の希望する分野に進んでこれて、新建活動の分野も自分なりに広げることが出来た」「仕事に限らず目の前のことに集中する（熱中する）ことを心がけている」「いろいろな団体、会に入りすぎて会費を払うのも大変になってきたので整理しなくていけないが出来ていない。コロナの影響で仕事も減っていて自分に必要最小限で

優先度が高いものに絞る時期に来ている」

「70歳を超えて思う事は、建築家を夢見た若い頃貧しく学歴もなくコネもない自分が設計事務所を作り40年間、住宅からビル、工場、公共施設等のあらゆる分野での設計の仕事に恵まれ、現在自社ビルで賃貸マンションと駐車場の経営で、安定した生活を送ることが出来るのは、50年前新建に出会い建築設計者としての生き方を学び、新建の存在が励みになった事が大きいと思って感謝している」

中には「80歳になってもワクワクしていたい」という記述がある。いいなあ！

「2018年夏に終活として住まいを移転し、仕事の量も減らしたが、生涯現役でい続けたい。出発はインテリアデザインだったこともあり、今後、建築設計からインテリアデザインの方へシフトして行こうと思案中。新型コロナウイルス禍の外出自粛期間も、普通の賃貸マンションの一室にも関わらず、部屋にい続ける生活を楽しめたのは、古くから使っている家具や置物、あかり、植物などの存在。暮らしの道具の一つからでも、居心地のいいインテリアが生まれるということを再認識でした。そんなことをインテリア通信として発信ができればと、これまた計画中」

「70歳までに九州の実家等を処分する予定だったが、新型コロナウイルスの蔓延のため２～３年ほど延期する。落ち着いたら、その後の状況で、居住地を移すのか、今のままで良いのかを含めて、仕事と社会への関わりを選択する。新建では住まいとまちづくりにかかわる分野で活動するつもりだ」

□健康に関連して

「体が回復して、元気になれば、興味ある企画には参加したい」「母の介護で通勤をやめてから歩行が不自由になった。心がけて歩かないとダメなんだ」

□仕事の紹介

ご自身の仕事について3人が書いている。個人が特定できてしまうのでとても残念だが省略する。

3．新建について

当然のことながら、新建については様々な角度から19人のコメントが記載されている。

□新建運動の意義と要望

組織や個人にとっての新建の意義が書かれている。「業界の内部から周辺諸領域の人々に連帯を呼びかけられる組織は、士会でも家協会でも学会でも事務所協会でもない、何をおいても新建だと確信している。これまでの実績はどの組織にもまして素晴らしい」

「自分の仕事を社会のなかで見直すことがいつも重要と考えている。手掛かり足がかりになる道しるべとして新建の運動は貴重な存在だ」

「今後とも木の専門家として、全国の国産無垢材の紹介を通して、本物の木の良さを広めたい。単なるモノの販売ではなく、知識としての情報と住まうための具体的なノウハウまで伝えてこそ存在価値がある。新建会員には共感する方が多いと思い参加している」

「新建が自分の今をつくってくれた。体があまり言う事を聞かないが、これからもできる限り頑張っていきたい。（略）ポストコロナとも関連すると思うが、経済至上主義でない人間主体の世の中に向けて、展望をもてるような提案がいるのではないか」

□環境に関して

「脱炭素、持続可能社会など特にヨーロッパの例を評価し、日本は大きく遅れているとする自虐的な論調が支部で強くなり、ついて行けなくなった」

「環境問題について注目されてはいるが、周りの家づくりは地域性や文化、木材等の地域資源の循環について無視されている。ハウスメーカーの利益追求は貧しい家づくりを助長。家づくりの原点を見つめ直す為に、どんなことをしなければいけないか考えたい」

「環境異変の主な原因に戦後の利益最優先の経済活動があったことを多くの方が認識し、変えていく努力の中で環境を取り戻す世論づくりにがんばっている」

□新建への参加

「皆さん大変意識が高くそれぞれにいろいろな問題とかかわっているようでとても勉強になっている。私個人としてはまずは安定した経営を行い社員が安心して働ける職場を作り、そのうえで自分にできる範囲でこの会に参加できればと考えている」

□新建を多くの人に知ってもらいたい

新建を外に広げるための意見や提案も多かった。

「オンラインでの企画などを一般に公開する」「建築界、社会の中で、新建の存在、重要な役割を大いにアピールしていくこと」「仕事の関係上、年間に10軒以上のお客様の家に訪問。15年で150軒として“設計事務所が設計したな”という家は１軒もない。建築家はチラシをポスティングするわけでもCMをやってるわけではないので、一般の方々が建築家、設計事務所という存在を知ることが非常に難しい。建築もまちづくりも、そこに暮らす人々の問題だ。住まい手の幸せのために活動しているとしたら、新建という存在をもっと身近なものにして『建まち』を手に取ってもらえるように発信していきたい」「もっと新しい仲間を増やしたい。新建会員で、仕事も増えて、自分の仕事が幸せだと感じるようにしたい。個人の職人が、新建とつながれるような仕組みを作りたい」

「新建は技術者集団なのでbtob（注 business to business）チャネルだが、btoc（business to consumer）との関係性の構築が全く見えない。モデルとしては、btobtocモデルであり、エンドユーザーと新建がどう関係性を構築していくかが大きなポイントだ。新建の情報発信をもっとエンドユーザーに広げていくべき」

□新建の改革

「体制や活動の切り替わりの時期。新建の役割や体制も大きく変革していくことを、考えていく必要がある」

「１．新建の建築とまちづくりに対する提議（反対運動等も含めて）は毎回正しいが、その正しさは10年後くらいにわかる。常に歴史の検証をすることが必要。新建運動に確信を持つもとになる。たとえば、京都の市電を守る運動や四日市の公害反対運動など。

２．新建は、社会的に重要な運動をしているのに建築関係の仲間や、世間にあまり知られていない。マイナーな存在から脱却しなければ。

3. 勇気をもって他団体に連携を呼びかける、府県市の記者クラブで記者会見を頻繁に開き、新建の考えや活動していることをアピールすることが必要」

「建築とまちづくりを社会とのつながりの中でとらえる新建会員の様々な活動が『建まち』誌面、WEBサイト、メール発信等を通じて、会員間の交流や役立つことはもとより、広く世の中に伝わっていくように」

「コツコツと実績を積んで繋がりが生まれ、仕事になって地域の職人さんも潤い、地域のことは地域で解決できるようなネットワークを作り、住む人と働く人が近くて顔の見える関係の中で小さな経済圏を動かす」

□冷めた目でみて

「新建の理念や活動に敬意を表すが、新建会員だからといって、すぐれた建築設計者とは限らない。むしろ実務的にはほとんど関係ないと思う」「構造設計者という立場から、やや冷めた目で見ている」

□支部活動について

支部については支部活動への期待の他、会員が少ない支部の「集まることが困難」な状況や、財政からの立て直し、支部活動を活発にするためにも「若い人と仕事や活動で交流したい」というコメントもあった。

□『ホワイエ』『建まち』を読みますか

「『ホワイエ』は全部読むが『建まち』は殆ど読まない。『ホワイエ』『建まち』作りのご努力・エネルギには感服」

□NPO設計協同フォーラム

「新建会員としての経歴とNPO設計協同フォーラムでの経験はほぼ同じ。設計技術、姿勢、立場について多くの先達から学んだ。独立してから歩む方向を確かなものにしてくれたのは新建の先輩方の言動だ。政治・経済の混迷、感染症対策など不確かな社会状況があるが、少しでも良い状況にして次世代に引き継ぎたい」

□新建賞

「本来は『実践報告の全国版』に報告をする、良い報告については表彰するという位置づけ。最近では『現在、新建全国では〈第13回新建賞2019〉を募集しております』となっている。『新建全国では〈第○回全国実践報告〉を募集しています。優れたものは〈新建賞〉として表彰を致します』が正しい。ご検討を」

□新建叢書

「新建叢書の保育の巻をがんばって作りましょう！」

□退会手続き

「新建を辞める際の退会の手続き方法が見当たらない」という質問もあった。今後整備されるだろう。

4．現代社会について

建築とまちづくりを社会とのつながりで捉えようとする新建会員の現代社会についてのコメントも多い。

「世界の人々の共通した風潮である、自己中心的、短絡的、画一的な思考パターンを改善することが出来れば、現代社会の抱える様々な問題が少しはいい方向に向かうのではないか？」「建築に限らず人々が過度に将来の不安を抱かずに生きていける社会。個性や立場の違う他者を尊重し合える社会を目指したい」「人口減少社会に向かって、住まいとまちのつくり方に余裕と自然を持ち込み、過密から適密へ、徒歩圏での生活環境充実などをその原理にしていくべき」「自分の事から社会や環境まで幅広く多種多様な問題が驚くほど溢れている今日、こんな時だからこそという気持ちで意識的に日常生活の中の些細な幸せにスポットを当てて感謝し、不安の数を数えず希望を持って明るく元気に生きている」「世界的に食が不足する事態が起きた時のために、身の回りに農業の空間が無ければ心の余裕が生まれない」

建築界については、「中小建築企業は、仕事先として選ばれず、仕事は減少、引き継ぐ人が不足し育たず、衰退していく一方…。どういう社会の中で技術者が存在していけるのか、年齢や職種、企業の大小を超えて議論していくことが、今後の建築運動を考えることにつながる」「設計の仕事をしているが、最近気になるのが〈建築家〉を看板に大規模な営業をかけてきている風潮。そういったやり方は本当に住まい手のためになっているのか、いささか疑問に感じる。住まいを商品化したハウスメーカー、次は建築家の商品化が始まっている。」

「近年、住宅工事の現場では、個人や地域の工務店が直接工事を請負っている現場が極めて少なくなってきた。大手ハウスメーカーの下請けとなって仕事をしている様だが、職人としての技術が発揮する場面がなくなりつつあるのは残念だ。建設着工戸数が毎年少なくなってきているのが、小さな設計事務所では、なかなか仕事量が少なく、廃業をする事務所も少なくない。」

「会員の皆さんに理解していただけるような説明ができない将来に疑問を持っている。例えば〈SDG's〉は本当に私たちにとってよいことなのか？行く先は内閣府が計画している〈ムーンショット計画〉。AIの共存がうたわれ、植物は3Dプリンターで再生するという恐ろしい内容で、個人的にはとてもうけいれられない」

他に建て主の状況について「最近の仕事のレベル（住宅の設計）が地震前より低いものに戻りつつある。図面を書いていても全然面白くない。建て主の住宅に対する知識があまりにも低すぎる。耐震も省エネも。予算がないからと言って、箱だけで良いという建て主が増えてきた」とあり、「内需の充実」の提案もあった。

5．アンケートについて

アンケートに関して14人の方が意見を寄せた。「ご苦労様」という方が何人かがおられたが、「長すぎる」「こんなことまでなぜ聞くのか」といった主旨のものが多かった。「〈別刷〉の体裁

は取れなかったのか」という意見もあった。

またアンケートの不備、あるいはワーキンググループの認識不足ともいえる「実践していない者・一線をひいた者にとって」回答が難しい、「設問に用いる職能や仕事のイメージが型にはまりすぎている」といったご意見も頂いた。

反対に、このアンケートから「新建50年の間に社会環境や建築・まちづくりの状況、業務内容の多様化などで、新建に参加する目的、意義、活動等への共感や共通項を見つけにくい社会状況になってきている。このアンケートを機会に現状の茫漠とした共通項を洗い出し、多様な会員や建築技術者に対して共感を実感できる、顕在化するための企画や運営、活動等の具体的な工夫や内容を見つけたい」「自分自身を見返すことができた」「集計結果が楽しみ」といった積極的意味づけをされた方もいた。

おわりに

自由欄への多くの声は、日頃発信できない思いをアンケートを通して述べたものが多かった。コロナ禍で今後もオンラインの企画が増え、これまでにない参加の機会が広がり、会員としての自由な意見表明の場も増えると思う。「不良会員なので…申し訳ありません。」という方を声も記して。尚、記入されたコメントについて引用に粗密があり、また全体に随分圧縮してしまった。末尾になってしまったがお詫び申し上げたい。

提言 from アンケートワーキンググループ

1．アンケートにみる新建「人」像

アンケートによって、新建会員の様々な断面をみてきたが、そこから浮かび上がってきた新建会員像（新建「人」）とはどういうものだろうか？

新建は高齢会員が多い。50年前の新建設立に邁進し、その後「憲章」の理念をもって新建の道筋を照らし、活動を支えてきた草創期の会員と、そこに共感し共に歩んできた会員らが熱意衰えず活動しているからだ。半数以上が意匠系の建築技術者であり、小規模の設計事務所で、生活空間の創造にかかわる多職種の参加と住まいづくりの工務店職人も参加している。いわば「町場の建築技術者」が中心をなしている。

アンケートからは、食べるための仕事・活動と、地域や社会への貢献活動とが、対立矛盾することもあるが、その境が無く、自分の生き方を重ねて生きがいと喜びを見出し、見返りを求めずに奮闘する姿がみえる。したがって懐は豊かとはいえないが、協働の力で乗り越え、協働による創造性を発揮する中で、社会と建築の新たな前進の方向を見出そうとしている。その根っこに憲章がある。

会員は対等平等のフラットな関係にあることが何よりも貴重な体験であり、心地よいものの、より主体的な参画や、会員のジェンダー平等や多様性はこれからだ。今後は「町場の建築技術者」の枠を超え、拡大している建築界の多様な技術者とそれを志す若者による新建をめざしたい。

提言１　新建の年齢構成を若返らせ、新建の仲間を増やす

何よりも、若い世代にとって、より魅力的な新建にしていくために組織運営への若手の参画を促進する。時代に合った企画内容や集まりなどについて、若手が自ら企画できるようにする。

同時に、新建の魅力を外に発信し、他団体との協働を通じて組織的な会員拡大につなげるとともに、地域活動や身近な仕事の関係者へ新建活動を紹介し仲間を増やすことに意欲的に取り組む。

会費が負担になっている会員の声に対して、会費のあり方を検討していく。そのためにも新建のあり方や財政・運営についてさらなる工夫をする。

提言２　多様な人々がともに活動できる新建に

豊かな生活空間づくりを進めていくために、より幅広い職種の人々や、いろいろな分野の人々の参加を促し、自由闊達な議論や交流が巻き起こる組織を目指したい。女性の会員比率を現在の２割からまずは３割に高め、各支部や全国幹事、常任幹事などあらゆるグループでジェンダーバランスを整えていきたい。また、つくり手としての障害者や性的マイノリティー（ＬＧＢＴＱ）の人々が共に参画できる新建にする。

提言３　“生活”と“ケア”を大切にする生活派建築技術者に

家庭生活における家事・育児・介護などの経験や生活者としての視点から、住まいづくりやまちづくりを考察する。また高齢社会、多様性を認め合う社会に向けて、ケアワーク*は今後ますます重要になっており、そうしたことに深く関心を持つことや関わっていくことも大切にしたい。

*ケアワーク：広い意味で、他の人への支援やサービス

提言４　人間らしい生き方・働き方を実践する

豊かな生活空間づくりを進める私たち自らが、人間らしい生き方や働き方を実践したい。労働時間を意識し、健康管理に努め、家庭生活時間や地域生活時間、余暇時間を確保したい。職場での差別やハラスメントのない環境を進めていくことは、納得できる報酬とやりがいのある仕事の確立につながる。それらを保障する受注の安定化や報酬の適正化について関係団体と共に取り組む。国際労働機関（ＩＬ

O）が提唱する「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」をあらためて議論したい。

提言 5　地域でいきいきと生きる

日常の暮らしの舞台となる生活圏がより豊かになるように、地域でのさまざまな活動に参画していく。そして、一人の生活者としてまちに出て人と関わり、たくさんのことを学び、専門家として地域を見つめ、頼りにされる存在になろう。特に災害時の避難対応など非常時に備えて、世代間交流やコミュニティ活動を意識し促進する。

それぞれが関わっている地域の話題を支部や全国に発信・交流し、課題や経験を共有していく。

提言 6　支部活動を中心に、支部を超えた全国の会員と交流する

豊かな支部活動にとって、全国組織の利点を活かした支部を超えた交流が重要であることを再認識し、身近な支部活動を中心に据えながら、建築とまちづくりセミナーや全国研究集会など全国企画への参画を強め、豊かな経験交流を促進しよう。コロナ禍をきっかけに、オンラインの活用が全国の会員の気軽な参加を飛躍的に可能にした。「マンションサポート研究会」など全国レベルでのテーマ毎のグループ交流や、支部企画の『建まち』Zoom 読書会等、支部を超えた交流等、全国と支部での網の目のような交流を広げよう。

提言 7　生活派の建築とまちづくりを目指すために必要なこと

技術者として科学的裏付けのある確かな専門性を身につけることと共に、建築以外の文学・芸術・社会など幅広い知見を身に着けて豊かな人間性を育むことを重視し、「誰のために何のために」という職能倫理の堅持が重要である。同時に「聞く力・話す力」、コミュニケーション力を養うことも重要で、これらの力量は、多様な人々との関わりによってこそ獲得できる。

提言 8　新建の理念と実践を発信し、新建の存在をもっと社会にアピールする

設立50年を迎えた新建で、地域に根ざした建築・まちづくりを住む人使う人のために協働して進めてきた優れた実践を、社会に向けてもっと発信しよう。

全国企画や支部企画を大いに発信し、同時に他団体との連携、共催などの多面的交流を追求する。

ホームページを新建の顔として充実させることと、機関誌を超えるオピニオン性を持つ建築ジャーナル『建築とまちづくり』誌の普及に努め、新建の活動や主張、そして「憲章」理念の実践を正しく伝えていく。

提言 9　人間関係がフラットな組織として民主的運営を貫く

会員相互が、年齢・性別・肩書きなどで上下のない平等でフラットな関係にあることが新建の特質であり、常に確認する必要がある。自主的な参加で集まった集団として民主的な運営への主体的・積極的参画は基本であり、みんなで決めてみんなで実践する活動を今後も追求していく。

提言10　人々と共に社会を変える

新建だけでは解決できない課題は多く、新建以外の多くの人や諸団体と連帯しながら社会を変えていく取り組みを強めていきたい。待ったなしで取り組むべき気候危機の問題は重要だ。脱炭素社会の実現、災害復興支援活動と減災への取り組み、超高齢社会に対して、私たちは建築まちづくり分野の英知を集めよう。

また、やりがいのある仕事と報酬、安全で働きやすく、働き続けられる職場の実現や、高齢期を安心して過ごせる社会保障制度の充実を進める。

資料編

新建 50 周年・未来への会員アンケート

新建築家技術者集団は 2020 年に設立 50 周年を迎えます。半世紀を経て、社会環境も建築・まちづくりをめぐる状況も大きく変化し、私たち会員も多彩な構成で、様々な活動を展開しております。

そこで、新建 50 周年を機に、会員の皆様の仕事や家庭、社会貢献や地域活動など（ワーク・ライフ & レジャーバランス）の実態をつかむと共に、課題を探り、今後の抱負やご意見を伺うことで、よりよい生活空間の創造をめざし、多くの建築人や建築・まちづくりを志す若い人々が共に参加することを願い、新建のこれからを歩んでいくための資料にしたいと思います。現在、新型コロナウイルス禍で大変だとは思いますが、こうした目的のために、**この調査では新型コロナウイルス禍以前の状況でお答えください。**

アンケートは、プライバシーに注意し個人が特定されないよう、個人情報保護法に基づいて取り扱いに十分配慮して行いますので、どうぞ率直なお考えをお聞かせくださいますようお願い致します。

回答所要時間はおおよそ 30 分くらいです。アンケートへの参加はあくまでも自由意志によるものですが、全員の回答を目指していますので、是非ご協力ください。

この結果は、『建まち』誌 12 月号に第一次結果を発表し、2021 年にはさらに皆様のご意見なども加えて『新建白書』としてまとめます。

2020 年 5 月　新建築家技術者集団全国幹事会

回答締切　　2020 年 7 月 31 日（金）

●回答方法　3つの方法いずれかで回答してください。
集計を容易にするために、できるだけ1でお答えいただけるとありがたいです。

1　Googleフォーム(以下のいずれかからアクセスできます)
・会員メーリングリストにてお知らせします（この機会に登録してください）。
・新建ホームページに掲載します。
・右のQRコード®からアクセスしてください。

2　メール　　新建築家技術者集団・全国事務局　　shinken@tokyo.email.ne.jp
『建築とまちづくり』のアンケートページをコピーして回答し、PDFにして全国事務局宛てメールに添付してください。

3　郵　送　　〒162-0081 東京都新宿区水道町2-8　長島ビル2階
『建築とまちづくり』のアンケートページをコピーして回答し、郵送してください。

●対象は新建会員です。『建まち』誌読者、賛助会員は含みません。

●問い合わせ先
新建築家技術者集団・全国事務局　担当：永井幸
メールアドレス　shinken@tokyo.email.ne.jp
ファクス　03-3260-9811　／　電話　03-3260-9800

●アンケートワーキンググループ
代表：永井幸
川本真澄、桜井郁子、高田桂子、甫立浩一、三浦史郎／アドバイザー：中島明子

Ⅰ　基礎項目

Q1―1　所属支部はどちらですか。
（1）福岡　（2）岡山　（3）奈良　（4）兵庫　（5）大阪　（6）京都　（7）滋賀　（8）三重
（9）愛知　（10）静岡　（11）岐阜　（12）長野　（13）福井　（14）石川　（15）富山
（16）新潟　（17）神奈川　（18）東京　（19）千葉　（20）埼玉　（21）群馬　（22）宮城
（23）岩手　（24）青森　（25）北海道　（26）支部のない県（　　県）

Q1―2　会員歴は何年ですか。
（1）5 年未満　（2）5 年以上　（3）10 年以上　（4）20 年以上　（5）30 年以上　（6）40 年以上
（7）不明

Q1―3　入会したきっかけを選んでください。（複数回答可）
（1）新建理念に共感　（2）新建活動（企画）に参加して　（3）職場のつながり
（4）研究室のつながり　（5）会員の勧誘　（6）新建以外の活動つながり　（7）親、親族の勧め
（8）建築学生運動のつながり　（9）その他（　　）

Q1―4　あなたは現在お仕事をしていますか。
（1）している　（2）休職中　（3）退職した　（4）学生・大学院生
（5）その他（　　）

Q1―5　現在、新建以外の建築系諸団体の会員になられているものを全て選んでください。（複数回答可）
（1）特にない　（2）建築士会　（3）建築士事務所協会　（4）建築家協会　（5）建設労働組合
（6）女性建築技術者の会　（7）建築学会　（8）都市計画学会　（9）マンション学会
（10）居住福祉学会　（11）その他（　　）

Q1―6　Q1―5 でお答えいただいた団体で、あなたが力を入れている団体があれば、高い順番に選んで（3 つまで）番号を記入ください。

1		2		3	

Q1―7　Q1―6 の団体でもっとも参加している団体での活動状況をお聞かせください。（複数回答可）
（1）特に何もしていない　（2）団体役員である　（3）委員である
（4）イベント・活動などの企画　（5）イベント・活動などに参加
（6）その他（　　）

Q1―8　あなたがお持ちの資格についてお尋ねします。（複数回答可）
（1）特にない　（2）技術士　（3）一級建築士　（4）二級建築士　（5）木造建築士
（6）構造設計一級建築士　（7）設備設計一級建築士　（8）建築施工管理技士
（9）マンション管理士　（10）不動産鑑定士　（11）宅地建物取引士　（12）土地家屋調査士
（13）建築設備士　（14）インテリアコーディネーター　（15）インテリアプランナー
（16）増改築相談員　（17）福祉住環境コーディネーター　（18）特殊建築物等調査資格者
（19）被災建物応急危険度判定士　（20）被災宅地危険度判定士　（21）木造住宅耐震診断士
（22）ヘリテージマネージャー　（23）既存住宅状況調査技術者　（24）その他（　　）

Q1―9　現職、元職を問わず、あなたの職種を回答ください。（複数回答可）
（1）意匠設計　（2）構造設計　（3）設備設計　（4）コンサルタント（5）都市計画
（6）施工管理　（7）大工職人　（8）その他の施工技術者　（9）研究職・教育職
（10）行政関係職　（11）営業職　（12）事務職　（13）その他（　　）

会員アンケート　2

Q1―10　あなたの所属をお答えください。（複数回答可）
（1）なし　（2）設計事務所　（3）工務店　（4）ゼネコン　（5）メーカー
（6）大学などの教育機関　（7）国・自治体　（8）特定非営利活動法人　（9）不動産
（10）その他（　　）

Ⅱ　仕事と労働環境

現在、就労している方はお答えください。就労していない方はⅢへ

Q2―1　職場への通勤時間についてお聞きします。
（1）0 分　（2）30 分未満　（3）1 時間未満　（4）1 時間半未満　（5）2 時間未満　（6）2 時間以上

Q2―2　仕事で対象としている主な建物用途をお聞かせください。（複数回答可）
（1）建築の仕事ではない　（2）戸建て住宅　（3）長屋・集合住宅　（4）事務所　（5）商業施設
（6）福祉施設　（7）医療施設　（8）その他（　　）

Q2―3　職場の組織形態について
（1）株式会社　（2）有限会社　（3）企業組合　（4）特定非営利活動法人
（5）社団・財団・その他の法人　（6）個人事業主　（7）その他（　　）

Q2―4　職場の人数（役員、所長も含める）
（1）1 人　（2）2 ～ 5 人　（3）6 ～ 20 人未満　（4）20 ～ 100 人未満　（5）100 人以上

Q2―5　あなたの雇用形態
（1）個人事業主　（2）経営者　（3）正規職員　（4）非正規職員　（5）アルバイト
（6）その他（　　）

Q2―6　週平均の実労働時間を教えてください。
（1）30 時間未満　（2）30 ～ 40 時間未満　（3）40 ～ 50 時間未満　（4）50 ～ 65 時間未満
（5）65 時間以上　（6）その他（　　）

Q2―7　現在、労働時間と余暇時間や家庭生活時間（家事・育児・介護）のバランスはいかがですか。
（1）バランスがいい　（2）もう少し余暇時間や家庭生活時間がほしい
（3）余暇時間や家庭生活時間がほとんどない　（4）もう少し労働時間を確保したい
（5）その他（　　）

Q2―8　仕事に喜びややりがいを感じますか。
（1）大いに感じる　（2）まあまあ感じる　（3）普通　（4）あまり感じない　（5）全く感じない
（6）仕事による　（7）その他（　　）

Q2―9　どのような場合に仕事にやりがいを感じますか。（複数回答可）
（1）依頼者に喜んでもらえ、役に立っていることが直接感じられる
（2）仕事をすることで社会的貢献を感じられる　（3）自分が考える満足いく報酬が得られる
（4）自分の技術やスキルが発揮できる　（5）所属する組織の役に立っている
（6）その他（　　）

Q2―10　仕事にやりがいを感じないのはどのような場合ですか。（複数回答可）
（1）仕事をしている割には報酬が満足に得られない
（2）依頼者や社会のために役立っていると感じられない　（3）自分の信念に反する仕事だから
（4）所属する組織にとって役立っていると思えない　（5）その他（　　）

Q2―11　最近の仕事量についてお聞かせください。
（1）かなり多い　（2）少し多い　（3）ちょうど良い　（4）少し足りない　（5）とても少ない
（6）その他（　　）

Q2―12　Q2―11の仕事量に対してどのように対処しようとしていますか。
（1）現状のままでよい　（2）仕事量を減らしたい　（3）仕事の内容を問わず仕事量を増やしたい
（4）やりがいのある仕事を増やしたい
（5）仕事の内容や量よりも社会に貢献できる仕事をしたい　（6）その他（　　）

Q2―13　仕事に関して困っていることは何ですか。（複数回答可）
（1）報酬あるいは賃金が低い　（2）工期が短く業務に時間が思うようにかけられない
（3）仕事の受注が困難・不安定　（4）コンペや見積提出などで選定されることがある
（5）仕事時間が長い、不規則である　（6）人手が足りない　（7）職場や業者との人間関係
（8）お客さんとのトラブル　（9）その他（　　）

Q2―14　職場や仕事上でパワハラやセクハラなどの嫌がらせや不快感を覚える言動を受けたことはありますか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）職場で受けた　（3）現場や関連業者から受けた
（4）職場で年齢による差別を受けた　（5）妊娠・出産・育休・介護休暇などで受けた
（6）その他（　　）

Q2―15　子育てや介護について、あなたの職場での制度や支援策についてお尋ねします。
産前産後休暇はありますか。
（1）あるので取れる　（2）あるが取れない　（3）知らない　（4）明文化されてないが融通が利く
（5）その他（　　）

Q2―16　育児休暇・育児時間はありますか。
（1）あるので取れる　（2）あるが取れない　（3）ない　（4）知らない
（5）明文化されてないが融通が利く　（6）その他（　　）

Q2―17　介護休暇・介護時間はありますか。
（1）あるので取れる　（2）あるが取れない　（3）ない　（4）知らない
（5）明文化されてないが融通が利く　（6）その他（　　）

Q2―18　その他の支援策として導入している方法は何ですか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）在宅勤務　（3）フレックスタイム　（4）短時間勤務
（5）その他（　　）

Q2―19　さらに支援策として要望したいことがあればお書きください。

会員アンケート　4

Ⅲ　家族・家庭生活

家族や家庭での生活についてお尋ねします。

Q3―1　あなたの家族形態をお聞かせください。
（1）単身　（2）夫婦／カップルのみ　（3）夫婦／カップルと子ども　（4）自分と子ども
（5）自分と親　（6）夫婦／カップルと親　（7）三世代家族　（8）その他（　　）

Q3―2　ペットは飼っていますか。（複数回答可）
（1）飼っていない　（2）犬　（3）猫　（4）その他（　　）

Q3―3　ご自分をいれた家族の人数（ペットを除く）をお書きください。
（1）1人　（2）2人　（3）3人　（4）4人　（5）5人　（6）6人　（7）7人　（8）8人以上

Q3―4　現在、同居している子どもはいますか。（複数回答可）
（1）いない　（2）就学前の子どもがいる　（3）小学生以上の子どもがいる
（4）就労している子どもがいる　（5）その他（　　）

Q3―5　現在、介護をしている家族はいますか。
（1）いない　（2）同居している家族にいる　（3）いるが、同居していない
（4）その他（　　）

Q3―6　あなたが家事に費やす時間は1日にどの程度ですか。

Q3―6―1　平日
（1）30分未満　（2）1時間程度　（3）1・5時間程度　（4）2時間程度　（5）2・5時間程度
（6）3時間以上

Q3―6―2　休日
（1）30分未満　（2）1時間程度　（3）1・5時間程度　（4）2時間程度　（5）2・5時間程度
（6）3時間以上

Q3―7　家庭生活において、負担と感じる、あるいは感じた経験があるのは何ですか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）買い物　（3）調理　（4）洗濯　（5）掃除／片付け　（6）育児　（7）介護
（8）庭の手入れ　（9）その他（　　）

Q3―8　家庭生活において自分の仕事にプラスになると感じることは何ですか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）育児　（3）介護　（4）調理や食事　（5）その他（　　）

Q3―9　趣味をお持ちですか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）読書　（3）散歩　（4）映画鑑賞　（5）音楽鑑賞　（6）楽器演奏
（7）合唱・声楽　（8）絵画　（9）スポーツ・スポーツ観戦　（10）囲碁・将棋　（11）登山
（12）旅行　（13）その他（　　）

Q3―10　趣味が仕事の役に立つことはありますか。
（1）特にない　（2）ある　（3）その他（　　）

Ⅳ　地域活動・社会貢献

あなたはどのような地域活動、社会貢献活動に参加されていますか。

Q4―1　新建以外の地域活動、社会貢献活動参加していますか。
（1）参加していない→ Q4―4 へ　（2）参加している

Q4―2　「参加している」人はどのような地域活動や社会貢献活動ですか。（複数回答可）
（1）自治会・町内会関係　（2）マンション管理組合　（3）子ども関係　（4）高齢者関係
（5）障がい者関係　（6）環境にかかわる活動　（7）新建以外の災害支援関係
（8）文化、スポーツ関係　（9）まちづくり関係　（10）その他のボランティア
（11）その他（　　）

Q4―3　もっとも参加している活動はどの程度参加していますか。
（1）月に 4 回以上　（2）月に 2、3 回　（3）月に 1 回程度　（4）その他（　　）

Q4―4　近隣、地域での暮らしについてお聞かせください。近所に親しく付き合っている人はいますか。
（1）親しい人がいる　（2）挨拶程度の人だけ　（3）あまり親しい人はいない
（4）その他（　　）

Q4―5　日常生活や災害などで助け合える人がいますか。
（1）助け合える人がいる　（2）助け合える人はいない　（3）その他（　　）

Q4―6　地域の人から専門的・仕事に関することで相談されることがありますか。
（1）よくある　（2）たまにある　（3）特にない　（4）その他（　　）

Ⅴ　新建について

新建についてお聞かせください。＊「その他」で書ききれない場合は余白を使ってください。

Q5―1　あなたにとって新建はどんな存在ですか。（複数回答可）
（1）同じ志（憲章を介して）が集まる場　（2）技術交流の場　（3）社会に目を向ける場
（4）職能を考える場　（5）話し（飲み）相手がいる場　（6）刺激を得る場
（7）協同で仕事する場　（8）地域で役立つ仕事を知る場
（9）復興支援活動その他の社会貢献を行う場　（10）その他（　　）

Q5―2　新建に入ってよかったですか。
（1）とてもよかった　（2）よかった　（3）まあまあよかった　（4）あまりよくない
（5）よくない　（6）その他（　　）

Q5―3　新建に入ってよかったと思うことは何ですか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）尊敬できる人や憧れの人と交流できる　（3）関心のある企画に参加できる
（4）自分の仕事や実践を発表できる機会がある　（5）年齢を超えて、知り合いがたくさんできる
（6）悩みや迷っていることを相談できる（7）色々な地域へ行く・地域の仕事を知ることができる
（8）企画などの参加費が安い（9）その他（　　）

Q5―4　新建に入って影響を受けたことはありますか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）仕事の取り組み方が変わった　（3）自分の実践や考えを発信する機会が増えた
（4）視野が広がった　（5）専門的知識が増えた　（6）まちづくりに対する関心が強くなった
（7）人との交流が増えた　（8）若い人に自分の考えを伝えたいと思うようになった
（9）仕事を社会とのつながりで考えるようになった　（10）その他（　　）

会員アンケート　6

Q5―5　新建で次の運営に参加しましたか（支部・全国問わず、過去の参加経験も）。（複数回答可）
（1）参加したことはない　（2）参加したくても忙しくて参加できない　（3）幹事　（4）事務局
（5）会計　（6）企画などの準備　（7）『建まち』編集・寄稿　（8）支部ニュース
（9）情報・連絡係　（10）他団体と結ぶ役割　（11）その他（　　）

Q5―6　新建の企画に参加していますか、したことがありますか。（複数回答可）
（1）参加したことはない　（2）参加したくても忙しくて参加できない
（3）全国企画の建まちセミナーなど　（4）ブロック会議・ブロックセミナー
（5）支部企画の例会・勉強会　（6）支部の見学会・講演会など　（7）支部懇親会・交流会
（8）実践報告会〈仕事を語る会〉　（9）各種相談会　（10）その他の研究会
（11）その他（　　）

Q5―7　新建についてあなたの悩みは何ですか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）多忙で参加できない　（3）他団体との交流について
（4）勉強会などの講師がいない　（5）参加しにくい雰囲気がある　（6）もっと声かけしてほしい
（7）会費が高い　（8）役員などで時間がとられる　（9）その他（　　）

Q5―8　新建で社会情勢を共有したり悩みを話し合ったり共通の関心や趣味をもつ人はいますか。
（1）いる　（2）欲しいが見つからない　（3）必要を感じない　（4）その他（　　）

Q5―9　全国の新建会員に、ぜひ自分の活動を知ってほしいと思うことがあれば書いてください。

Q5―10　『建まち』誌について伺います。どのくらい読んでいますか。（複数回答可）
（1）毎号全部　（2）関心のある記事や特集　（3）ひろば　（4）主張　（5）表紙・裏表紙の裏連載
（6）その他の連載　（7）「忙中閑」　（8）あまり読まない　（9）その他（　　）

Q5―11　特に印象に残っている記事があれば、書いてください。

Q5―12　『建まち』誌の評価はいかがですか。
（1）非常によい　（2）まあまあよい　（3）普通　（4）改善が必要
（5）その他（　　）

Q5―13　『建まち』誌に対する要望はありますか。（複数回答可）
（1）おおむね今のままでよい　（2）実践例をもっと多く　（3）記事内容をもう少しわかりやすく
（4）カラー化　（5）大判（A4）に　（6）電子書籍にする　（7）その他（　　）

Q5―14　新建のホームページを見ていますか。
（1）頻繁に見る　（2）必要に応じて見る　（3）あまり見ない　（4）見たことがない

Q5―15　新建のホームページにご意見がありましたらお書きください。（複数回答可）
（1）特にない　（2）今のままでよい　（3）トップページを見やすい構成に変えてほしい
（4）お知らせだけではなく報告も充実してほしい　（5）更新回数を増やしてほしい
（6）支部のページを充実してほしい　（7）その他（　　）

Ⅵ　新建の未来に向けて

今後の新建、建築・まちづくりのあり方などの考えをお聞かせください。

Q6―1　新建であなたが取り組みたい、あるいは強化したいテーマは何ですか。（複数回答可）
全てに○をつけ、最も必要な内容には◎を付けてください。
（1）特にない　（2）地元の木を使った建築　（3）地域にねざした住まいやまちづくりの推進
（4）環境共生型住まいやまちづくりの推進　（5）日本や地域の伝統工法
（6）住宅政策・居住支援　（7）環境破壊防止　（8）社会貢献的な活動
（9）学生や若手の人への働きかけ　（10）仕事拡大や協同化
（11）建築技術者の職能・報酬の底上げ　（12）女性会員を増やす
（13）他職域の会員を増やす　（14）その他（　　）

Q6―2　自分の周りの建築関係者に「新建の良さ」をどのように伝えていますか。（複数回答可）
（1）建まち誌の案内　（2）全国企画への案内　（3）支部企画・勉強会などへの案内
（4）憲章を説明する　（5）新建運動を語る　（6）新建活動を語る
（7）その他（　　）

Q6―3　活発で充実した新建活動をするために、「新建」に望むことは何ですか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）気軽に参加できる企画や雰囲気　（3）気軽に意見できる仕組み
（4）幹事会運営の内容を知りたい　（5）全国の会員の活動を知りたい・つながりたい
（6）ホームページやSNSの充実　（7）オンラインを活用した会議や研究会など
（8）楽しい企画の充実　（9）仕事の糧となる勉強会　（10）新建会員での仕事の作り方
（11）新建全国大会の改善　（12）全国研究集会の改善　（13）建まちセミナーの改善
（14）ブロック企画の充実　（15）新建学校の開催　（16）会費を検討する
（17）その他（　　）

Q6―4　新建活動の運営でかかわりたいことはありますか。（複数回答可）
（1）特にない　（2）全国企画　（3）支部企画　（4）建まち誌の編集委員
（5）他業種や他団体との橋渡し　（6）新建学校　（7）相談業務
（8）ホームページやSNS発信　（9）その他（　　）

Q6―5　今後、どのような方たちと仕事や活動をしていきたいと思いますか。（複数回答可）
（1）建築士　（2）工務店　（3）職人　（4）自治体関係者　（5）弁護士　（6）大学教員・研究者
（7）学生・大学院生　（8）福祉関係者　（9）医療関係者　（10）その他（　　）

Q6―6　建築・まちづくり業界に期待することは何ですか。（複数回答可）
（1）中小工務店などの町場仕事の継続・発展　（2）下請け業者への適正な報酬
（3）行き過ぎた利益追求の是正　（4）建築士の報酬の改善　（5）行政手続きの改善
（6）大規模（再）開発の抑制　（7）偽造・捏造などの不公正をなくす
（8）低炭素社会に向けての取り組み　（9）その他（　　）

Q6―7　建築を志す人に建築・まちづくり教育で特に何を学んでほしいと思いますか。（複数回答可）
（1）建築以外の文学・芸術・社会などについて　（2）建築思想や倫理
（3）住む人・使う人の権利　（4）住民主体の住まいとまちづくり　（5）社会や建築業界の現状
（6）日本や海外の住まいとまちづくり　（7）住まいとまちづくりの実践　（8）IT技術
（9）その他（　　）

会員アンケート　8

Ⅶ　あなたのことについてお聞きします

Q7―1　年齢
（1）20 代以下　（2）30 代　（3）40 代　（4）50 代　（5）60 代　（6）70 代　（7）80 代以上

Q7―2　性別
（1）男性　（2）女性　（3）その他

Q7―3　ご自身の年収（税込）についてお答えください
（1）200 万円未満　（2）～ 400 万円未満　（3）～ 700 万円未満　（4）～ 1000 万円未満
（5）1000 万円以上

Q7―4　現在の収入源（複数回答可）
（1）事業主報酬　（2）給料　（3）年金　（4）その他（　　）

Q7―5　お住まいについてお聞かせください。
（1）一戸建て持家　（2）一戸建て借家　（3）分譲マンション　（4）賃貸住宅
（5）高齢者住宅・施設　（6）その他（　　）

Q7―6　あなたは今の住まいに何年お住まいですか。
（1）1 年未満　（2）5 年未満　（3）10 年未満　（4）20 年未満　（5）20 年以上

Q7―7　現在あなたの心身の健康状態はいかがですか。
（1）おおむね問題ない　（2）やや問題あり　（3）大いに問題あり
（4）その他（　　）

Q7―8　健康状態での問題はどのようなことですか。

Ⅷ　最後に、ご自身のことや新建、将来のこと、新型コロナウイルス禍に関連してのこと、アンケートに関して自由にご意見をお書きください。（字数の制限はありません）

ご回答ありがとうございました！

新建会員を対象とするアンケートの実施覚書

アンケートワーキンググループ代表　永井　幸

テーマ	**新建 50 周年・未来への会員アンケート**		
担当者：アンケートワーキンググループ		所　属	氏　名
	メンバー	常任幹事	代表　永井　幸
		常任幹事	川本真澄
		全国幹事	桜井郁子
		常任幹事	高田桂子
		常任幹事	甫立浩一
		幹事会顧問	三浦史郎
		代表幹事	アドバイザー　中島明子
アンケート実施場所	ワーキンググループ各自の PC 上で行い、代表が統括してデータを管理・保管する。		
実施期間	アンケート項目作成　：2020 年 2 月～ 2020 年 5 月末 アンケート配布・回収：2020 年 6 月～ 2020 年 7 月末 集計・分析　　：2020 年 8 月～ 2021 年 3 月		
実施の目的	新建築家技術者集団は 2020 年に設立 50 周年を迎える。半世紀を経て、社会環境も建築・まちづくりをめぐる状況も大きく変化し、会員も多彩な構成で、様々な活動を展開している。 そこで、新建 50 周年を機に、会員の仕事や家庭、社会貢献や地域活動などの実態をつかむと共に、新建活動の課題を探り、今後の抱負や意見を伺うことで、よりよい生活空間の創造をめざし、多くの建築人や建築・まちづくりを志す若い人々が共に参加するために、新建がこれからを歩んでいくための資料とする。 なお、対象は新建会員とし、『建まち』誌読者、賛助会員は含まない。		
アンケート概要	Ⅰ 基礎項目（会員歴他）：10 項目　　Ⅱ 仕事と労働環境：19 項目 Ⅲ 家族・家庭生活：10 項目　　Ⅳ 地域活動・社会貢献：6 項目 Ⅴ 新建について：15 項目　　Ⅵ 新建の未来に向けて：7 項目 Ⅶ 回答者の属性：8 項目　　Ⅷ 自由回答		
実施計画	6 月　『建まち』誌 6 月号にアンケート票掲載。 併せて新建 HP に WEB アンケート掲載。全国・支部を通して会員に回答依頼。 7 月 15 日を目途に回答の確認・依頼 7 月末 アンケートの回答締め切り 8 月　　手書き票をデータ化 アンケート単純集計・分析方針の策定 分析開始 10 月『建まち』原稿分担執筆・提出 ↓　　11 月　クロス集計・分担作成 12 月『建まち』誌 12 月号に中間報告掲載予定　　↓ 12 月　集計結果から課題の抽出 2021 年 1 月～　課題ごとのグループ討論・まとめ **2021 年 7 月『新建 50 周年・未来に向けて―新建会員白書 2020』刊行予定**		
アンケートに係る個人情報保護等の倫理的配慮について	**(1) アンケート対象となる個人の人権の擁護及び社会的影響**		
	ⅰ アンケートへの参加はあくまで自由意思とし、強制はしないこと、また回答しなくても不利益が生じないこと、アンケートに関する問い合わせ先（新建全国事務局）をアンケート前文に明記する。 ⅱ 個人を特定できる情報の内、個人情報が掲載された返送用封筒はアンケートワーキンググループ代表（以下「代表」）の責任で速やかに破棄する。 ⅲ 収集したアンケート用紙とデータ（その印刷物）は厳重に管理し、成果物完成後に代表が責任をもって破棄する。なお、個人が特定できないように配慮している旨を用紙に明記した。 ⅳ 集計したデータは、刊行物作成後は、代表が保持する USB に保存し、他のメンバーのデータは削除する。代表が保持する USB は新建全国事務局にて内容を明記して保管する。		
	(2) アンケート対象となる者に理解を求め同意を求める方法		
	ⅰ 既に本アンケートについては、新建 50 周年記念事業の一環として実施することが、第 32 回全国大会で承認されている。 ⅱ 質問や疑義があった場合は、アンケート用紙に、その質問先、新建全国事務局の連絡方法、代表者氏名を明記している。		
	(3) アンケートによって生ずる個人および社会への利益並びに危険性と新建活動上の貢献の予測		
	ⅰ 本アンケート結果と分析により、新建が、新建憲章に沿って活動を展開し、さらに生活空間のよりよい方向に沿って活動し、社会に働きかける意義を明らかにすることができる。 ⅱ 新建メンバーの仕事と生活及び活動実態を把握し、メンバーが抱える困難を克服し、優れた経験を共有し普及することにつながる。 ⅲ 特に新建の 50 年の歩みと成果を踏まえ、新建の新たな段階の方向について、実態に基づき議論する素材になる。 ⅳ 生活空間に係る多様な人々の層の拡大を把握し、新たな活動を検討する契機となる。 ⅴ 本アンケートではプライバシーに係る事項があり、個人情報の保持を厳重にする必要がある。それらは上記の通りである。		

単純集計結果

Ⅰ　基礎項目

1-1 所属支部

福岡	岡山	奈良	兵庫	大阪	京都	滋賀	三重	愛知	静岡	岐阜	長野	福井	石川	富山
27	5	12	4	12	41	2	2	12	16	10	5	2	6	48

新潟	神奈川	東京	千葉	埼玉	群馬	宮城	岩手	青森	北海道	支部なし県	合計	回答なし
5	15	61	20	4	4	6	1	3	17	8	348	2

1-2 会員歴

5年未満	5年以上	10年以上	20年以上	30年以上	40年以上	不明	合計	回答なし
42	37	58	69	47	90	2	345	5

1-3 入会したきっかけ（複数回答）

新建理念に共感	新建活動(企画)に参加して	職場のつながり	研究室のつながり	会員の勧誘	新建以外の活動つながり	親、親族の勧め	建築学生運動のつながり	その他	合計	回答なし
119	106	81	14	154	29	7	35	20	565	3

1-4 現在の就労状態

している	休職中	退職した	学生・大学院生	その他	合計	回答なし
296	1	38	0	12	347	3

1-5 新建以外の建築系諸団体への加入状況（複数回答）

特にない	建築士会	建築士事務所協会	建築家協会	建設労働組合	女性建築技術者の会	建築学会	都市計画学会	マンション学会	居住福祉学会	その他	合計	回答なし
115	113	39	14	34	10	51	15	8	5	71	475	19

1-6-1 新建以外の建築諸団体で力を入れている団体（1つ目）

特にない	建築士会	建築士事務所協会	建築家協会	建設労働組合	女性建築技術者の会	建築学会	都市計画学会	マンション学会	居住福祉学会	その他	合計	回答なし
0	36	12	7	17	4	9	0	3	0	56	144	

1-6-2 新建以外の建築諸団体で力を入れている団体（2つ目）

特にない	建築士会	建築士事務所協会	建築家協会	建設労働組合	女性建築技術者の会	建築学会	都市計画学会	マンション学会	居住福祉学会	その他	合計	回答なし
0	11	7	4	6	0	7	1	1	1	28	66	

1-6-3 新建以外の建築諸団体で力を入れている団体（3つ目）

特にない	建築士会	建築士事務所協会	建築家協会	建設労働組合	女性建築技術者の会	建築学会	都市計画学会	マンション学会	居住福祉学会	その他	合計	回答なし
0	2	1	0	2	0	2	0	1	1	22	31	

1-7 建築諸団体での活動状況（複数回答）

特に何もしていない	団体役員である	委員である	イベント・活動などの企画	イベント・活動などに参加	その他	合計	回答なし
49	69	59	36	64	11	288	136

1-8 所持資格（複数回答）

特にない	技術士	一級建築士	二級建築士	木造建築士	構造設計一級建築士	設備設計一級建築士	建築施工管理技士	マンション管理士
38	11	233	62	1	9	3	30	3
不動産鑑定士	宅地建物取引士	土地家屋調査士	建築設備士	インテリアコーディネーター	インテリアプランナー	増改築相談員	福祉住環境コーディネーター	特殊建築物等調査資格者
0	23	4	3	11	15	13	39	9
被災建物応急危険度判定士	被災宅地危険度判定士	木造住宅耐震診断士	ヘリテージマネージャー	既存住宅状況調査技術者	その他	合計	回答なし	
82	15	44	24	55	42	769	5	

1-9 職種（元職含む）（複数回答）

意匠設計	構造設計	設備設計	コンサルタント	都市計画	施工管理	大工職人	その他の施工技術者
209	19	8	45	24	56	13	13
研究職・教育職	行政関係職	営業職	事務職	その他	合計	回答なし	
40	22	27	18	27	521	8	

1-10 所属（元職含む）（複数回答）

なし	設計事務所	工務店	ゼネコン	メーカー	大学などの教育機関	国・自治体	特定非営利活動法人	不動産	その他	合計	回答なし
36	189	44	10	7	19	8	21	6	38	378	17

Ⅱ　仕事と労働環境

2-1 通勤時間

0分	30分未満	1時間未満	1時間半未満	2時間未満	2時間以上	合計	回答なし
81	139	64	20	3	2	309	41

2-2 対象とする主な建物用途（複数回答）

建築の仕事ではない	戸建て住宅	長屋・集合住宅	事務所	商業施設	福祉施設	医療施設	その他	合計	回答なし
39	202	80	83	86	96	51	53	690	47

2-3 職場の組織形態

株式会社	有限会社	企業組合	特定非営利活動法人	社団・財団・その他の法人	個人事業主	その他	合計	回答なし
119	32	12	9	16	101	19	308	42

2-4 職場の人数（役員、所長も含める）

1人	2～5人	6～20人未満	20～100人未満	100人以上	合計	回答なし
80	103	63	33	29	308	42

2-5 雇用形態

個人事業主	経営者	正規職員	非正規職員	アルバイト	その他	合計	回答なし
100	90	82	12	5	17	306	44

2-6 週平均の実労働時間

30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50～65時間未満	65時間以上	その他	合計	回答なし
33	57	101	76	33	6	306	44

2-7 ワーク＆ライフバランス
労働と余暇・家庭生活時間のバランス

バランスがいい	もう少し余暇時間や家庭生活時間がほしい	余暇時間や家庭生活時間がほとんどない	もう少し労働時間を確保したい	その他	合計	回答なし
153	93	26	14	16	302	48

2-8 仕事の喜びやりがい

大いに感じる	まあまあ感じる	普通	あまり感じない	全く感じない	仕事による	その他	合計	回答なし
94	140	55	7	3	5	5	309	41

2-9 仕事にやりがいを感じる時（複数回答）

依頼者に喜んでもらえ､役に立っていることが直接感じられる	仕事をすることで社会的貢献を感じられる	自分が考える満足いく報酬が得られる	自分の技術やスキルが発揮できる	所属する組織の役に立っている	その他	合計	回答なし
241	159	31	150	44	10	635	47

2-10 仕事にやりがいを感じない時（複数回答）

仕事をしている割には報酬が満足に得られない	依頼者や社会のために役立っていると感じられない	自分の信念に反する仕事だから	所属する組織にとって役立っていると思えない	その他	合計	回答なし
119	68	52	19	40	298	125

2-11 最近の仕事量

かなり多い	少し多い	ちょうど良い	少し足りない	とても少ない	その他	合計	回答なし
38	86	88	68	21	6	307	43

2-12 仕事量への対処方法

現状のままでよい	仕事量を減らしたい	仕事の内容を問わず仕事量を増やしたい	やりがいのある仕事を増やしたい	仕事の内容や量よりも社会に貢献できる仕事をしたい	その他	合計	回答なし
93	39	15	115	20	19	301	49

2-13 仕事に困っていること（複数回答）

報酬あるいは賃金が低い	工期が短く業務に時間が思うようにかけられない	仕事の受注が困難・不安定	コンペや見積提出などで選定されることがある	仕事時間が長い、不規則である	人手が足りない	職場や業者との人間関係	お客さんとのトラブル	その他	合計	回答なし
106	50	117	17	53	60	25	18	48	494	71

2-14 パワハラやセクハラの経験（複数回答）

特にない	職場で受けた	現場や関連業者から受けた	職場で年齢による差別を受けた	妊娠・出産・育休・介護休暇などで受けた	その他	合計	回答なし
245	27	22	4	2	18	318	49

2-15 産前産後休暇制度の有無

あるので取れる	あるが取れない	知らない	明文化されていないが融通が利く	その他	合計	回答なし
84	12	19	109	29	253	97

2-16 育児休暇制度の有無

あるので取れる	あるが取れない	ない	知らない	明文化されていないが融通が利く	その他	合計	回答なし
79	11	23	21	99	22	255	95

2-17 介護休暇制度の有無

あるので取れる	あるが取れない	ない	知らない	明文化されていないが融通が利く	その他	合計	回答なし
62	6	44	28	105	20	265	85

2-18 その他の支援策（複数回答）

特にない	在宅勤務	フレックスタイム	短時間勤務	その他	合計	回答なし
145	69	65	62	23	364	82

Ⅲ　家族・家庭生活

3-1 家族形態

単身	夫婦／カップルのみ	夫婦／カップルと子ども	自分と子ども	自分と親	夫婦／カップルと親	三世代家族	その他	合計	回答なし
44	113	126	2	13	14	26	7	345	5

3-2 ペットの飼育（複数回答）

飼っていない	犬	猫	その他	合計	回答なし
284	22	35	12	353	7

3-3 家族の人数

1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	合計	回答なし
42	124	78	61	23	9	6	2	345	5

3-4 同居する子ども（複数回答）

いない	就学前の子どもがいる	小学生以上の子どもがいる	就労している子どもがいる	その他	合計	回答なし
195	20	62	69	9	355	7

3-5 介護をしている家族の有無

いない	同居している家族にいる	いるが、同居していない	その他	合計	回答なし
282	19	39	4	344	6

3-6（1）家事に費やす時間（平日）

30分未満	1時間程度	1.5時間程度	2時間程度	2.5時間程度	3時間以上	合計	回答なし
129	99	38	35	14	22	337	13

3-6（2）家事に費やす時間（休日）

30分未満	1時間程度	1.5時間程度	2時間程度	2.5時間程度	3時間以上	合計	回答なし
83	85	33	53	21	48	323	27

3-7 負担に感じる家事（複数回答）

特にない	買い物	調理	洗濯	掃除／片付け	育児	介護	庭の手入れ	その他	合計	回答なし
203	38	45	34	93	18	28	53	12	524	8

3-8 自分の仕事にプラスになると感じる家事（複数回答）

特にない	育児	介護	調理や食事	その他	合計	回答なし
158	66	37	133	34	428	19

3-9 趣味について（複数回答）

特にない	読書	散歩	映画鑑賞	音楽鑑賞	楽器演奏	合唱・声楽	絵画	スポーツ・スポーツ観戦	囲碁・将棋	登山	旅行	その他	合計	回答なし
35	143	88	106	105	49	12	30	102	18	45	127	69	929	7

3-10 趣味が仕事の役に立つことはあるか

特にない	ある	その他	合計	回答なし
143	192	5	340	10

Ⅳ　地域活動・社会貢献

4-1 地域活動、社会貢献活動

参加していない ⇒Q4-4へ	参加している	合計	回答なし
121	225	346	4

4-2 地域・社会貢献活動の内訳（複数回答）

自治会・町内会関係	マンション管理組合	子ども関係	高齢者関係	障害者関係	環境にかかわる活動	新建以外の災害支援関係
116	40	36	38	25	38	26

文化、スポーツ関係	まちづくり関係	その他のボランティア	その他	合計	回答なし
33	91	37	34	514	121

4-3 もっとも参加している活動

月に4回以上	月に2、3回	月に1回程度	その他	合計	回答なし
47	67	85	20	219	131

4-4 近所付き合いの深さ

親しい人がいる	挨拶程度の人だけ	あまり親しい人はいない	その他	合計	回答なし
188	122	31	2	343	7

4-5 助け合える人の存在

助け合える人がいる	助け合える人はいない	その他	合計	回答なし
244	84	15	343	7

4-6 地域での専門的相談の有無

よくある	たまにある	特にない	その他	合計	回答なし
41	181	118	3	343	7

V　新建について

5-1 新建はどんな存在か（複数回答）

同じ志（憲章を介して）が集まる場	技術交流の場	社会に目を向ける場	職能を考える場	話し（飲み）相手がいる場	刺激を得る場	協同で仕事する場	地域で役立つ仕事を知る場	復興支援活動その他の社会貢献を行う場	その他	合計	回答なし
182	146	186	122	143	136	30	61	55	18	1079	8

5-2 新建に入ってよかったか

とてもよかった	よかった	まあまあよかった	あまりよくない	よくない	その他	合計	回答なし
101	142	90	3	2	6	344	6

5-3 新建に入ってよかったと思うこと（複数回答）

特にない	尊敬できる人や憧れの人と交流できる	関心のある企画に参加できる	自分の仕事や実践を発表できる機会がある	年齢を超えて、知り合いがたくさんできる	悩みや迷っていることを相談できる
12	160	185	65	226	76

色々な地域へ行く・地域の仕事を知ることができる	企画などの参加費が安い	その他	合計	回答なし
110	33	26	893	9

5-4 新建に入って影響を受けたこと（複数回答）

特にない	仕事の取り組み方が変わった	自分の実践や考えを発信する機会が増えた	視野が広がった	専門的知識が増えた	まちづくりに対する関心が強くなった
25	85	62	218	101	119
人との交流が増えた	若い人に自分の考えを伝えたいと思うようになった	仕事を社会とのつながりで考えるようになった	その他	合計	回答なし
160	25	118	8	921	7

5-5 運営への参加状況（複数回答）

参加したことはない	参加したくても忙しくて参加できない	幹事	事務局	会計	企画などの準備	『建まち』編集・寄稿	支部ニュース	情報・連絡係	他団体と結ぶ役割	その他	合計	回答なし
81	13	159	64	40	160	132	124	40	43	7	863	6

5-6 企画への参加状況（複数回答）

参加したことはない	参加したくても忙しくて参加できない	全国企画の建まちセミナーなど	ブロック会議・ブロックセミナー	支部企画の例会・勉強会	支部の見学会・講演会など	支部懇親会・交流会
24	9	218	104	230	232	224
実践報告会<仕事を語る会>	各種相談会	その他の研究会	その他	合計	回答なし	
155	32	55	8	1291	3	

5-7 新建活動についての悩み（複数回答）

特にない	多忙で参加できない	他団体との交流について	勉強会などの講師がいない	参加しにくい雰囲気がある	もっと声かけしてほしい	会費が高い	役員などで時間がとられる	その他	合計	回答なし
181	65	20	10	6	6	27	16	47	378	15

5-8 社会情勢や悩みを話す人がいるか

いる	欲しいが見つからない	必要を感じない	その他	合計	回答なし
258	28	33	11	330	20

5-10 『建まち』誌の読まれ方（複数回答）

毎号全部	関心のある記事や特集	ひろば	主張	表紙・裏表紙の裏連載	その他の連載	「忙中閑」	あまり読まない	その他	合計	回答なし
27	241	52	52	49	19	31	85	7	563	9

5-12 『建まち』誌の評価

非常によい	まあまあよい	普通	改善が必要	その他	合計	回答なし
76	132	73	22	13	316	34

5-13 『建まち』誌に対する要望（複数回答）

おおむね今のままでよい	実践例をもっと多く	記事内容をもう少しわかりやすく	カラー化	大判（A4）に	電子書籍にする	その他	合計	回答なし
139	73	65	24	22	47	33	403	46

5-14 新建ホームページについて

頻繁に見る	必要に応じて見る	あまり見ない	見たことがない	合計	回答なし
0	89	176	73	338	12

5-15 新建のホームページへの意見（複数回答）

特にない	今のままでよい	トップページを見やすい構成に変えてほしい	お知らせだけではなく報告も充実してほしい	更新回数を増やしてほしい	支部のページを充実してほしい	その他	合計	回答なし
184	23	18	39	18	22	22	326	61

Ⅵ　新建の未来に向けて

6-1-1 新建で取り組みたい・強化したいテーマ（複数回答）

特にない	地元の木を使った建築	地域にねざした住まいやまちづくりの推進	環境共生型住まいやまちづくりの推進	日本や地域の伝統工法	住宅政策・居住支援	環境破壊防止	社会貢献的な活動
62	81	175	108	76	83	70	75
学生や若手の人への働きかけ	**仕事拡大や協同化**	**建築技術者の職能・報酬の底上げ**	**女性会員を増やす**	**他職域の会員を増やす**	**その他**	**合計**	**回答なし**
68	45	62	34	37	25	1001	12

6-1-2 Q6-1-1のうち、最も必要な内容

特にない	地元の木を使った建築	地域にねざした住まいやまちづくりの推進	環境共生型住まいやまちづくりの推進	日本や地域の伝統工法	住宅政策・居住支援	環境破壊防止	社会貢献的な活動
0	7	89	32	10	24	10	19
学生や若手の人への働きかけ	**仕事拡大や協同化**	**建築技術者の職能・報酬の底上げ**	**女性会員を増やす**	**他職域の会員を増やす**	**その他**	**合計**	**回答なし**
21	6	14	2	3	8	245	105

6-2 「新建の良さ」をどのように伝えているか（複数回答可）

建まち誌の案内	全国企画への案内	支部企画・勉強会などへの案内	憲章を説明する	新建運動を語る	新建活動を語る	その他	合計	回答なし
76	51	149	14	27	53	40	410	82

6-3 活発で充実した活動のために望むこと（複数回答）

特にない	気軽に参加できる企画や雰囲気	気軽に意見できる仕組み	幹事会運営の内容を知りたい	全国の会員の活動を知りたい・つながりたい	ホームページやSNSの充実	オンラインを活用した会議や研究会など	楽しい企画の充実	仕事の糧となる勉強会	新建会員での仕事の作り方
62	163	73	4	55	60	68	91	102	40
新建全国大会の改善	**全国研究集会の改善**	**建まちセミナーの改善**	**ブロック企画の充実**	**新建学校の開催**	**会費を検討する**	**その他**	**合計**		**回答なし**
13	18	17	26	33	25	27	877		15

6-4 新建活動でかわりたいこと（複数回答）

特にない	全国企画	支部企画	建まち誌の編集委員	他業種や他団体との橋渡し	新建学校	相談業務	ホームページやSNS発信	その他	合計	回答なし
160	26	107	10	29	22	23	14	11	402	26

6-5 仕事・活動をしていきたい人たち（複数回答）

建築士	工務店	職人	自治体関係者	弁護士	大学教員・研究者	学生・大学院生	福祉関係者	医療関係者	その他	合計	回答なし
155	121	148	86	51	90	79	105	68	37	940	56

6-6 建築・まちづくり業界に期待すること（複数回答）

中小工務店などの町場仕事の継続・発展	下請け業者への適正な報酬	行き過ぎた利益追求の是正	建築士の報酬の改善	行政手続きの改善	大規模（再）開発の抑制
208	91	88	106	95	108

偽造・捏造などの不公正をなくす	低炭素社会に向けての取り組み	その他	合計	回答なし
77	117	22	912	33

6-7 建築を志す人に学んでほしいこと（複数回答）

建築以外の文学・芸術・社会などについて	建築思想や倫理	住む人・使う人の権利	住民主体の住まいとまちづくり	社会や建築業界の現状	日本や海外の住まいとまちづくり
171	115	119	164	101	89

住まいとまちづくりの実践	IT 技術	その他	合計	回答なし
106	38	25	928	23

Ⅶ　会員自身のこと

7-1 年齢

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計	回答なし
2	20	56	66	109	85	8	346	4

7-2 性別

男性	女性	その他	合計	回答なし
275	66	0	341	9

7-3 年収（税込）

200万円未満	～400万円未満	～700万円未満	～1000万円未満	1000万以上	合計	回答なし
39	148	106	29	9	331	19

7-4 現在の収入源（複数回答）

事業主報酬	給料	年金	その他	合計	回答なし
147	152	121	18	438	8

7-5 住まい

一戸建て持家	一戸建て借家	分譲マンション	賃貸住宅	高齢者住宅・施設	その他	合計	回答なし
218	9	60	47	0	9	343	7

7-6
居住年数

1年未満	5年未満	10年未満	20年未満	20年以上	合計	回答なし
8	48	47	61	180	344	6

7-7
心身の健康状態

おおむね問題ない	やや問題あり	大いに問題あり	その他	合計	回答なし
245	76	15	4	340	10

執筆
アンケートワーキンググループ

永井　幸　1章・5章／代表
川本真澄　3章
桜井郁子　8章
高田桂子　2章
甫立浩一　6章
三浦史郎　6章・7章
中島明子　はじめに・4章・自由回答に寄せられた声／アドバイザー

新建築家技術者集団50周年
未来への会員アンケート　新建白書2020　建築とまちづくり2021年11月号　臨時増刊(513)

発行日：2021年11月21日
執筆・編集：アンケートワーキンググループ
発　行：新建築家技術者集団
〒162-0811
東京都新宿区水道町2-8長島ビル2F
tel　03-3260-9800
fax　03-3260-9811
https://www.shinken-nuae.com
shinken@tokyo.email.ne.jp
印　刷：(株)きかんし

建築とまちづくり　2021.11　1981年8月18日第3種郵便物認可　2021年11月21日発行 11月号臨時増刊（毎月1回1日発行）第513号　定価750円（年間購読7800円）